

2 調査結果の詳細

① あなたご自身について

問1 この調査票を記入されるのはどなたですか。(1つに○)

単位：人

選 択 肢	全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能	児童	無回答
1 本人	112	27	18	67	14	5	4	0
2 家族や介助者（本人に聞きながら代わりに記入）	84	34	39	14	19	3	20	0
3 家族や介助者（本人の意見を聞くことが難しいため、本人の状況から判断して記入）	89	22	67	10	23	6	22	0
4 その他	1	1	0	0	0	0	0	0
無回答	6	2	3	0	1	0	1	0
合計	292	86	127	91	57	14	47	0

有効回答数：292

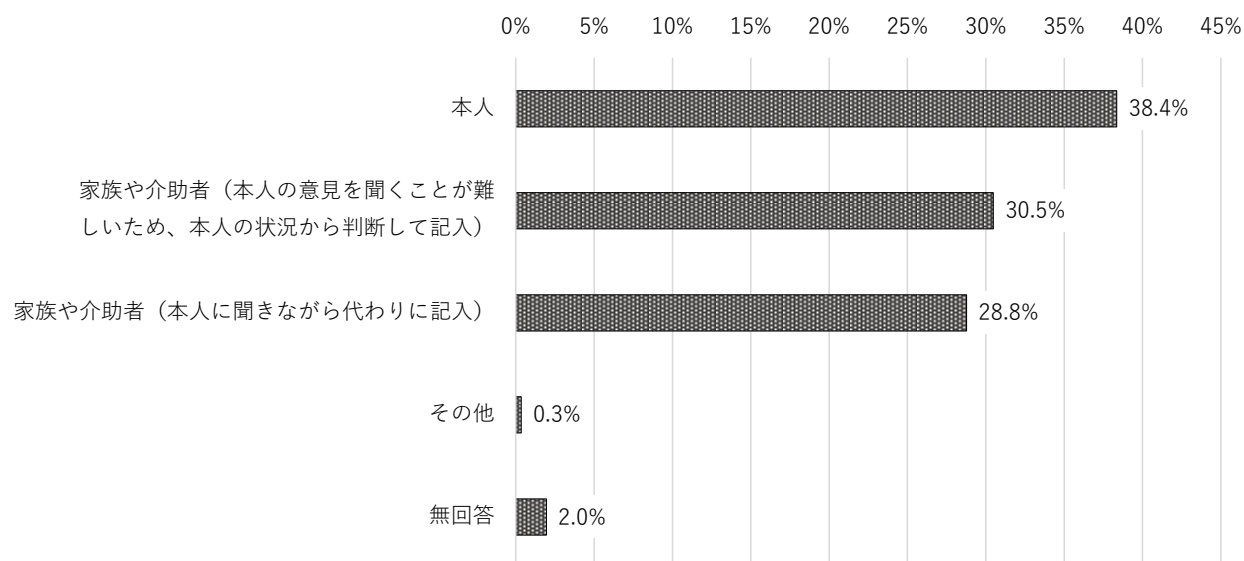
「1 本人」が最も多くなっています。

なお、「1 本人」、「2 家族や介助者（本人に聞きながら代わりに記入）」の合計が全体の約 70 %を占めていることから、本人の意見や意思が調査結果に反映されていると推測されます。

■主な「その他」の記載

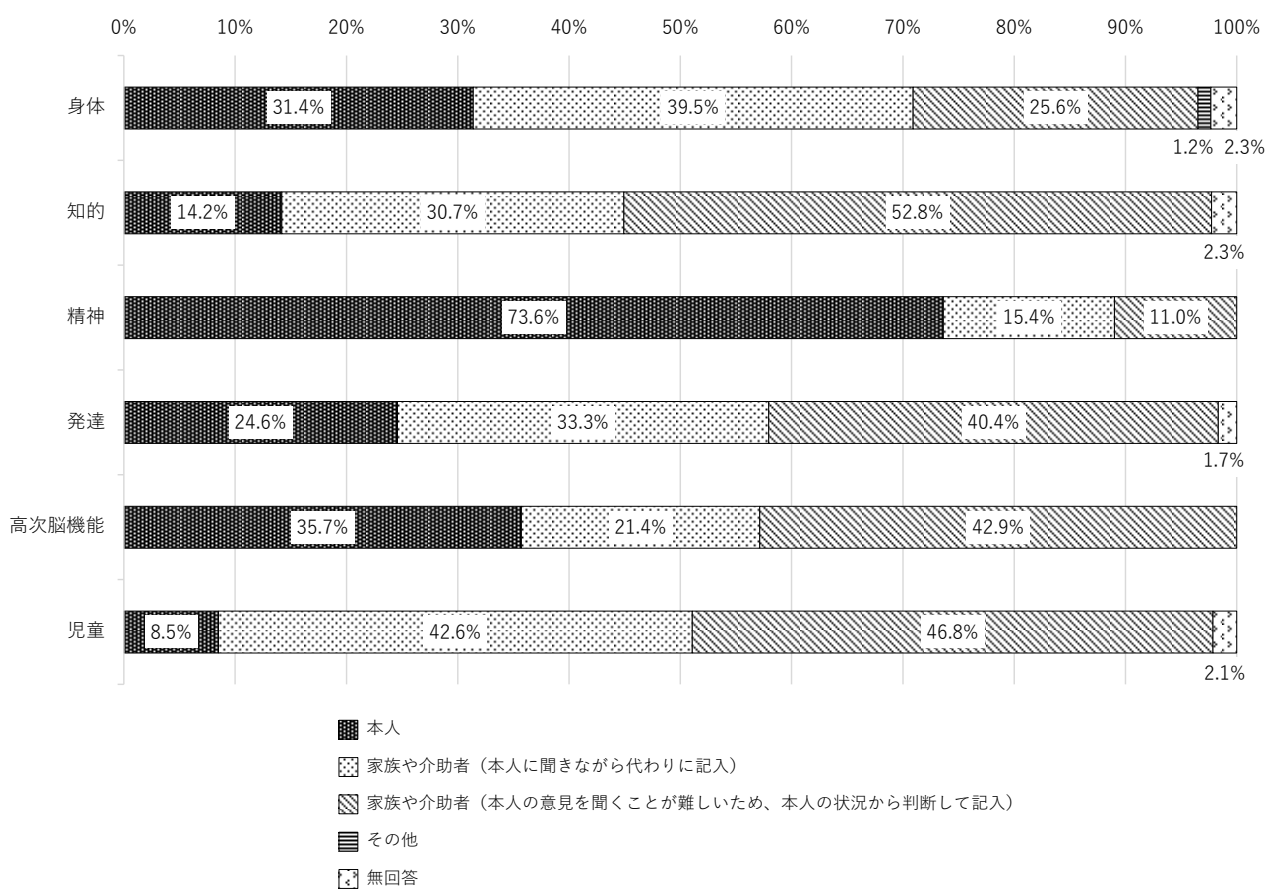
- ・「成年後見人」

■全体に対する選択肢ごとの割合



「1 本人」が最も多くなっています。

■障害種別ごとの割合



全体に対する「1 本人」の割合である 38.5%を上回っているのは、「精神」のみです。

「知的」については、約半分にあたる 52.8%が、「3 家屋や介助者（本人の意見を聞くことが難しいため、本人の状況から判断して記入）」となっています。

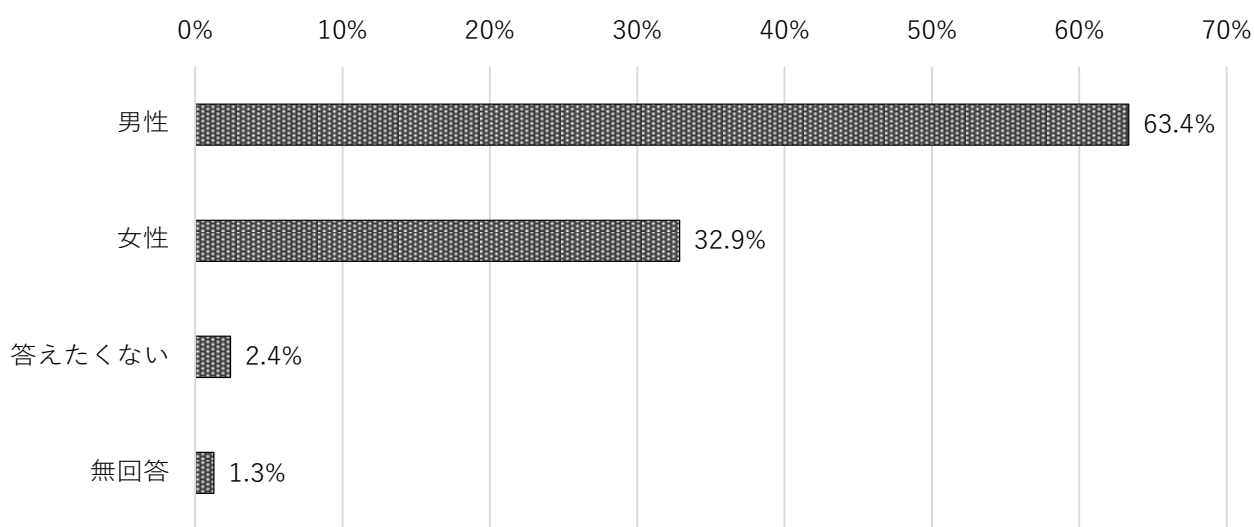
問2 あなたの性別はどちらですか。(1つに○)

単位：人

選 択 肢	全体	身体	知的	精神	発達	高次脳 機能	児童	無回答
1 男性	185	55	83	54	38	11	36	0
2 女性	96	30	43	31	18	3	10	0
3 答えたくない	7	0	0	6	1	0	1	0
無回答	4	1	1	0	0	0	0	0
合計	292	86	127	91	57	14	47	0

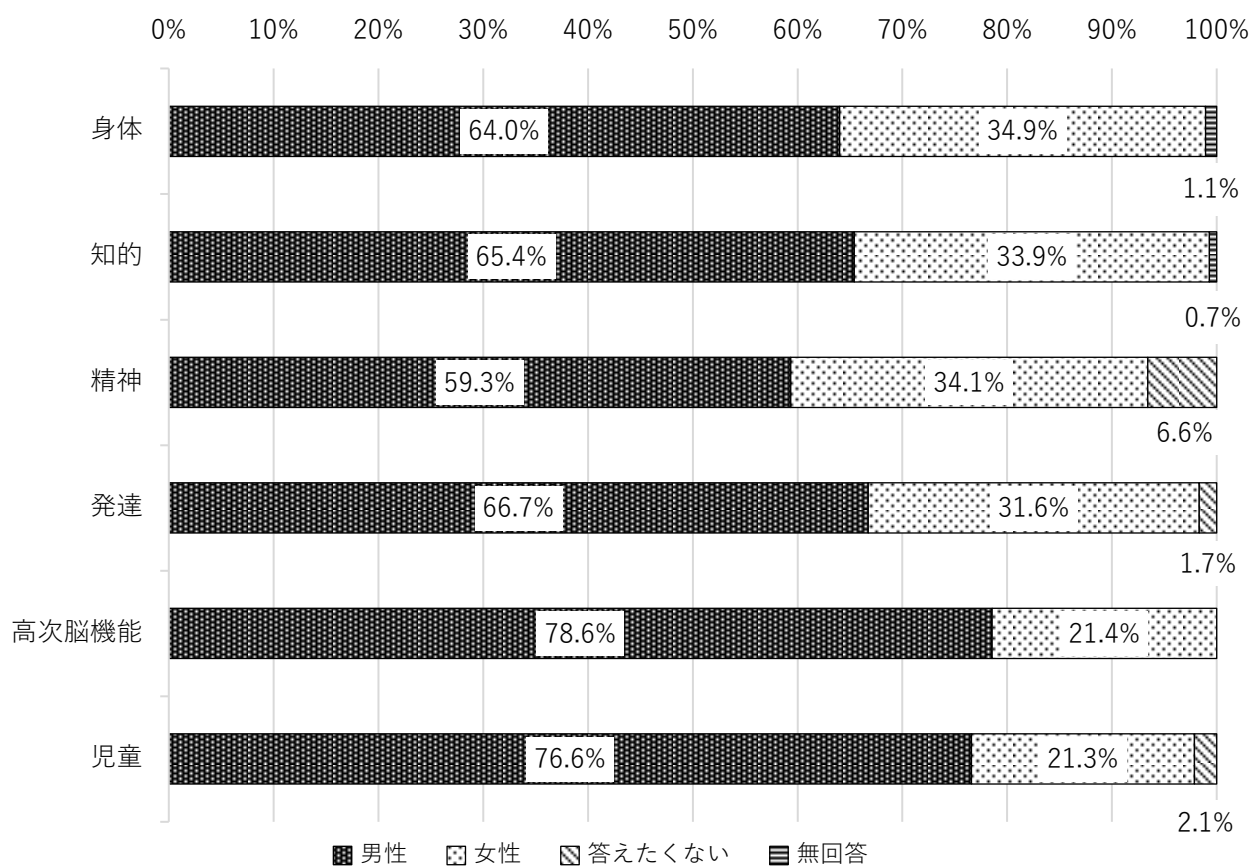
有効回答数：292

■全体に対する選択肢ごとの割合



男性が約6割、女性が約3割で男女構成比は2：1となっています。

■障害種別ごとの割合



いずれの障害においても男性が女性を上回っており、中でも「高次脳機能」は約8割が「男性」となっています。

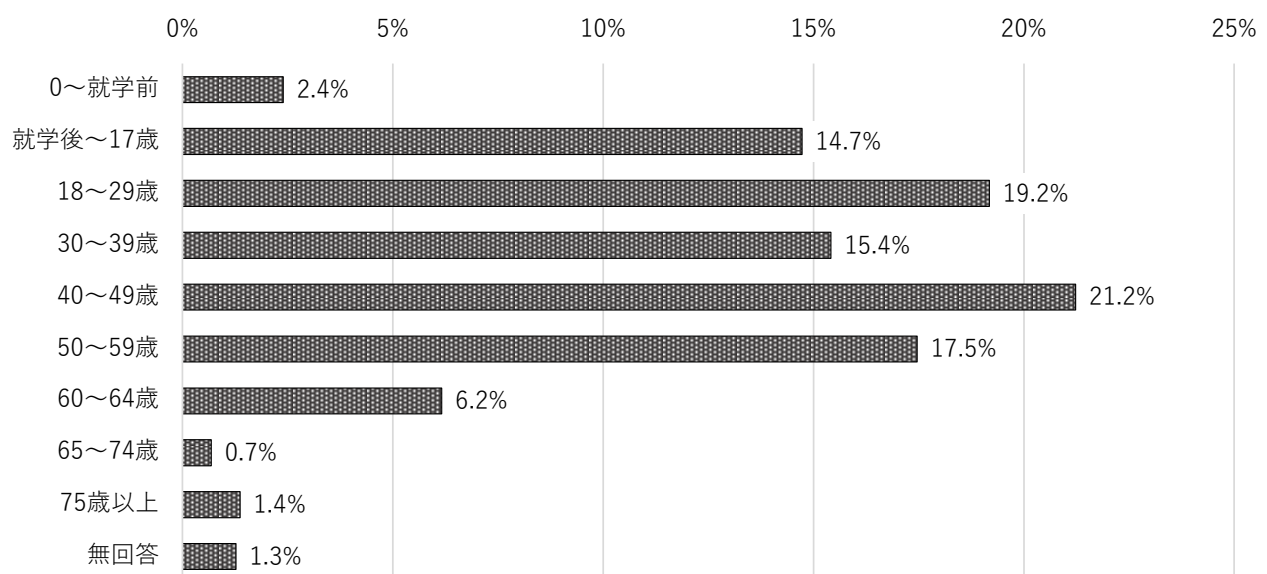
問3 令和6年1月1日現在の、あなたの年齢はいくつですか。
(1つに○)

単位：人

選 択 肢	全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能	無回答
1 0～就学前	7	0	2	0	6	0	0
2 就学後～17歳	43	4	21	1	25	0	0
3 18～29歳	56	13	36	14	19	2	0
4 30～39歳	45	12	23	18	3	2	0
5 40～49歳	62	21	26	25	3	4	0
6 50～59歳	51	24	13	24	0	4	0
7 60～64歳	18	9	1	9	0	2	0
8 65～74歳	2	0	2	0	1	0	0
9 75歳以上	4	2	3	0	0	0	0
無回答	4	1	0	0	0	0	0
合計	292	86	127	91	57	14	0

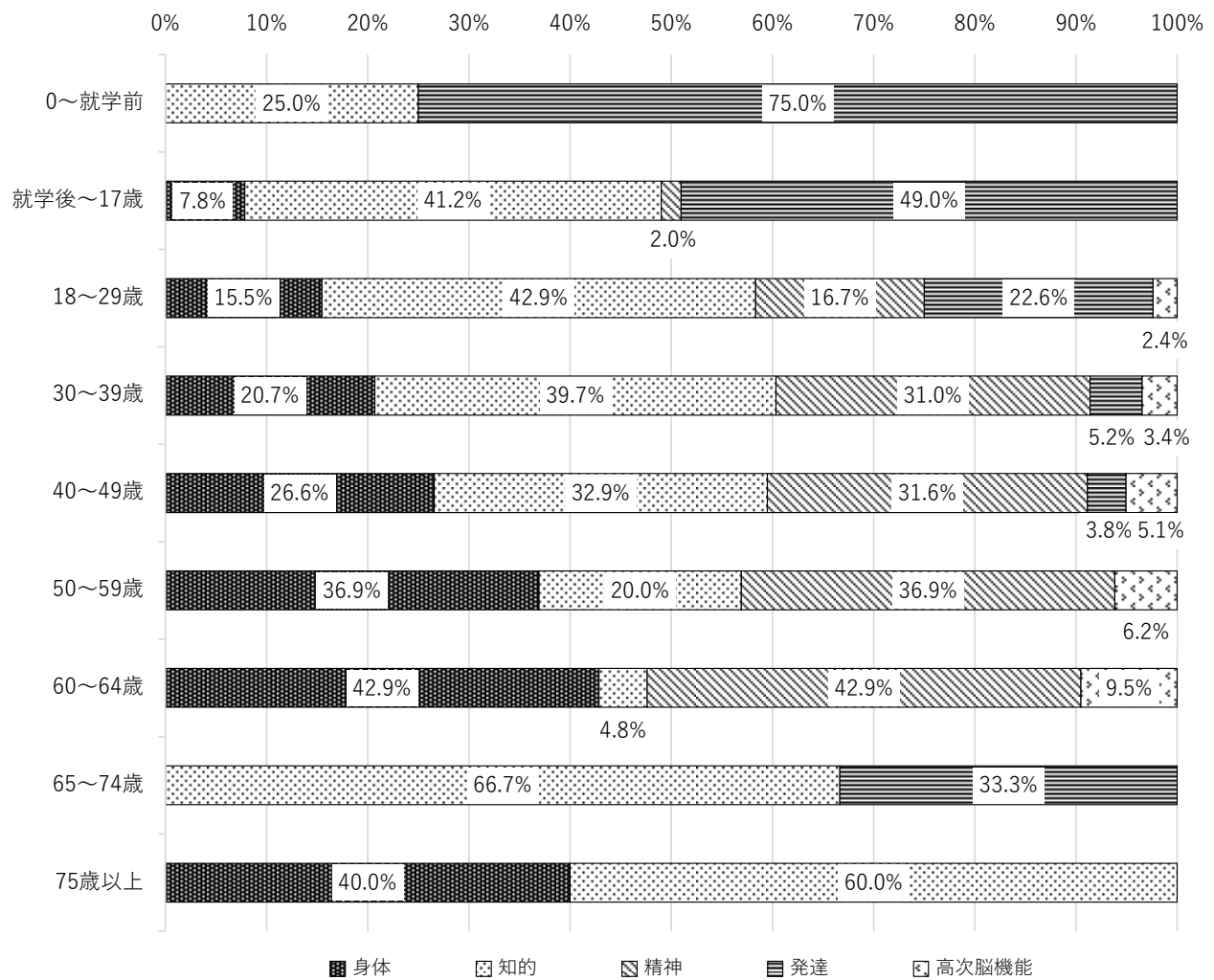
有効回答数：292

■全体に対する選択肢ごとの割合



「40～49歳」が最も多く2割を超えています。次いで、「18～29歳」、「50～59歳」が多くなっています。

■障害種別ごとの割合



年齢階層ごとの障害種別の割合では、「身体」は「60～64 歳」が最も多く、4 割を超えています。「知的」は、65 歳以上が多く占めています。「精神」は、「60 歳～64 歳」が多く占めています。「発達」は、0 歳から就学前が多くを占め、7 割半ばとなっています。

「高次脳機能」は、「60～64 歳」が最も多く、1 割となっています。

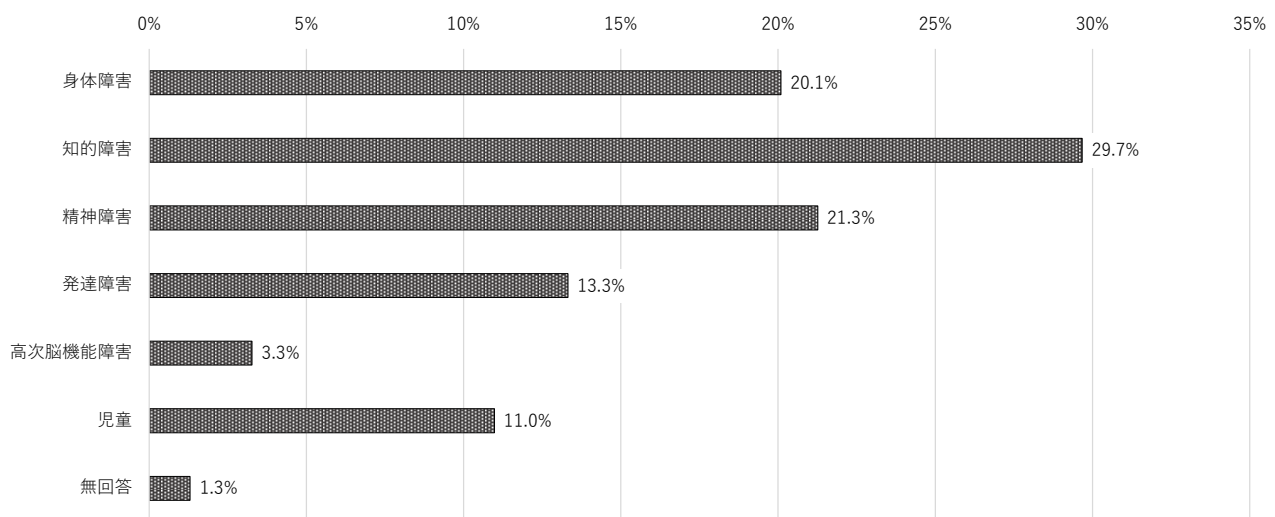
問4 あなたの障害は次のうちどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

単位：人

選択肢	全体	0～就学前	就学後～17歳	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～74歳	75歳以上	無回答
1 身体障害	86	0	4	13	12	21	24	9	0	2	1
2 知的障害	127	2	21	36	23	26	13	1	2	3	0
3 精神障害	91	0	1	14	18	25	24	9	0	0	0
4 発達障害	57	6	25	19	3	3	0	0	1	0	0
5 高次脳機能障害	14	0	0	2	2	4	4	2	0	0	0
児童	47	7	40	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答	6	0	2	1	0	0	0	0	0	0	3
合計	428	15	93	85	58	79	65	21	3	5	4

有効回答数：292

■全体に対する選択肢ごとの割合



「2 知的障害」が最も多く3割近くとなっています。次いで、「3 精神障害」、「1 身体障害」、「4 発達障害」の順になっています。

問 4 で「1.身体障害」と答えた方におたずねします。

問 5-1 (1) あなたにはどの障害がありますか。

(あてはまるものすべてに○)

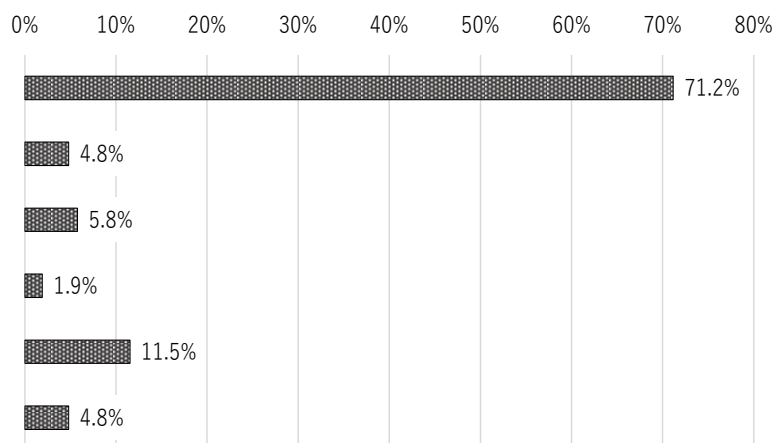
■全体に対する選択肢ごとの割合

割合は有効回答数に対する選択肢が占める数値

単位：人

選 択 肢	全 体
1 肢体不自由	74
2 内部障害	5
3 視覚障害	6
4 聴覚障害	2
5 音声・言語障害	12
無回答	5
合 計	104

有効回答数：86



「1 肢体不自由」が最も多く、7割を超えています。次いで、「5 音声・言語障害」となっています。

問 4 で「1.身体障害」と答えた方におたずねします。

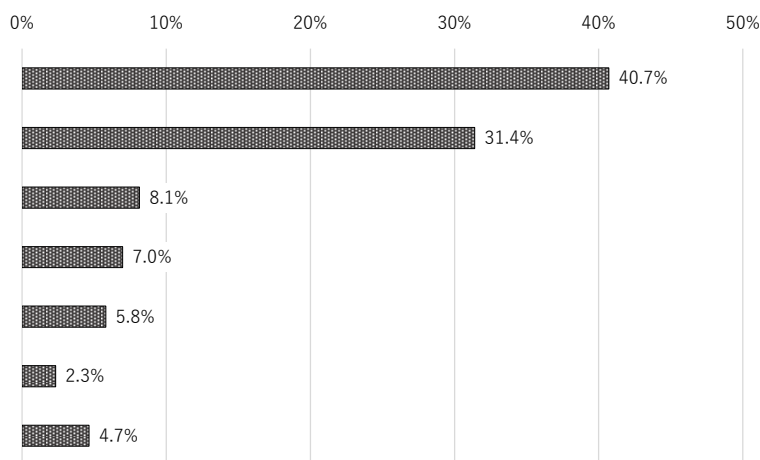
問 5-1 (2) 「身体障害者手帳」の等級はどれですか。(1 つに○)

■全体に対する選択肢ごとの割合

単位：人

選 択 肢	全 体
1 1級	35
2 2級	27
3 3級	7
4 4級	5
5 5級	6
6 6級	2
無回答	4
合 計	86

有効回答数：86



「1 級」が最も多く、4割を超えています。次いで「2 級」となっています。

問 4 で「2.知的障害」と答えた方におたずねします。

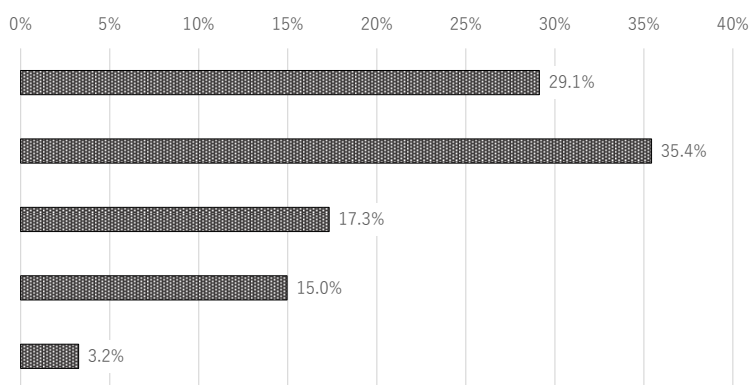
問 5-2 「療育手帳」の等級はどれですか。(1 つに○)

■全体に対する選択肢ごとの割合

単位：人

選 択 肢	全体
1 A1	37
2 A2	45
3 B1	22
4 B2	19
無回答	4
合計	127

有効回答数：127



「A2」が最も多く、3割半ばとなっています。次いで「A1」が約3割となっています。

問 4 で「3.精神障害」と答えた方におたずねします。

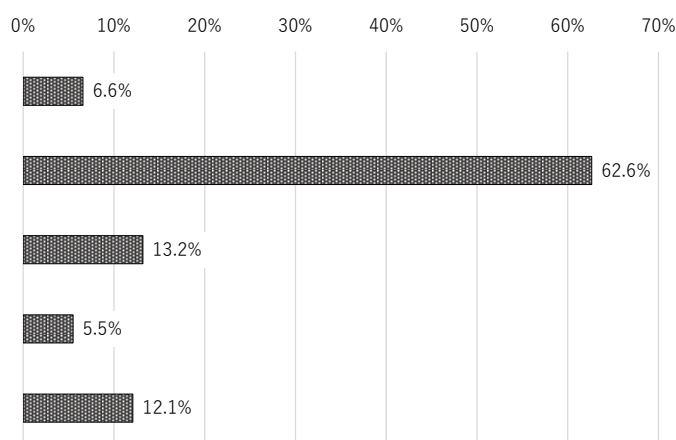
問 5-3 (1) 「精神障害者保険福祉手帳」の等級はどれですか。
(1 つに○)

■全体に対する選択肢ごとの割合

単位：人

選 択 肢	全体
1 1級	6
2 2級	57
3 3級	12
4 持っていない	5
無回答	11
合計	91

有効回答数：91



「2級」が最も多く、6割を超えています。

問 4 で「3.精神障害」と答えた方におたずねします。

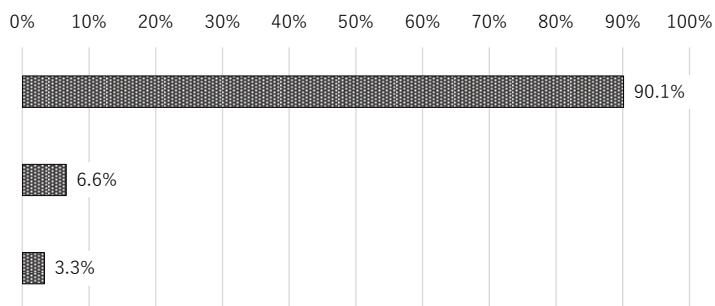
問 5-3 (2) 「自立支援医療受給者証」をお持ちですか。(1 つに○)

■全体に対する選択肢ごとの割合

単位：人

選 択 肢	全 体
1 はい	82
2 いいえ	6
無回答	3
合 計	91

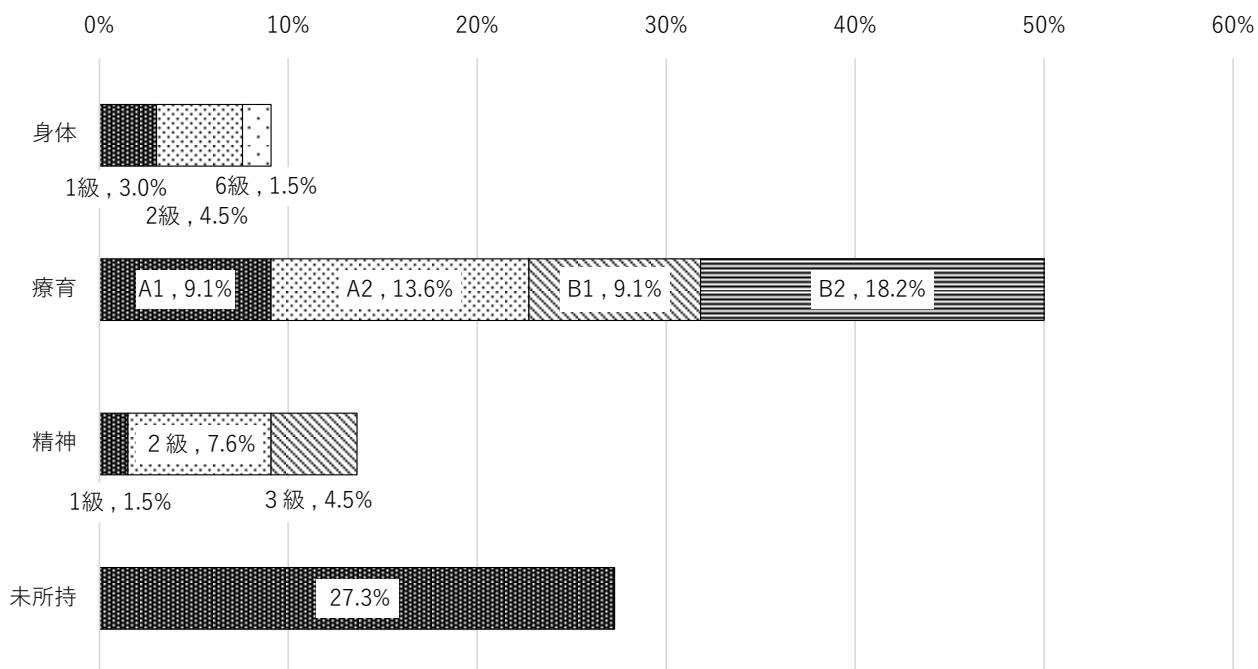
有効回答数：91



「2 はい」が9割を超えています。

問 4 で「4.発達障害」と答えた方におたずねします。

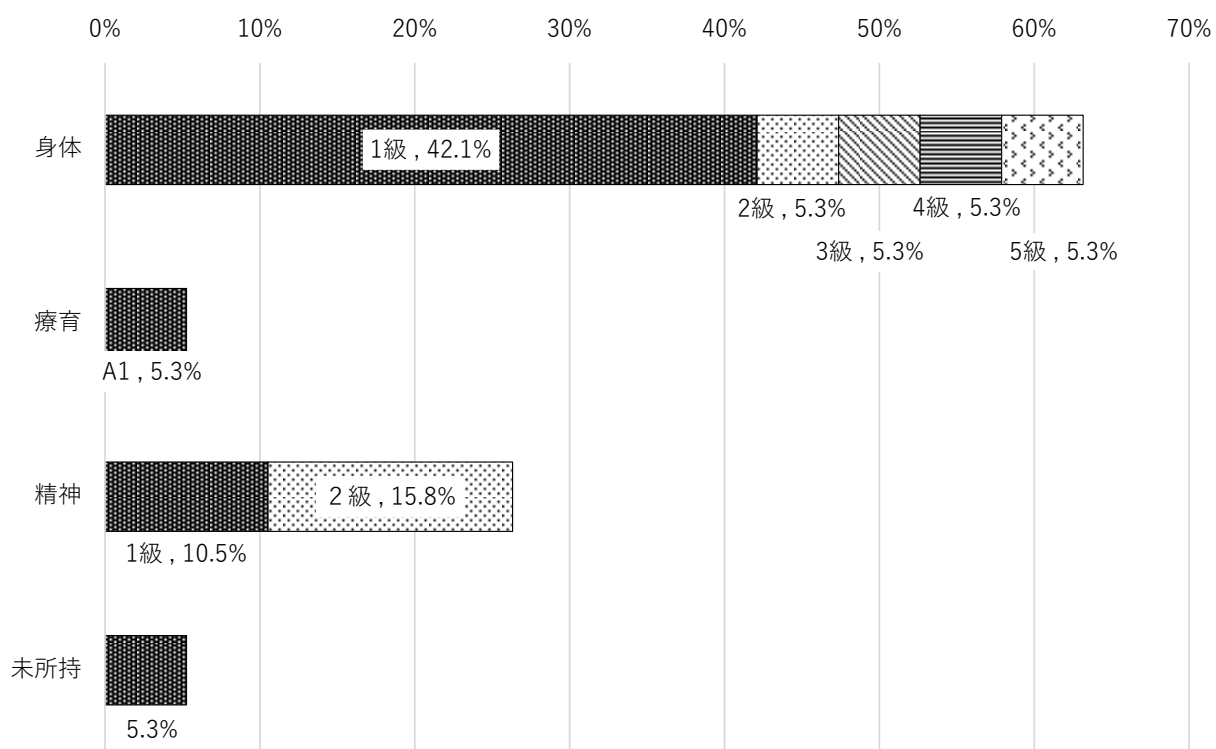
問 5-4 どの手帳をお持ちですか。手帳の等級もあわせてお答えください。(あてはまるものすべてに○)



「療育手帳」を取得している方が最も多く、次いで、「持っていない（未所持）」となっています。

問 4 で「5.高次脳機能障害」と答えた方におたずねします。

問 5-5 どの手帳をお持ちですか。手帳の等級もあわせてお答えください。（あてはまるものすべてに○）

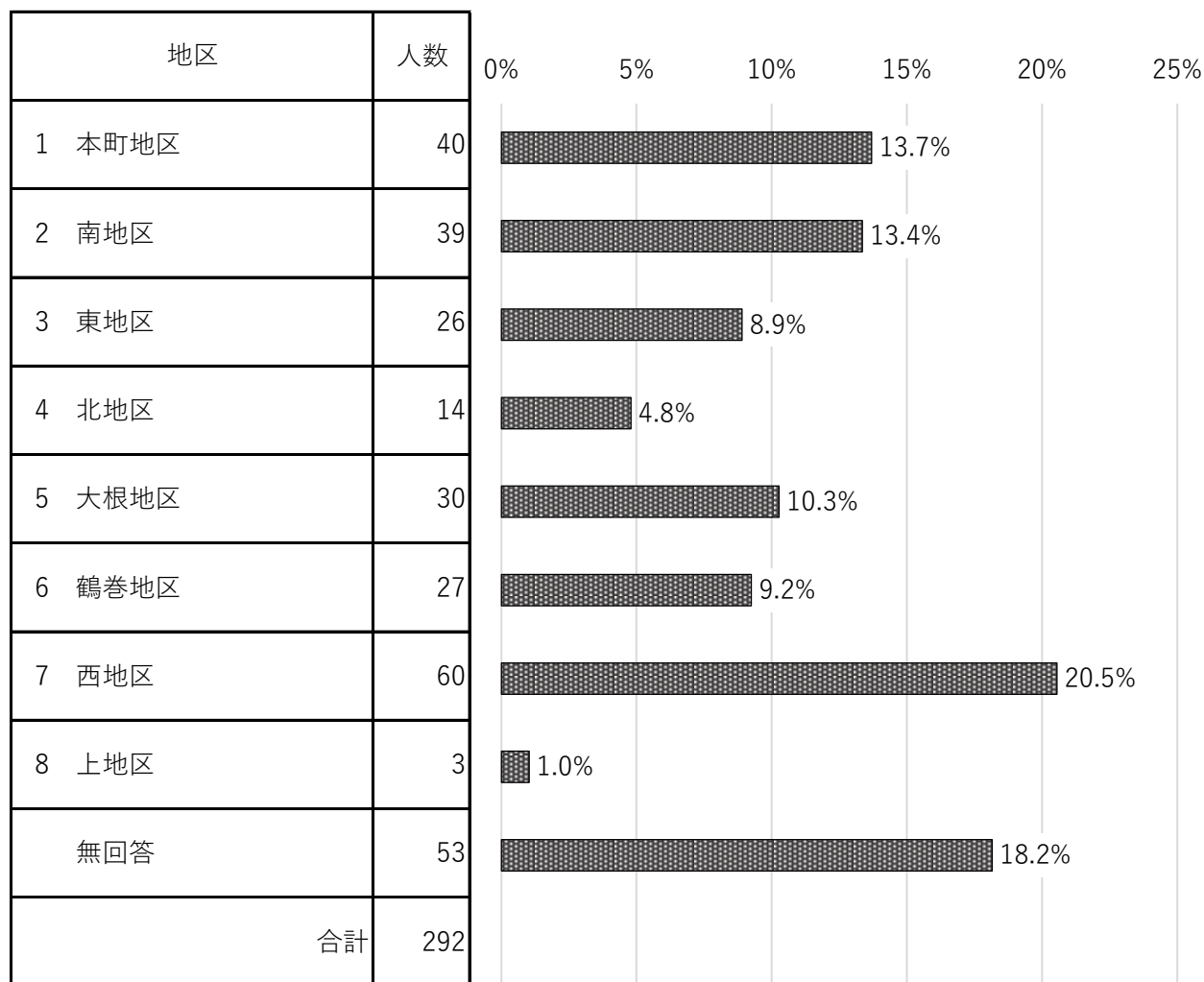


「身体」を取得している方が最も多く、次いで、「精神」となっています。

問 6 現在、あなたがお住まいの町域を書いてください。

■全体に対する選択肢ごとの割合

単位：人



有効回答数：292

「7 西地区」が最も多く、次いで、「1 本町地区」、「2 南地区」の順になっています。

② 生活状況について

問 7 あなたの日常生活の主な支援者はどなたですか。
(あてはまるものすべてに○)

単位：人

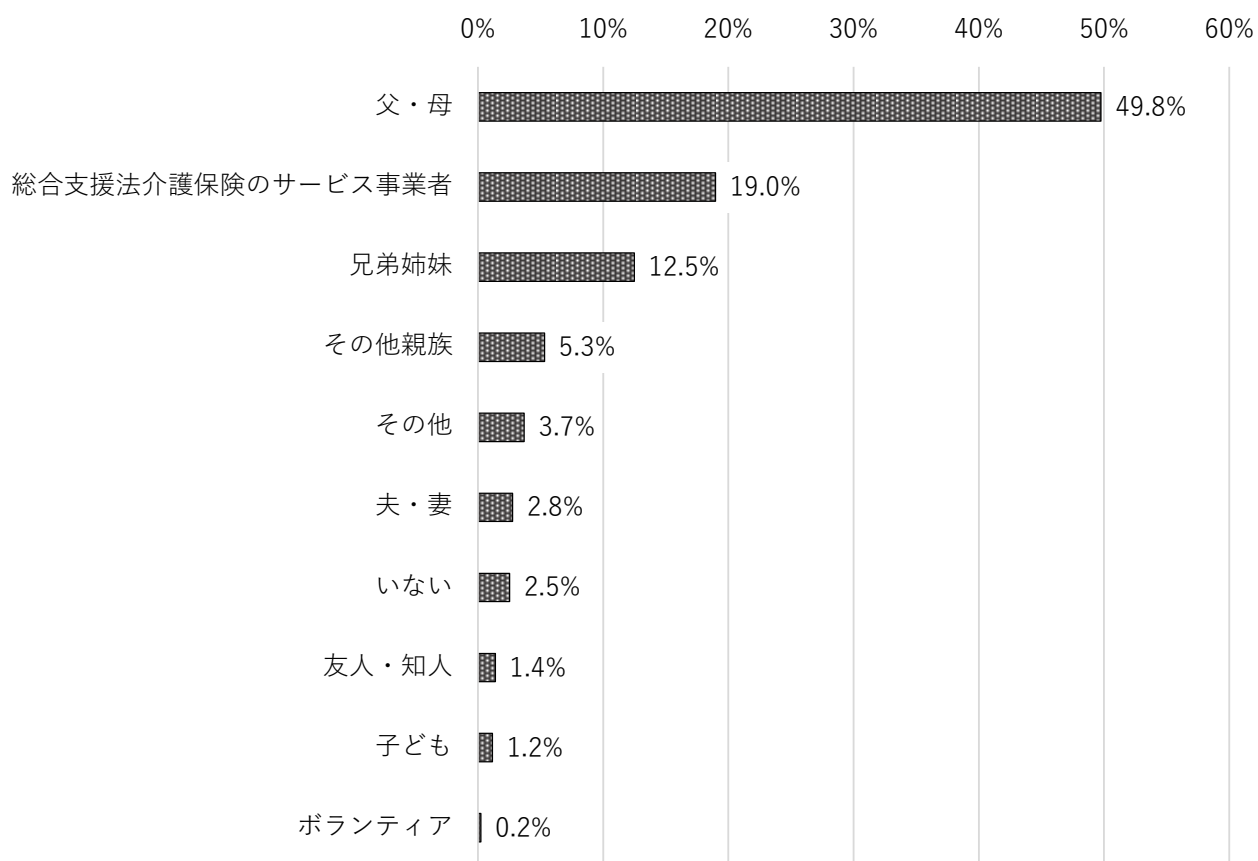
選 択 肢	全体	身体	知的	精神	発達	高次脳 機能	児童	無回答
1 夫・妻	12	6	0	8	0	3	0	0
2 父・母	215	54	112	54	56	7	46	46
3 子ども	5	3	1	1	0	0	0	0
4 兄弟姉妹	54	16	24	15	11	2	11	11
5 その他親族	23	5	10	4	8	1	9	9
6 友人・知人	6	2	1	3	2	0	1	1
7 総合支援法介護保険のサービス事業者	82	37	35	26	14	6	6	6
8 ボランティア	1	1	0	0	0	0	0	0
9 その他	16	1	7	6	5	1	4	4
10 いない	11	4	0	7	1	0	1	0
無回答	7	3	3	1	0	0	0	0
合計	432	132	193	125	97	20	78	77

有効回答数：292

■主な「その他」の記載

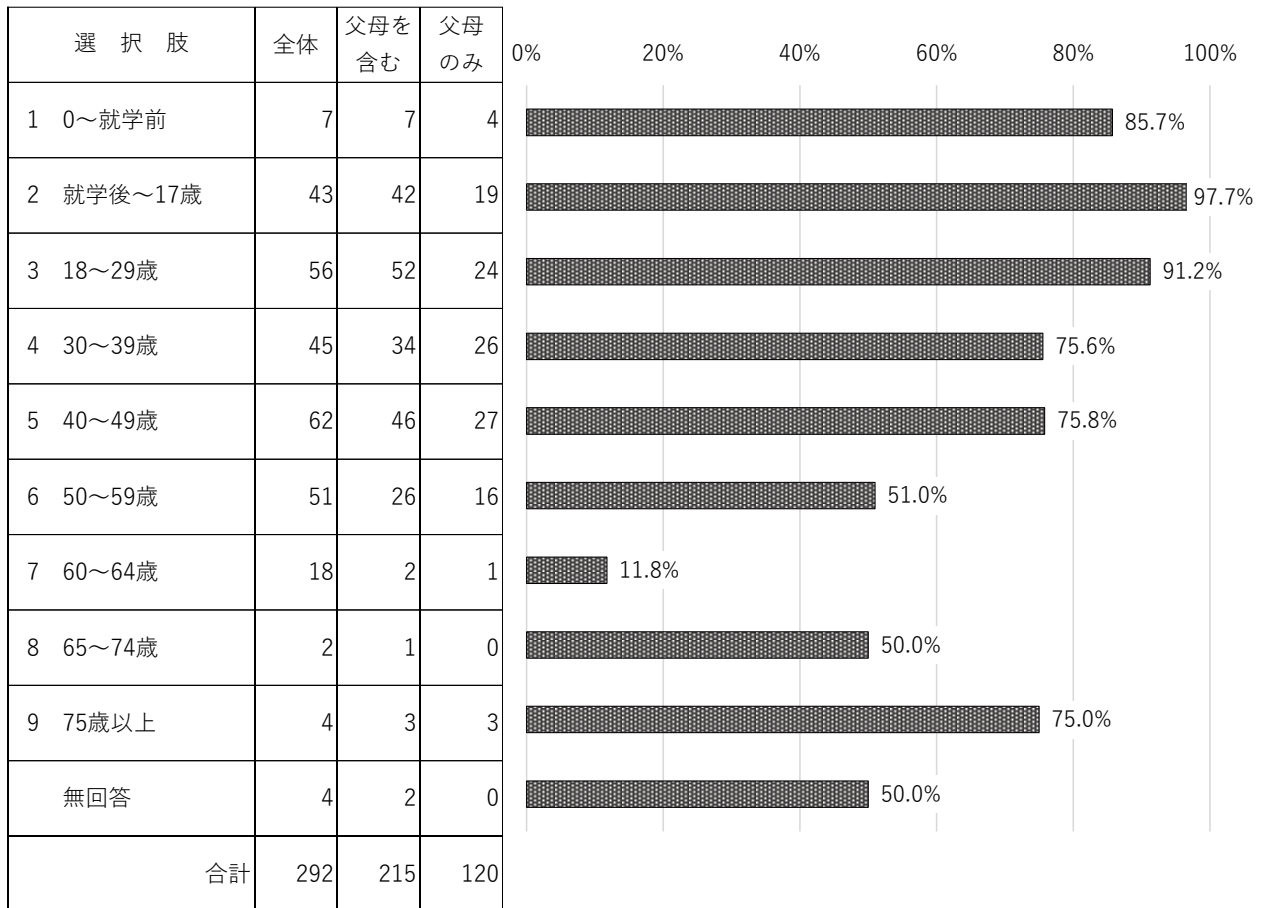
- ・「グループホーム」や「グループホームのスタッフ」
- ・「デイサービス」や「デイサービスのスタッフ」
- ・「介護員、支援級の先生」
- ・「生活保護」

■全体に対する選択肢ごとの割合



回答者の約半分が「2 父・母」が支援者となっています。次いで、「7 総合支援法介護保険のサービス事業者」となっており、この2つの支援者の割合が高く、生活の支えとなっています。

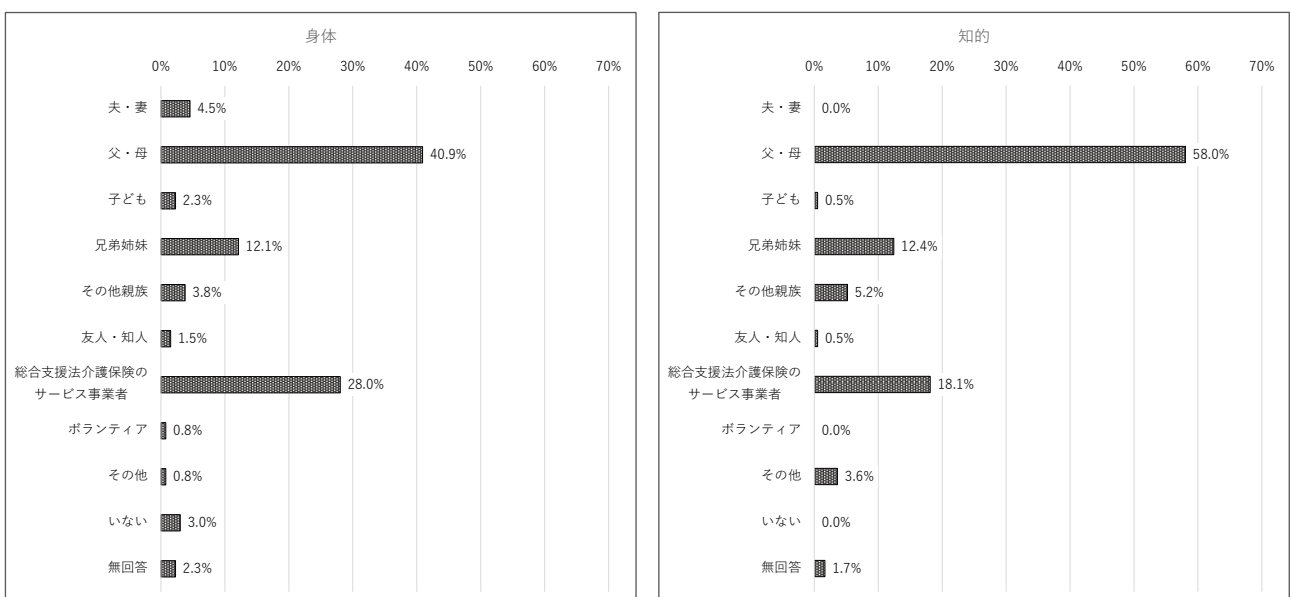
■ 「2 父・母」と回答した年齢ごとの状況と割合

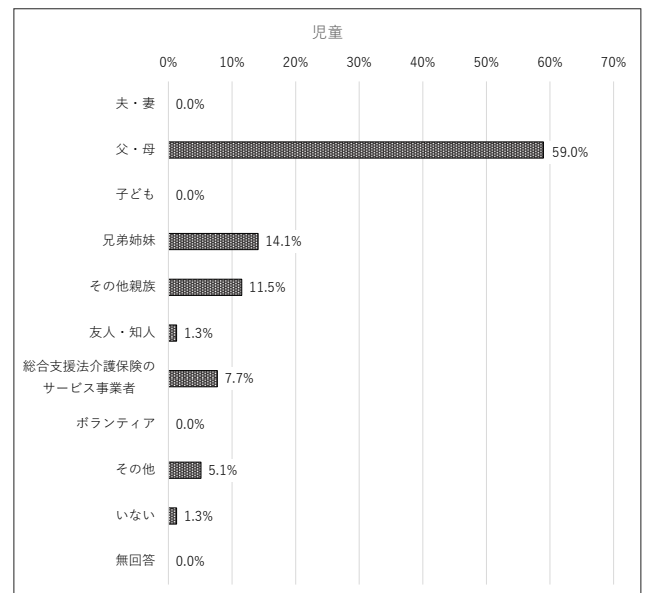
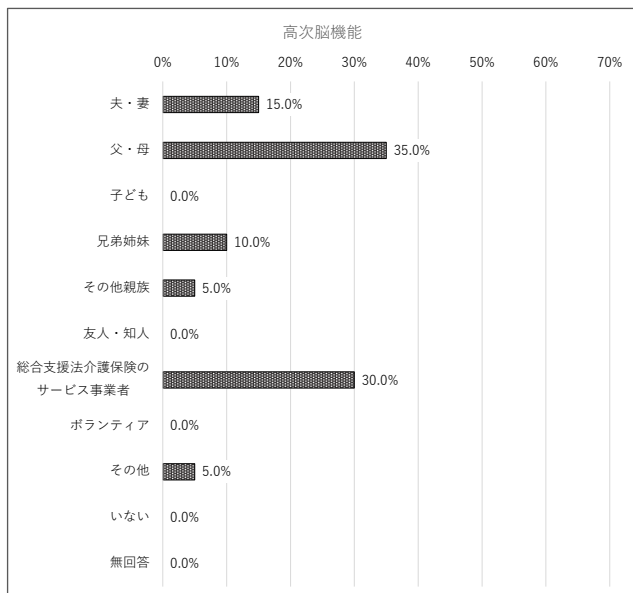
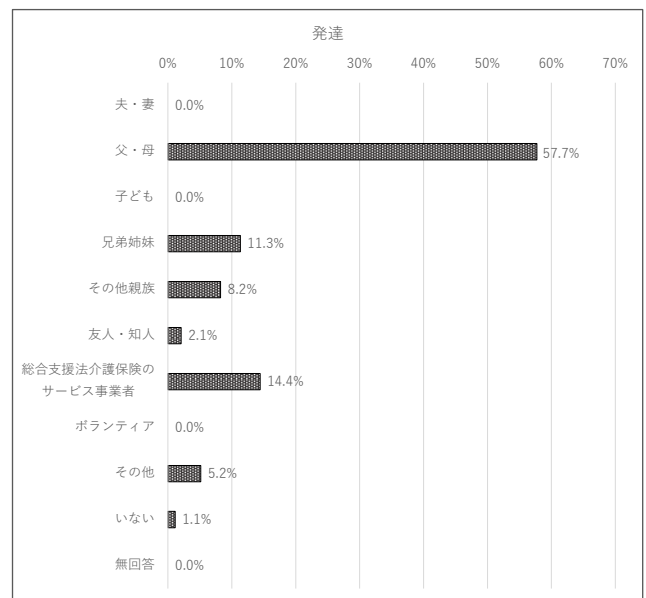
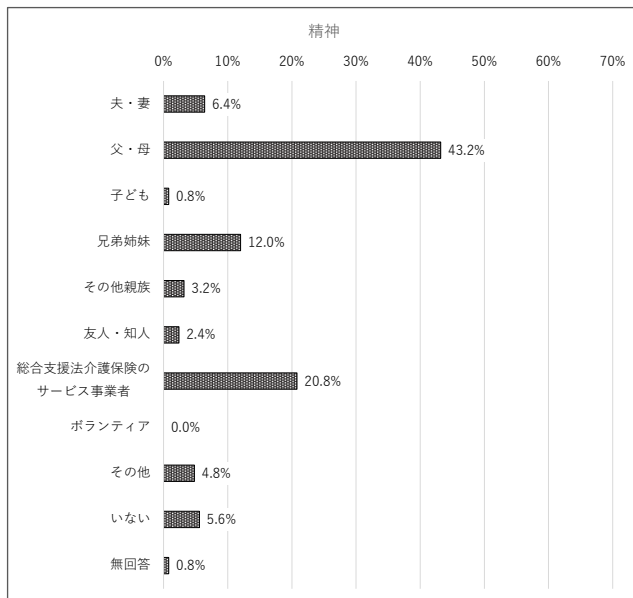


「2 父・母」を含む回答について、就学後から 29 歳までの各年齢層で約 90%以上となっています。

「60～64 歳」の年代では 11.8%と 1 割程度となっていますが、それ以外の年代では 5 割を超えています。

■ 障害種別ごとの割合





全ての障害種別において「2 父・母」の割合が最も多く、次いで、「7 総合支援法介護保険のサービス事業者」となっており、父・母、総合支援法介護保険のサービス事業者が生活の支えとなっています。

「児童」については、「2 父・母」の割合が9割半ばを超えています。

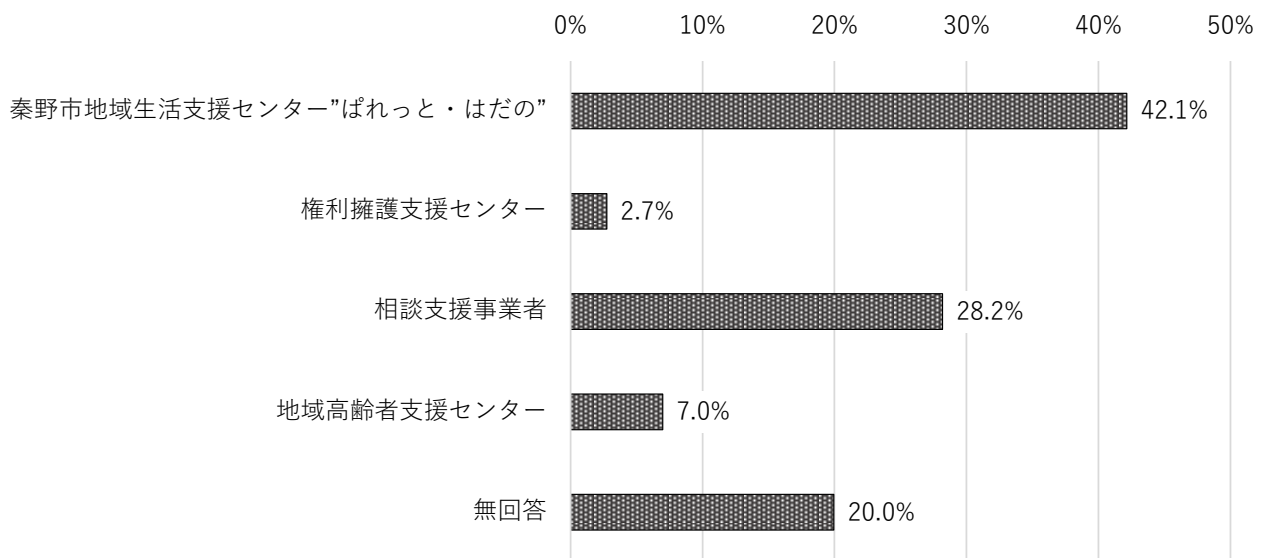
問 8 あなたは、次の相談場所があることを知っていますか。
(あてはまるものすべてに○)

単位：人

選 択 肢	全体	身体	知的	精神	発達	高次脳 機能	児童	無回答
1 秦野市地域生活支援センター”ぱれっと・はだの”	169	50	78	62	25	14	19	0
2 権利擁護支援センター	11	8	8	2	1	13	3	0
3 相談支援事業者	113	37	60	32	20	7	21	0
4 地域高齢者支援センター	28	14	13	7	4	4	4	0
無回答	80	20	28	21	1	1	17	0
合計	401	129	187	124	51	39	64	0

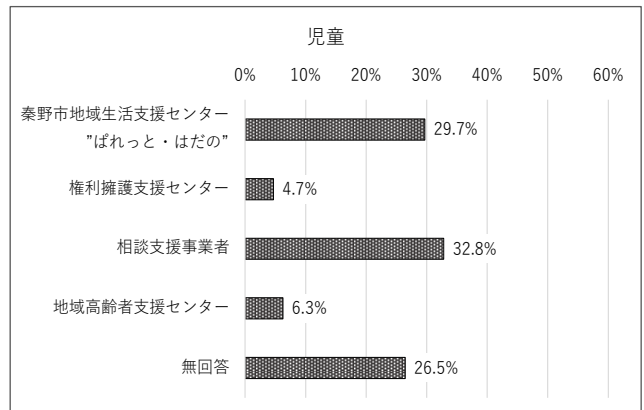
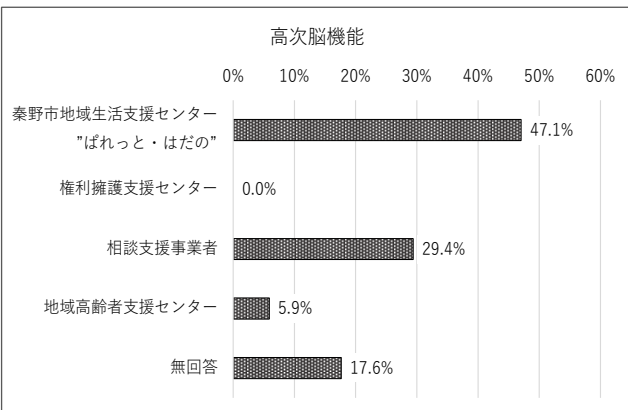
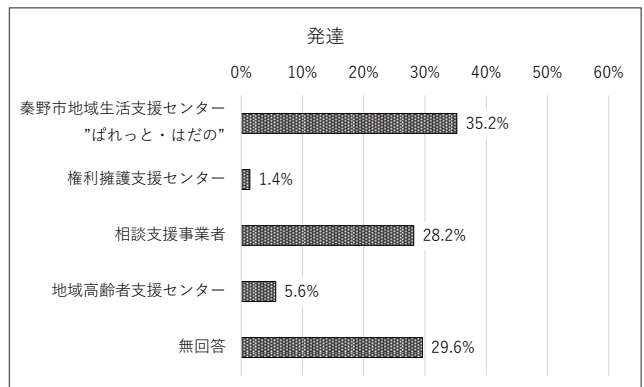
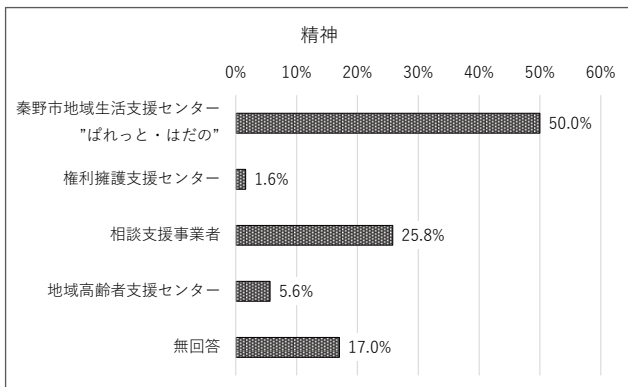
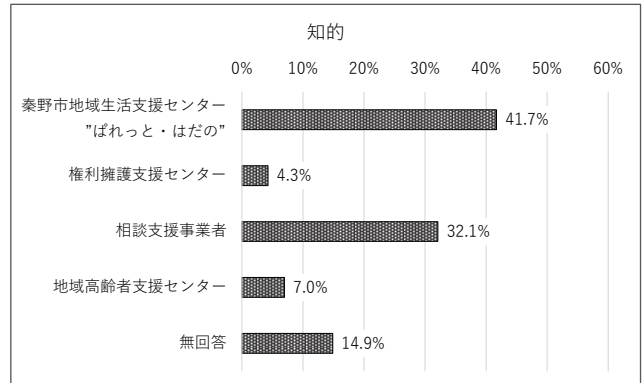
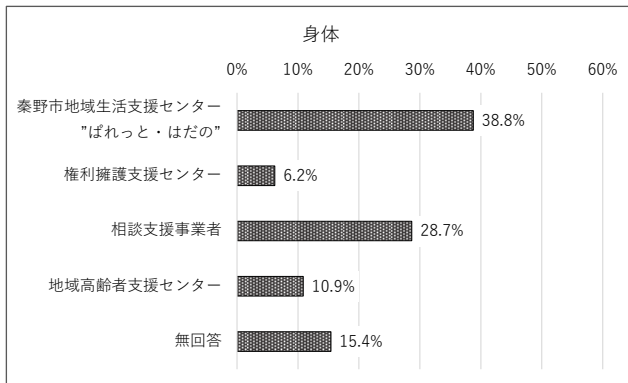
有効回答数：292

■全体に対する選択肢ごとの割合



「1 秦野市地域生活支援センター”ぱれっと・はだの”」が最も多くなっており、4割を超えています。次いで、「3 相談支援事業者」が約3割となっています。

■障害種別ごとの割合



全ての障害種別において、「1 秦野市地域生活支援センター"ばれっと・はだの"」が最も多くなっています。次いで、「3 相談支援事業所」の順になっていますが、各障害とも無回答の割合も多く、「発達」では、3割近くとなっています。

「児童」では、「3 相談支援事業者」が最も多く、3割を超えています。

問 9 あなたは、困ったときに、誰（どこ）に相談していますか。
（あてはまるものすべてに○）

単位：人

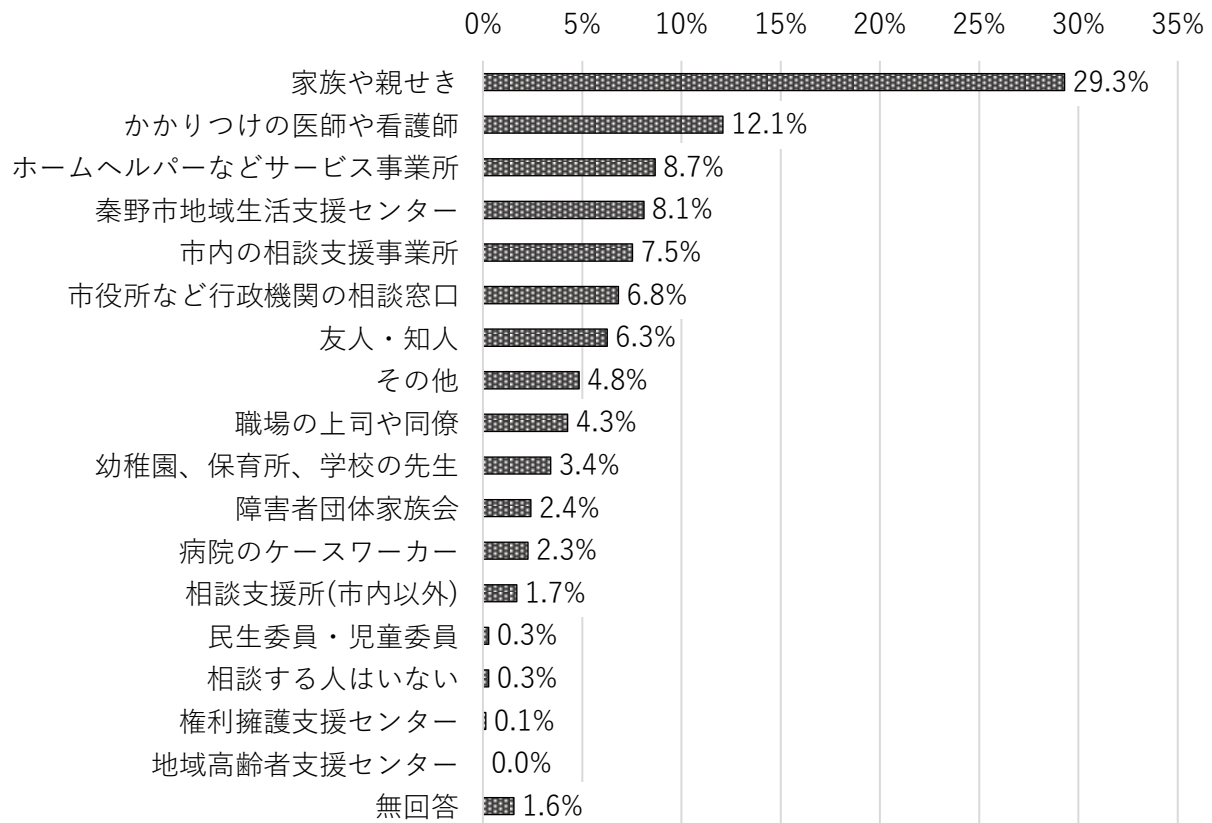
選 択 肢	全体	身体	知的	精神	発達	高次脳 機能	無回答	児童
1 家族や親せき	206	61	87	64	51	8	0	39
2 友人・知人	44	11	11	18	11	0	0	9
3 職場の上司や同僚	30	4	9	14	8	0	0	1
4 ホームヘルパーなどサービス事業所	61	31	25	15	13	7	0	10
5 障害者団体家族会	17	5	16	3	1	0	0	1
6 かかりつけの医師や看護師	85	26	29	37	15	4	0	11
7 病院のケースワーカー	16	5	2	11	0	2	0	2
8 幼稚園、保育所、学校の先生	24	3	13	1	16	0	0	24
9 民生委員・児童委員	2	1	2	0	0	0	0	0
10 秦野市地域生活支援センター	57	19	28	18	8	3	0	0
11 市内の相談支援事業所	53	17	26	19	9	3	0	6
12 相談支援所(市内以外)	12	3	7	5	2	0	0	2
13 権利擁護支援センター	1	1	1	0	0	0	0	0
14 地域高齢者支援センター	0	0	0	0	0	0	0	0
15 市役所など行政機関の相談窓口	48	18	21	21	5	5	0	5
16 相談する人はいない	2	0	2	0	0	0	0	0
17 その他	34	4	12	16	6	0	0	5
無回答	11	4	5	1	0	1	0	0
合計	703	86	127	91	57	14	0	47

有効回答数：292

■主な「その他」の記載

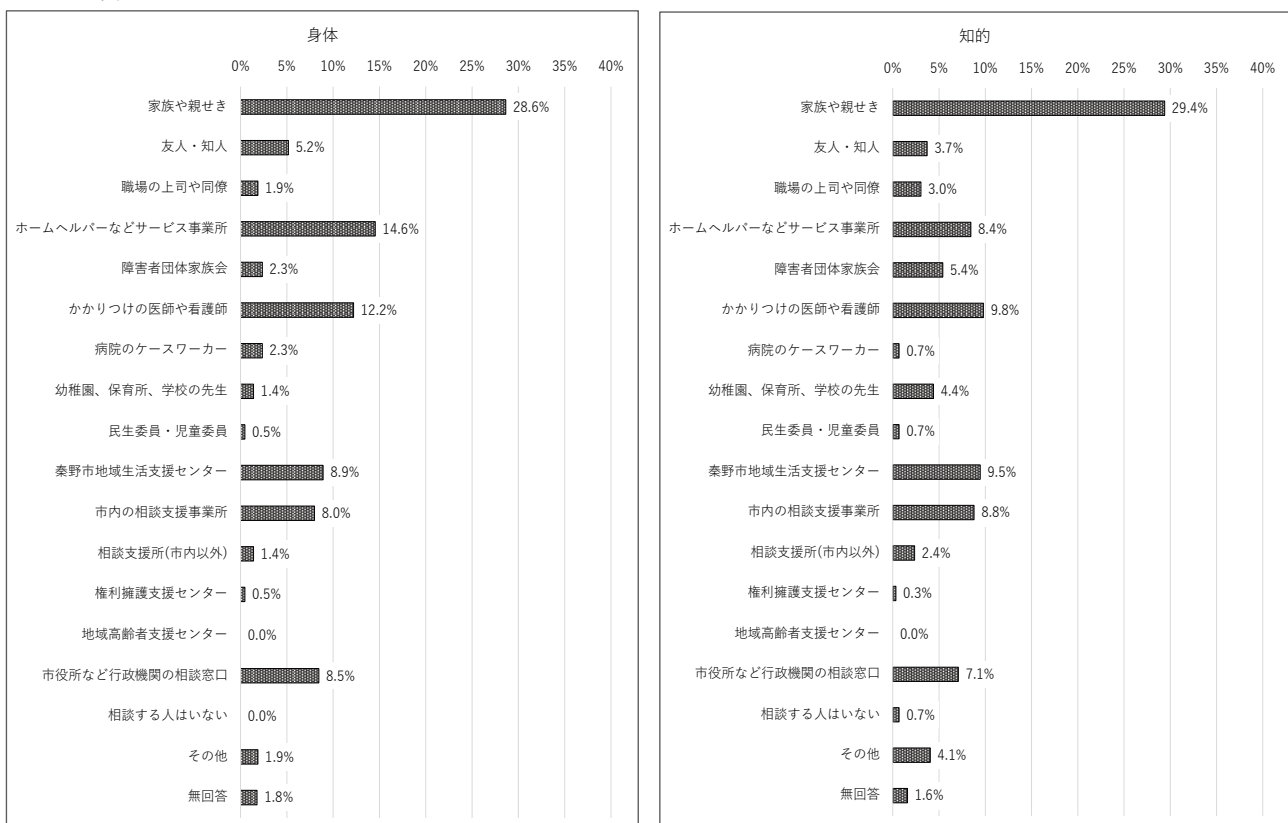
- ・「グループホームの世話人」
- ・「通所している事業所の職員」

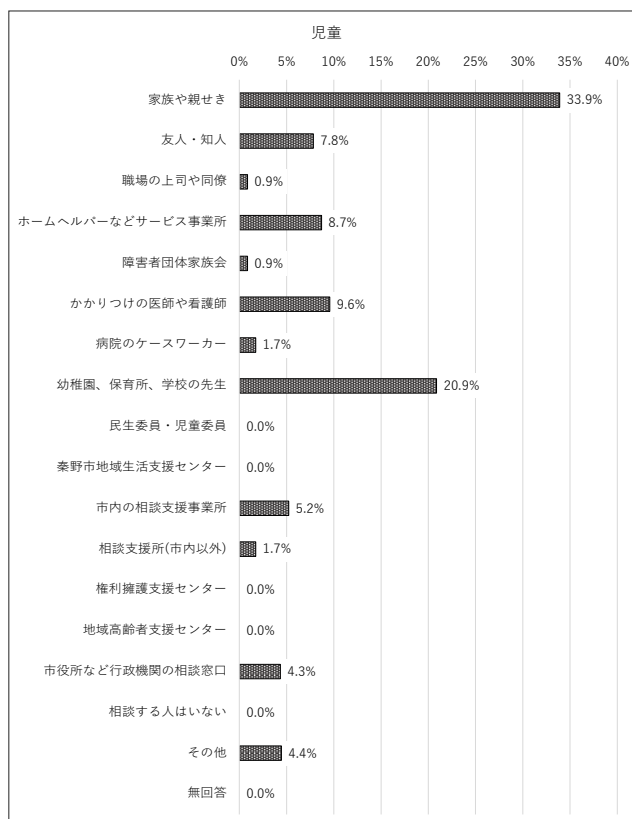
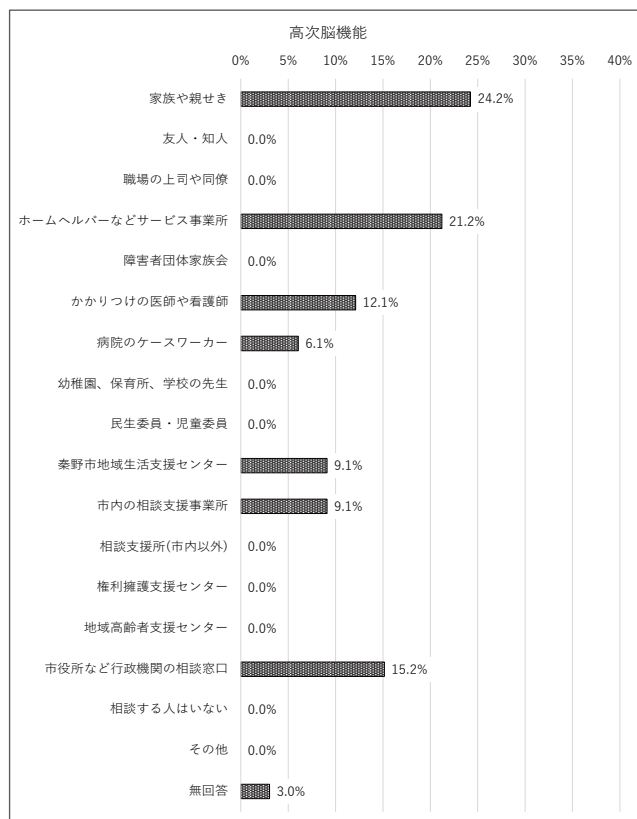
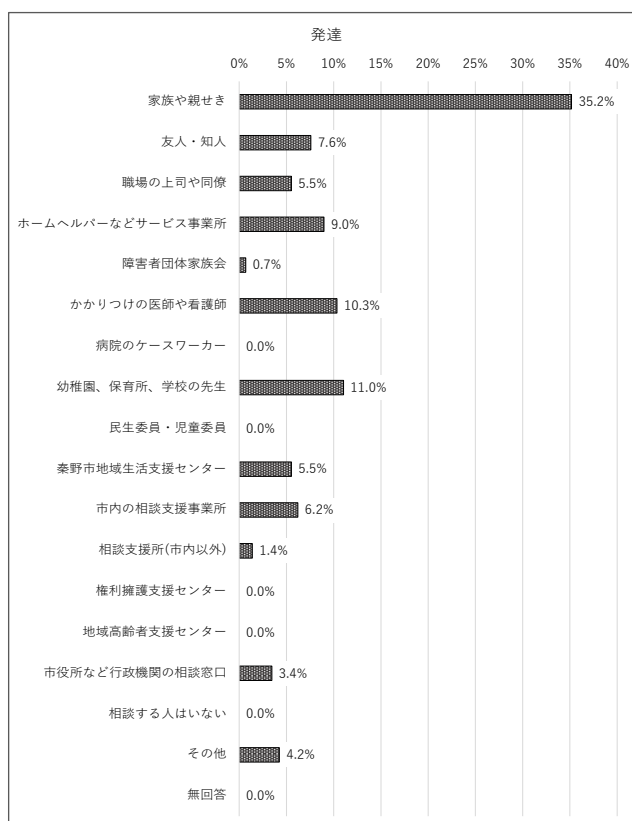
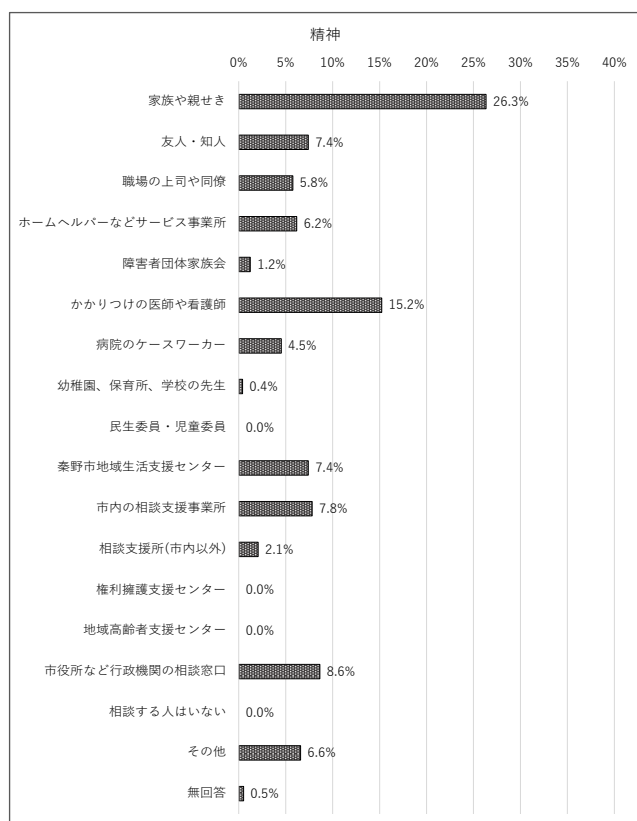
■全体に対する選択肢ごとの割合



「1 家族や親せき」が最も多く、次いで、「6 かかりつけの医師や看護師」、「4 ホームヘルパーなどサービス事業所」の順になっています。

■障害種別ごとの割合





全ての障害において、「1 家族や親せき」が最も多く、「身体」、「高次脳機能」では、「4 ホームヘルパーなどサービス事業所」が次に多くなっています。

「知的」、「精神」では、「6 かかりつけの医師や看護師」が次に多くっており、「発達」では、「8 幼稚園、保育所、学校の先生」が次に多くなっています。

問 10 あなたが外出するときに困っていることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

単位：人

選 択 肢	全体	身体	知的	精神	発達	高次脳 機能	無回答	児童
1 公共交通機関が不便である	56	20	21	23	7	4	0	4
2 安心して一休みできる場所が少ない	53	18	21	27	10	2	0	8
3 階段などの段差が多く移動が難しい	35	25	14	9	3	3	0	2
4 費用がかかり負担となる	53	17	21	25	7	5	0	2
5 家族やヘルパーの付き添いが必要である	122	57	78	21	21	8	0	17
6 その他	25	8	9	9	6	0	0	4
7 特にない	80	11	23	32	25	3	0	17
無回答	13	4	7	1	1	0	0	1
合計	437	86	127	91	57	14	0	47

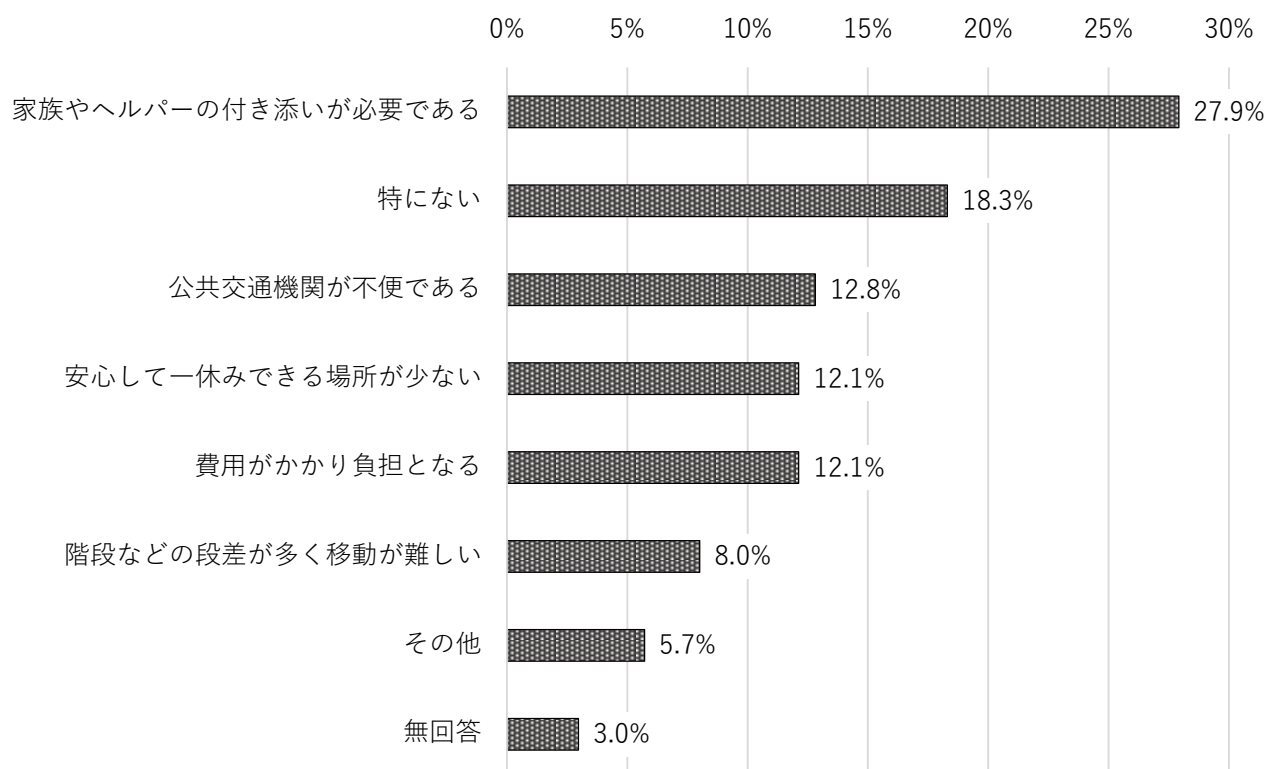
有効回答数：292

「5 家族やヘルパーの付き添いが必要である」が最も多く、他の選択肢に比べると突出しています。また、令和6年4月1日施行の障害者差別解消法にありますが合理的配慮の義務化に合わせて、公共交通機関の整備や街中のバリアフリー化など検討する必要があります。

■主な「その他」の記載

- ・「介護タクシー代が高い」、「精神障害者手帳の公共機関の割引がなくてつらい」といった費用面の負担
- ・「多目的トイレがあまりない」といった設備面

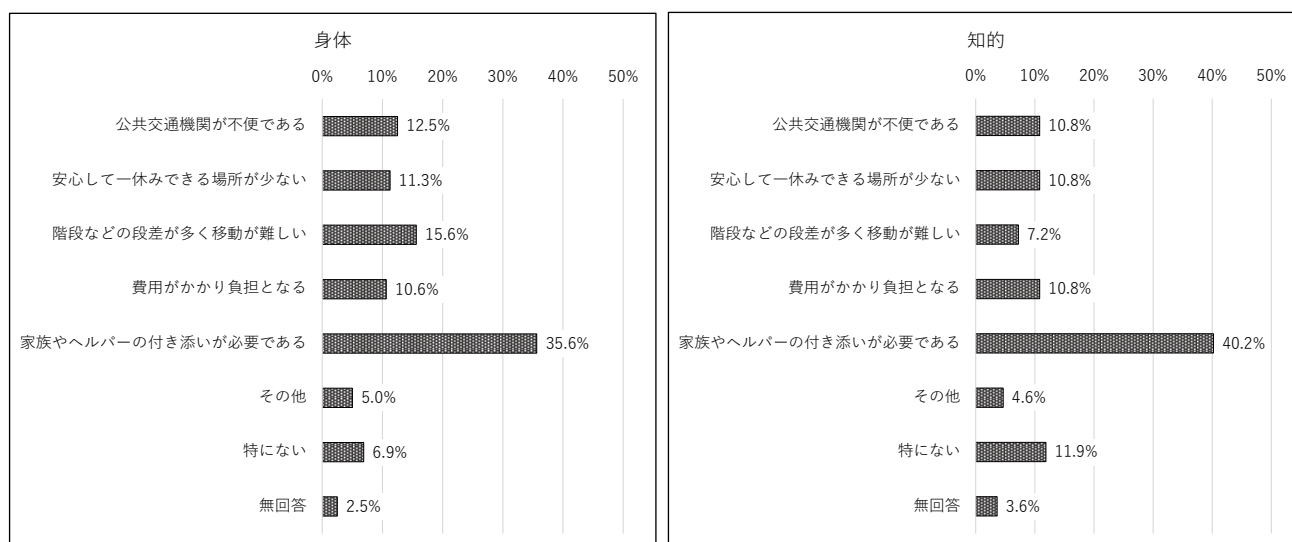
■全体に対する選択肢ごとの割合

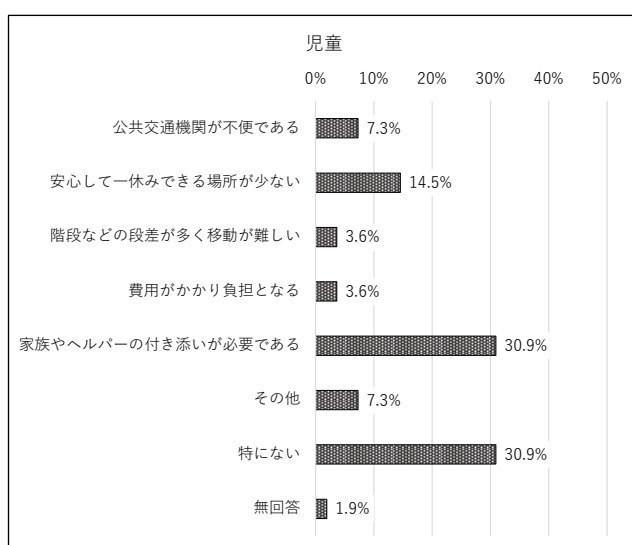
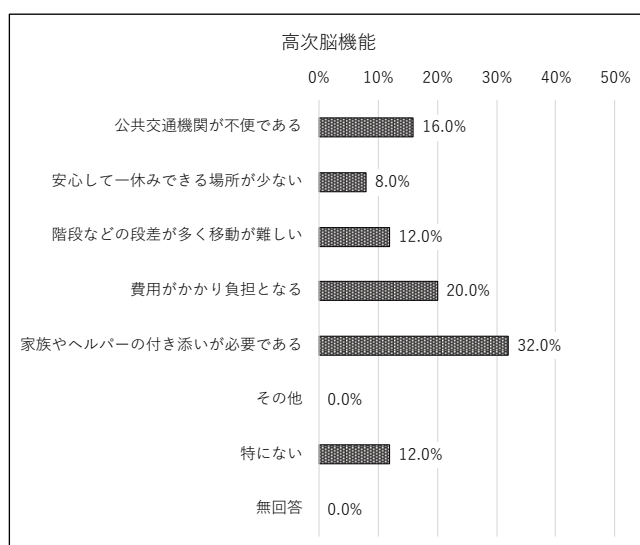
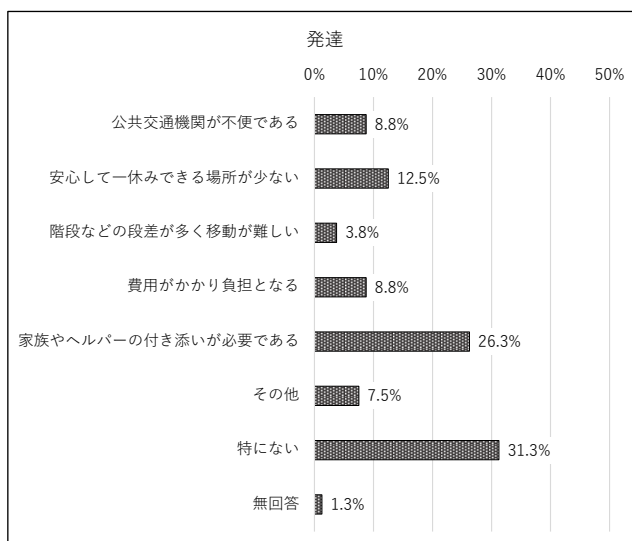
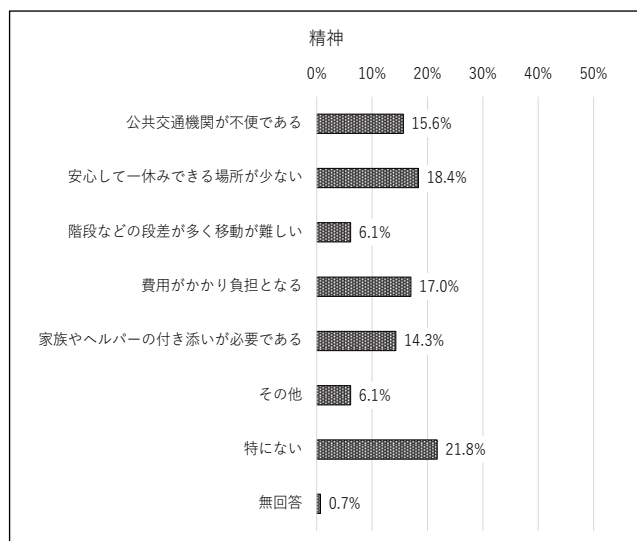


「5 家族やヘルパーの付き添いが必要である」が最も多く、2割半ばを超えています。

次いで、「7 特にない」、「1 公共交通機関が不便である」、「2 安心して一休みできる場所が少ない」、「4 費用がかかり負担となる」と続いています。

■障害種別ごとの割合





「6 その他」、「7 特にない」を除く選択肢においては、「精神」以外で「5 家族やヘルパーの付き添いが必要である」が最も多くなっています。

「精神」では、「2 安心して一休みできる場所が少ない」が最も多くなっています。

2 番目に多い選択肢としては、障害種別ごとに様々で、「身体」では、「3 階段などの段差が多く移動が難しい」、「知的」では、「1 公共交通機関が不便である」「2 安心して一休みできる場所が少ない」「4 費用がかかり負担となる」、「精神」、「高次機能」では、「4 費用がかかり負担となる」、「発達」では、「2 安心して一休みできる場所が少ない」となっています。

問 11 あなたは将来どのように暮らしたいと思いますか。(1 つに○)

単位：人

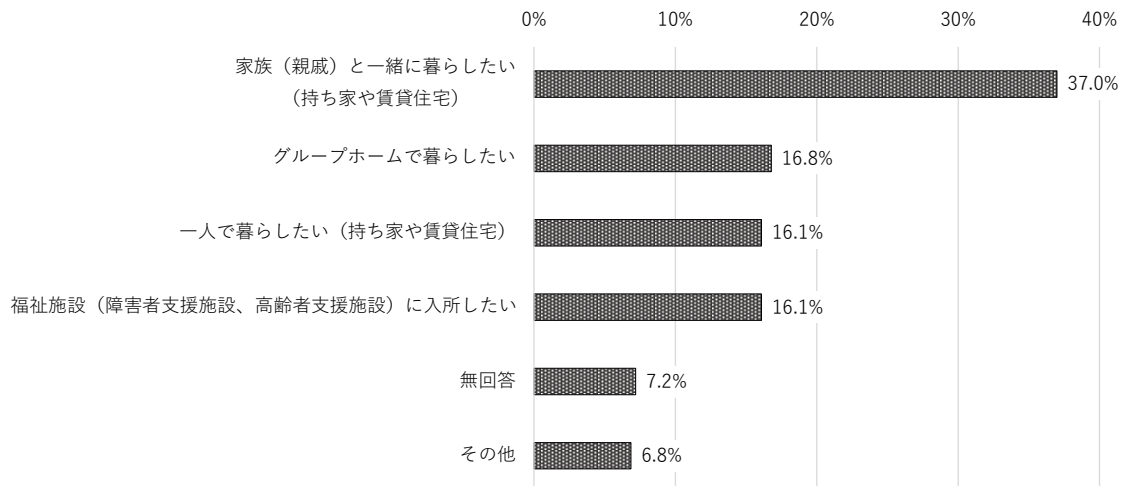
選 択 肢	全体	身体	知的	精神	発達	高次脳 機能	無回答	児童
1 一人で暮らしたい（持ち家や賃貸住宅）	47	14	10	18	14	1	0	10
2 家族（親戚）と一緒に暮らしたい （持ち家や賃貸住宅）	108	32	38	36	24	4	0	24
3 グループホームで暮らしたい	49	12	29	14	9	4	0	5
4 福祉施設（障害者支援施設、高齢者支援施設）に 入所したい	47	19	33	8	4	4	0	3
5 その他	20	3	6	10	3	0	0	3
無回答	21	6	11	5	3	1	0	2
合計	292	86	127	91	57	14	0	47

有効回答数：292

■主な「その他」の記載

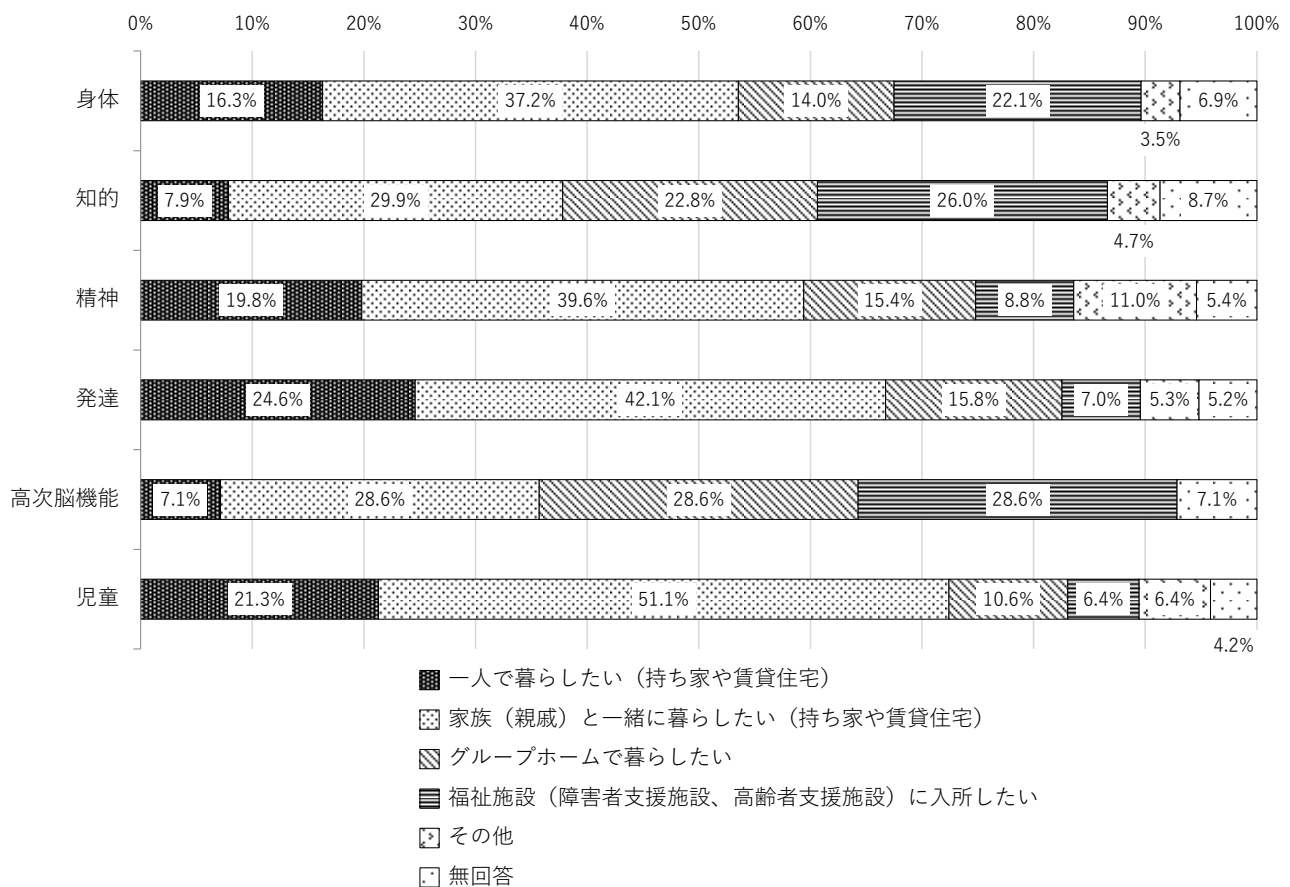
- ・「パートナーと結婚して、二人で暮したい」
- ・「まだわからない」、「まだ考えていない」
- ・「グループホームで生活したい」など

■全体に対する選択肢ごとの割合



「2 家族（親戚）と一緒に暮らしたい（持ち家や賃貸住宅）」が最も多く、次いで、「3 グループホームで暮らしたい」、「1 一人で暮らしたい（持ち家や賃貸住宅）」「4 福祉施設（障害者支援施設、高齢者支援施設）に入所したい」の順になっています。

■障害種別ごとの割合



全ての障害において、「2 家族（親戚）と一緒に暮らしたい（持ち家や賃貸住宅）」が最も多くなっています。

問 12 あなたは、障害者の就労支援としてどのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

単位：人

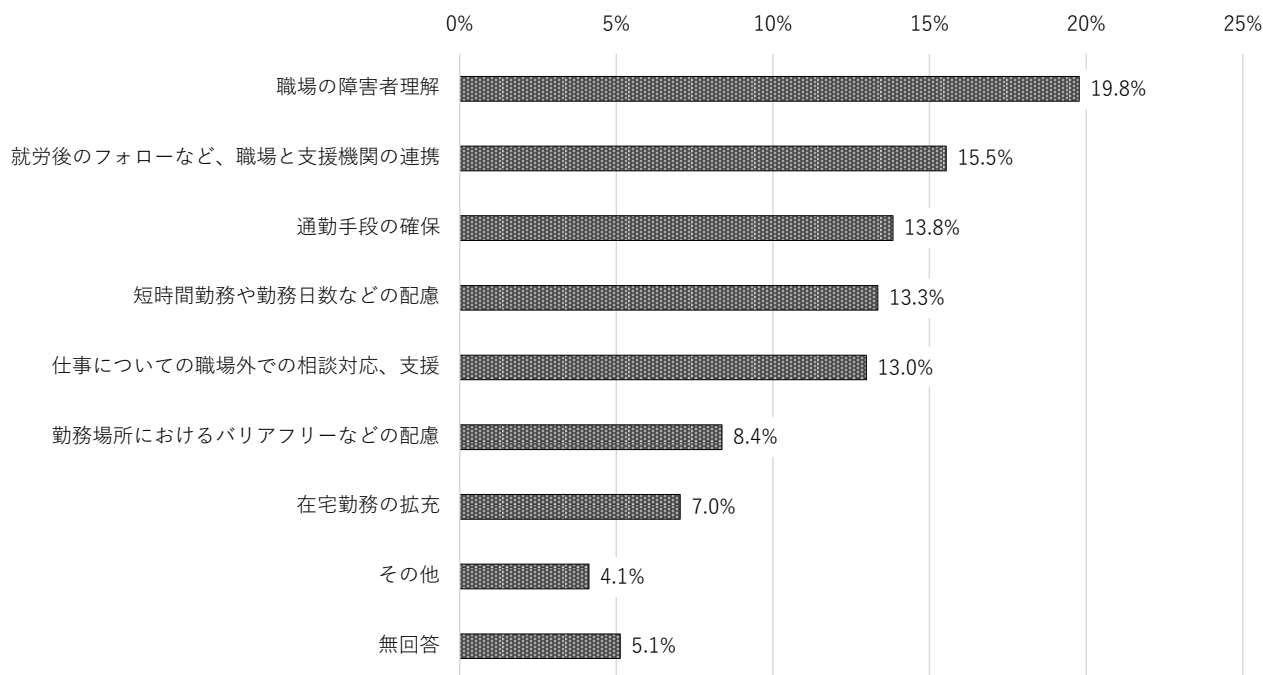
選 択 肢	全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能	無回答	児童
1 通勤手段の確保	114	37	45	36	21	8	0	17
2 勤務場所におけるバリアフリーなどの配慮	69	35	21	22	11	5	0	8
3 短時間勤務や勤務日数などの配慮	110	27	39	46	25	6	0	21
4 在宅勤務の拡充	58	19	8	26	15	3	0	12
5 職場の障害者理解	163	44	58	58	43	7	0	37
6 就労後のフォローなど、職場と支援機関の連携	128	27	50	49	33	4	0	32
7 仕事についての職場外での相談対応、支援	107	25	33	40	28	5	0	25
8 その他	34	11	17	8	7	3	0	4
無回答	41	9	27	10	5	1	0	1
合計	824	86	127	91	57	14	0	157

有効回答数：292

■主な「その他」の記載

- ・「もっと多くの就労先が増えること」
- ・「仕事についての職場での相談対応、支援」
- ・「就労支援事業所の拡充」

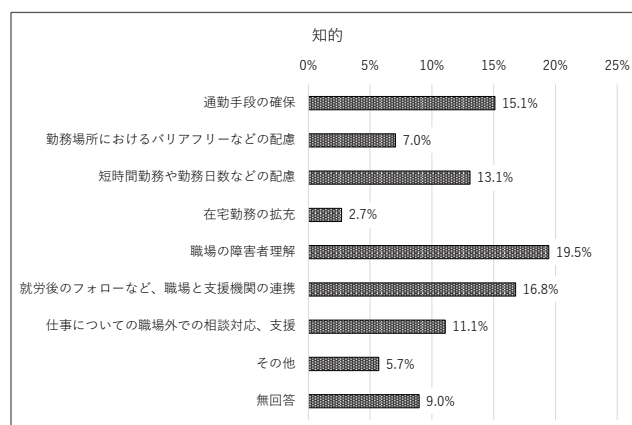
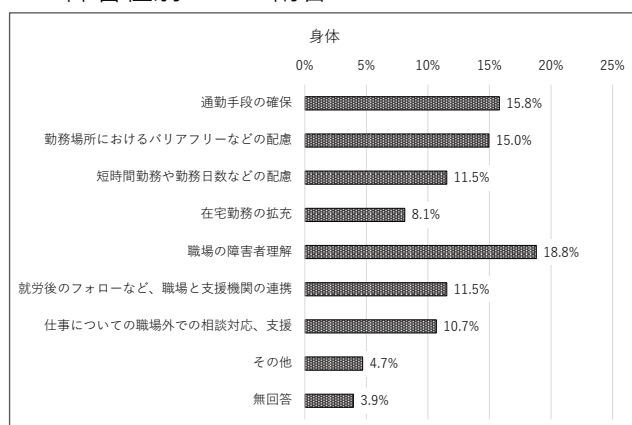
■全体に対する選択肢ごとの割合

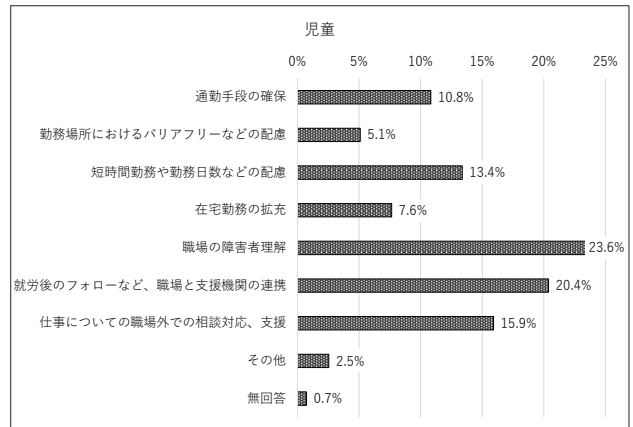
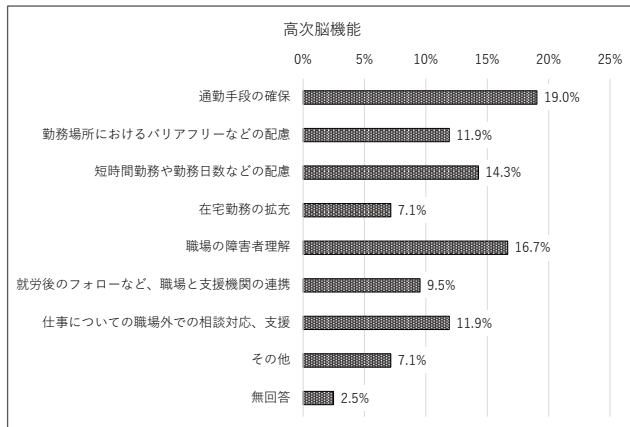
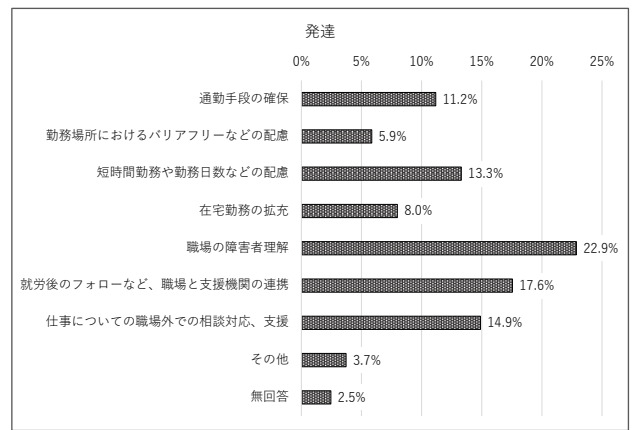
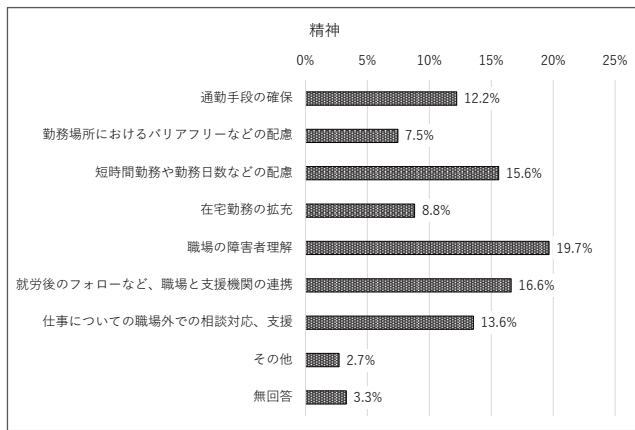


「５ 職場の障害者理解」が最も多く、次いで、「６ 就労後のフォローなど、職場と支援機関の連携」、「１ 通勤手段の確保」の順になっています。

令和６年４月１日から合理的配慮の提供が義務化されることに伴い、社内理解を促進するためのセミナーの開催など検討が必要です。

■障害種別ごとの割合





「身体」「知的」「精神」「発達」では、「5 職場の障害者理解」が最も多くなっています。
「高次脳機能」では、「1 通勤手段の確保」が最も多くなっています。

このほか、「6 就労後のフォローなど、職場と支援機関の連携」についても全体的に高くなっており、当事者を加えた3者による連携が必要です。

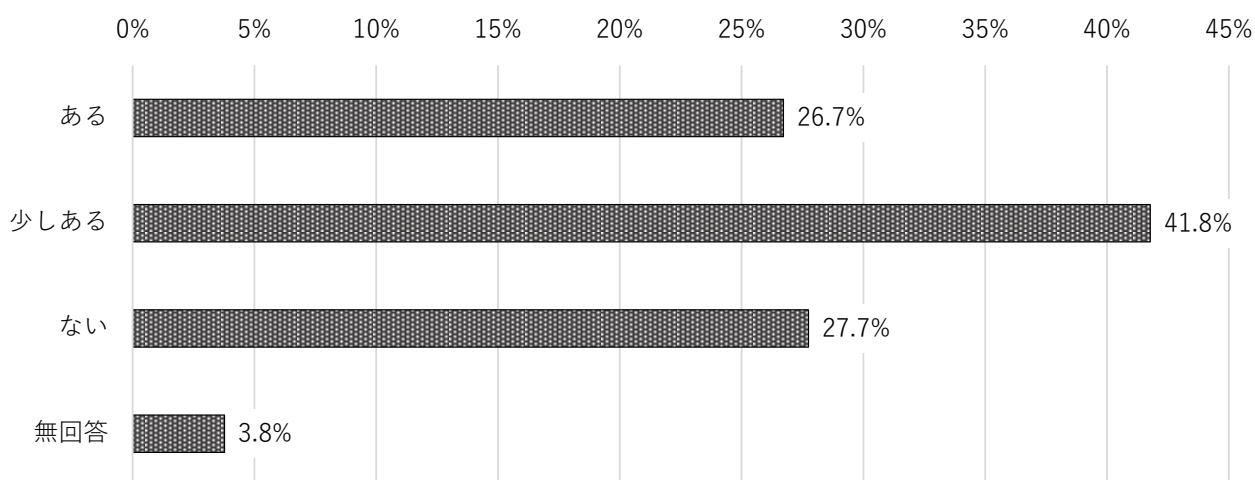
問 13 障害があることで差別や嫌な思いをしたことがありますか。
(1 つに○)

単位：人

選 択 肢	全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能	無回答	児童
1 ある	78	32	37	22	12	4	0	8
2 少しある	122	28	59	40	30	5	0	23
3 ない	81	23	25	26	15	4	0	16
無回答	11	3	6	3	0	1	0	0
合計	292	86	127	91	57	14	0	47

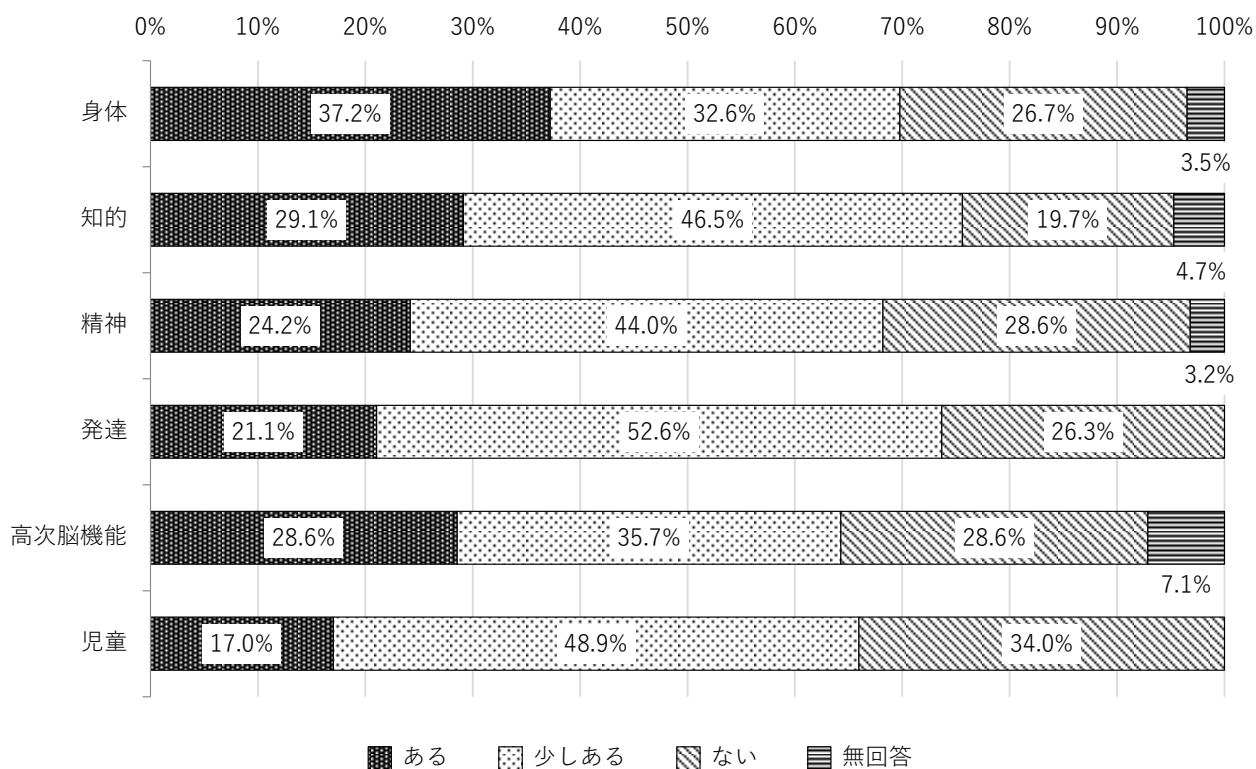
有効回答数：292

■全体に対する選択肢ごとの割合



「1 ある」と「2 少しある」を合算した割合は6割半ばを超えています。
一方、「3 ない」と答えた方は3割に満たず、かなりの人数が差別や嫌な思いをしています。

■障害種別ごとの割合



「1 ある」と「2 少しある」を合算した割合は、「知的」と「発達」が7割半ば、「身体」と「精神」が7割近くとなっており、一番割合の少ない「高次脳機能」でも6割半ばになっています。

問 13 で「1.ある」「2.少しある」と答えた方におたずねします。

問 14 どのようなところで差別や嫌な思いをしましたか。

(あてはまるものすべてに○)

単位：人

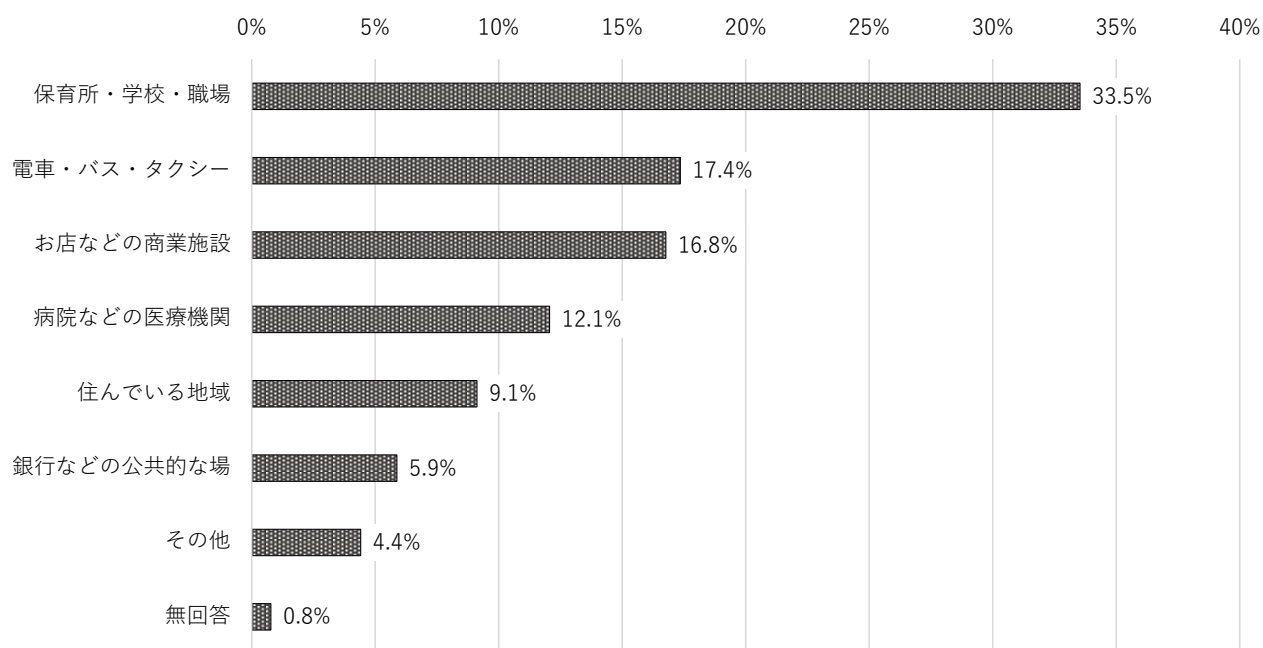
選 択 肢	全体	身体	知的	精神	発達	高次脳 機能	無回答	児童
1 保育所・学校・職場	114	27	60	31	32	1	0	26
2 銀行などの公共的な場	20	5	11	6	1	0	0	1
3 電車・バス・タクシー	59	28	30	17	8	3	0	2
4 お店などの商業施設	57	20	34	18	12	2	0	7
5 病院などの医療機関	41	11	23	16	6	0	0	5
6 住んでいる地域	31	9	12	13	5	2	0	2
7 その他	15	6	5	6	4	2	0	2
無回答	3	1	2	1	0	0	0	0
合計	340	107	177	108	68	10	0	45

有効回答数：200

■主な「その他」の記載

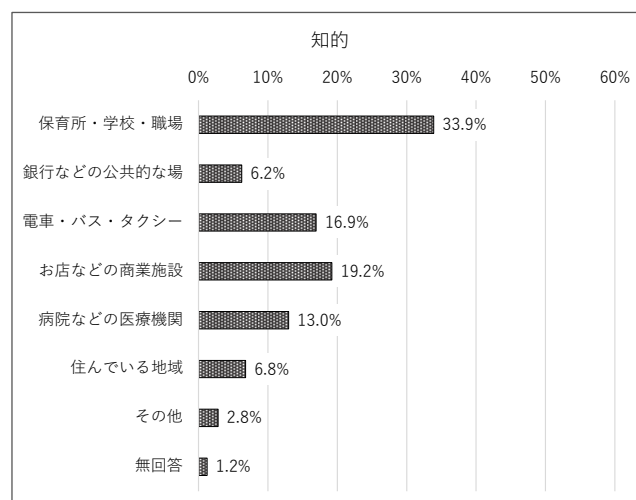
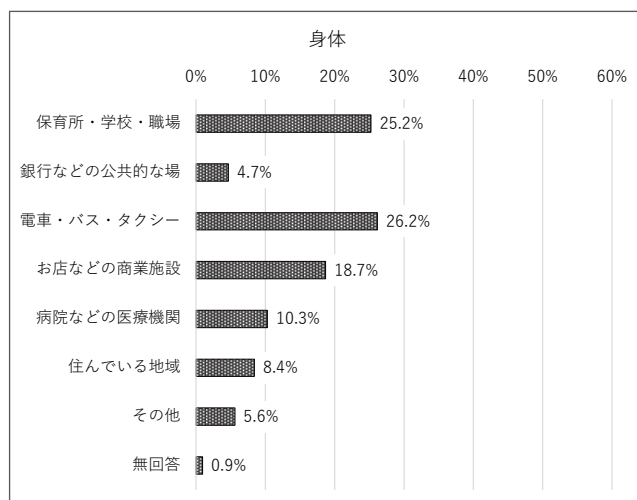
- ・「入所施設」
- ・「福祉サービス事業所」
- ・「駐車場」
- ・「自分の持ってる障がいは、選んだものではないのに、生きづらいな、という気持ちがあった。」
- ・「外食したときに視線を感じる」 など

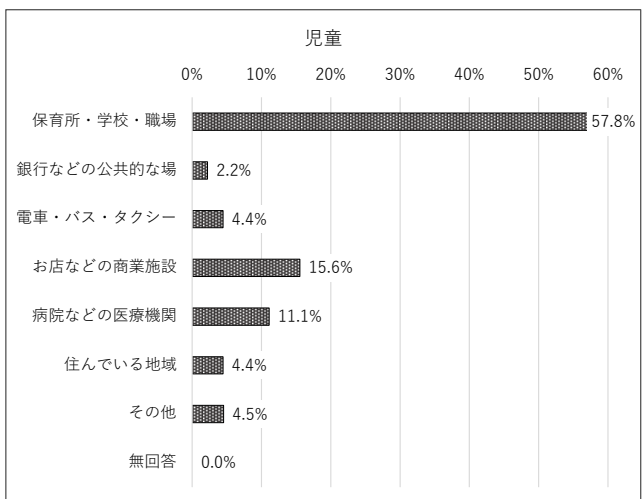
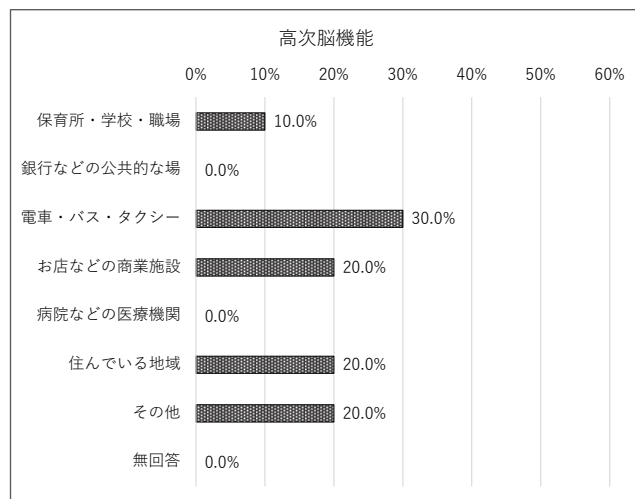
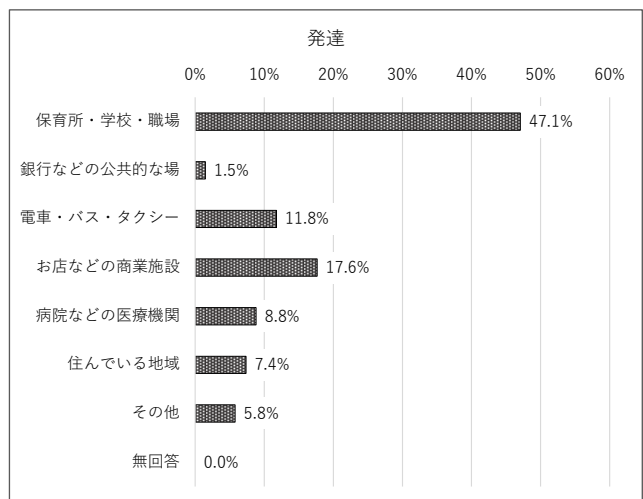
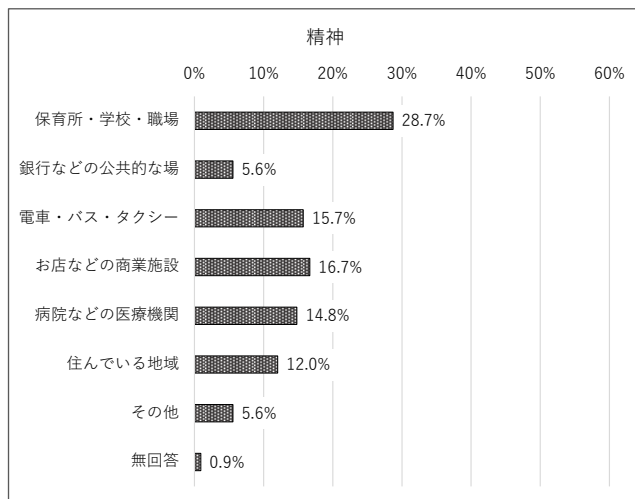
■全体に対する選択肢ごとの割合



「1 保育所・学校・職場」が最も多くなっています。次いで、「3 電車・バス・タクシー」、
「4 お店などの商業施設」の順になっています。

■障害種別ごとの割合





「知的」、「精神」、「発達」、「児童」では、「1 保育所・学校・職場」が最も多くなっています。特に「児童」においては57.8%となっており、6割近い児童が学校で差別や嫌な思いをしたことがあることがわかります。

また、全ての障害において、「4 お店などの商業施設」での割合が高く、障害に対する周囲からの理解が得られない場面があると推測されます。

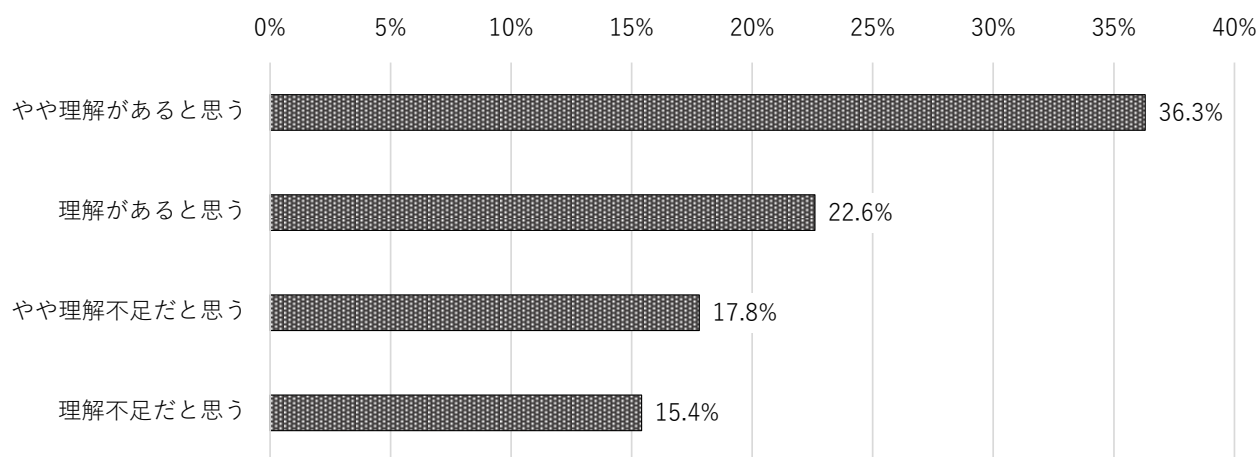
問 15 地域の方は障害者に対する理解があると思いますか。
(1 つに○)

単位：人

選 択 肢	全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能	無回答	児童
1 理解があると思う	66	22	23	19	11	4	0	7
2 やや理解があると思う	106	28	53	31	25	3	0	24
3 やや理解不足だと思う	52	17	21	16	13	4	0	8
4 理解不足だと思う	45	12	21	16	7	1	0	7
無回答	23	7	9	9	1	2	0	1
合計	292	86	127	91	57	14	0	47

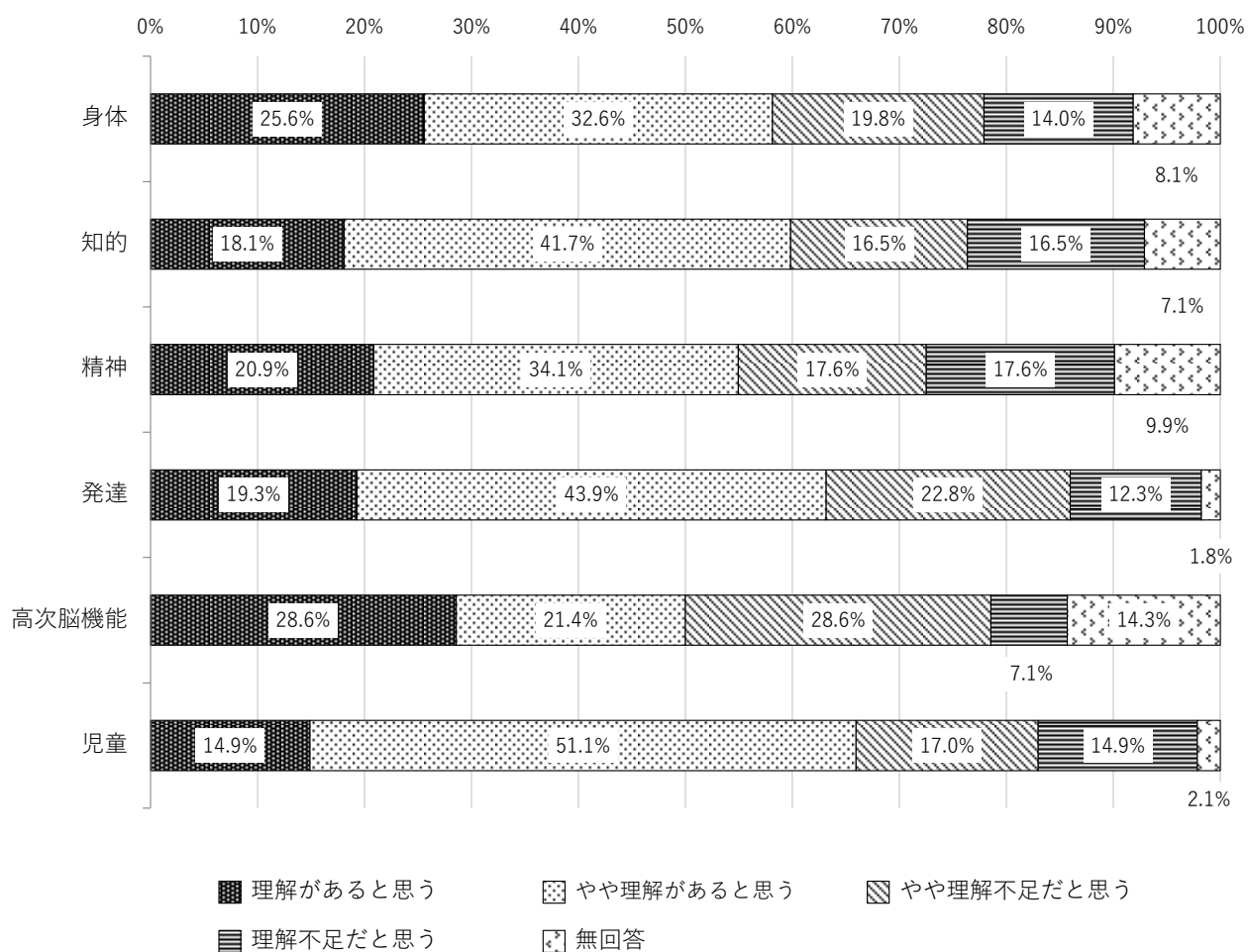
有効回答数：292

■全体に対する選択肢ごとの割合



「1 理解があると思う」、「2 やや理解があると思う」を合算した割合では、大半は理解があると感じていますが、「高次脳機能」では、理解不足と感じている割合も高くなっています。

■障害種別ごとの割合



障害種別ごとに見ると、「1 理解があると思う」、「2 やや理解があると思う」を合算すると「発達」が最も多く 63.2%となっており、6 割を超えています。次いで、「知的」59.8%、「身体」58.1%の順になっています。

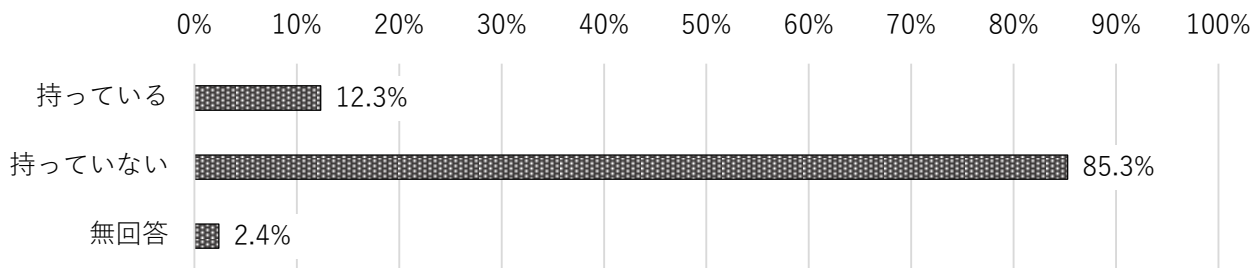
問 16 あなたは、障害のある方が困ったときに、誰かに助けを受けるための「ヘルプマーク」を持っていますか。(1つに○)

単位：人

選 択 肢	全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能	無回答	児童
1 持っている	36	14	19	13	8	4	0	7
2 持っていない	249	71	103	76	49	10	0	40
99 無回答	7	1	5	2	0	0	0	0
合計	292	86	127	91	57	14	0	47

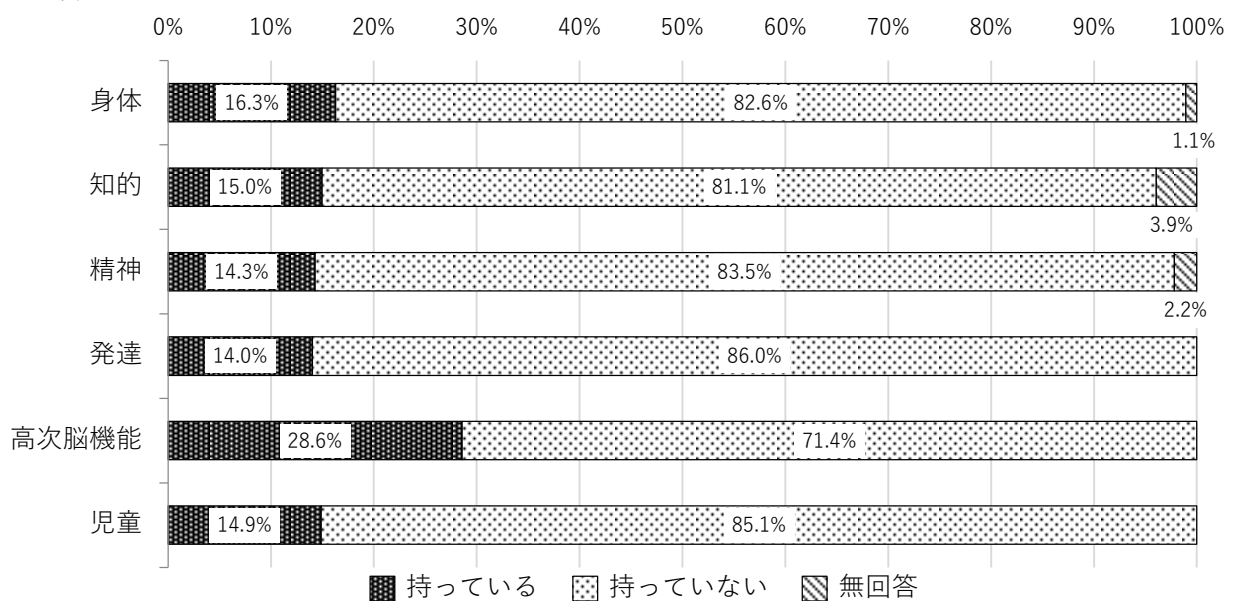
有効回答数：292

■全体に対する選択肢ごとの割合



「1 持っている」は12.3%と1割程度であり、「2 持っていない」は85.3%となっており、ヘルプマークを持っていない割合が高くなっています。

■障害種別ごとの割合



「高次脳機能」では、「1 持っている」の割合が3割近いですが、その他の障害は全体的に1割半ばとなっています。

問 16 で「1.持っている」と答えた方におたずねします。

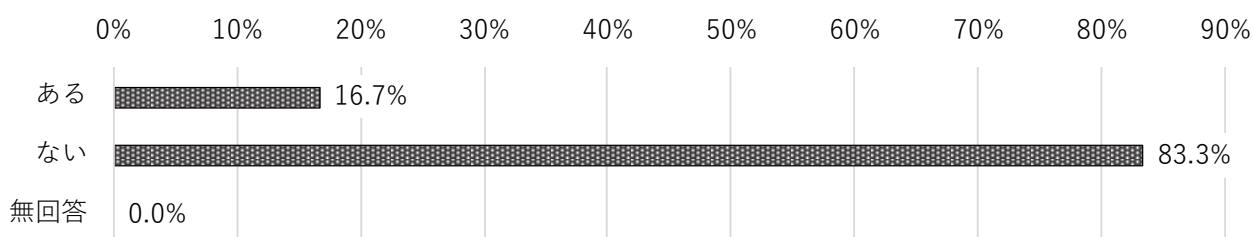
問 17 マークを見せて、誰かに手助けを受けたことがありますか。
(1 つに○)

単位：人

選 択 肢	全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能	無回答	児童
1 ある	6	2	3	2	2	1	0	1
2 ない	30	12	16	11	6	3	0	6
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	36	14	19	13	8	4	0	7

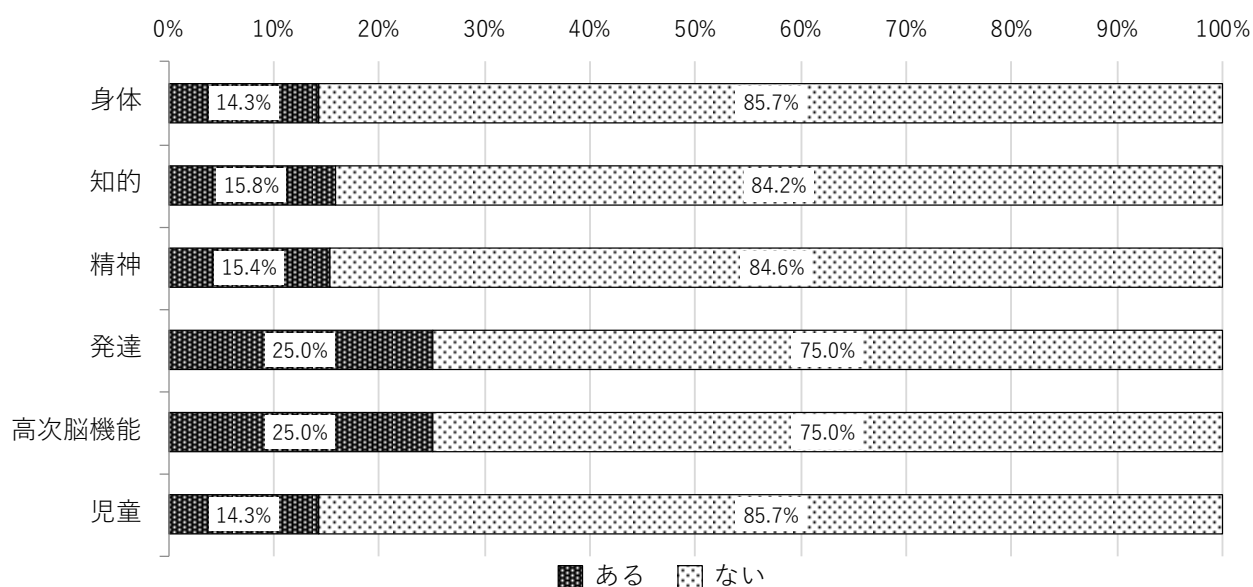
有効回答数：36

■全体に対する選択肢ごとの割合



「1 ある」と回答した割合は 14.3% となっており、大部分の方がヘルプマークの効果を感じていません。

■障害種別ごとの割合



「発達」、「高次脳機能」では、「1 ある」の割合が 2 割半ですが、その他の障害は全体的に 1 割半となっています。

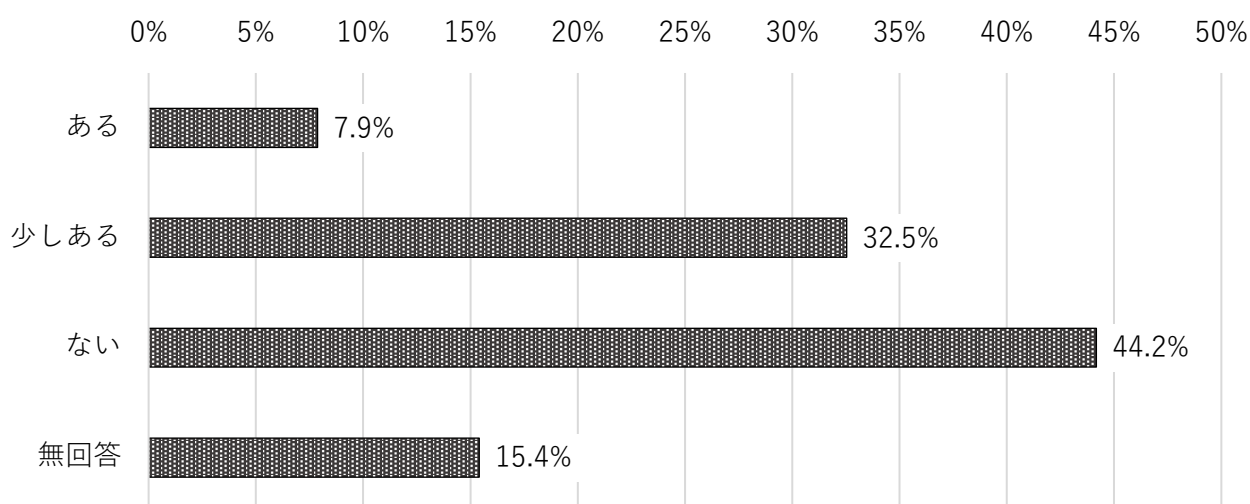
問 18 地域の人とつながりを持てる場や、交流する機会がありますか。
(1 つに○)

単位：人

選 択 肢	全体	身体	知的	精神	発達	高次脳 機能	無回答	児童
1 ある	23	3	6	10	5	0	0	6
2 少しある	95	27	37	24	23	3	0	23
3 ない	129	41	66	41	21	9	0	14
無回答	45	15	18	16	8	2	0	4
合計	292	86	127	91	57	14	0	47

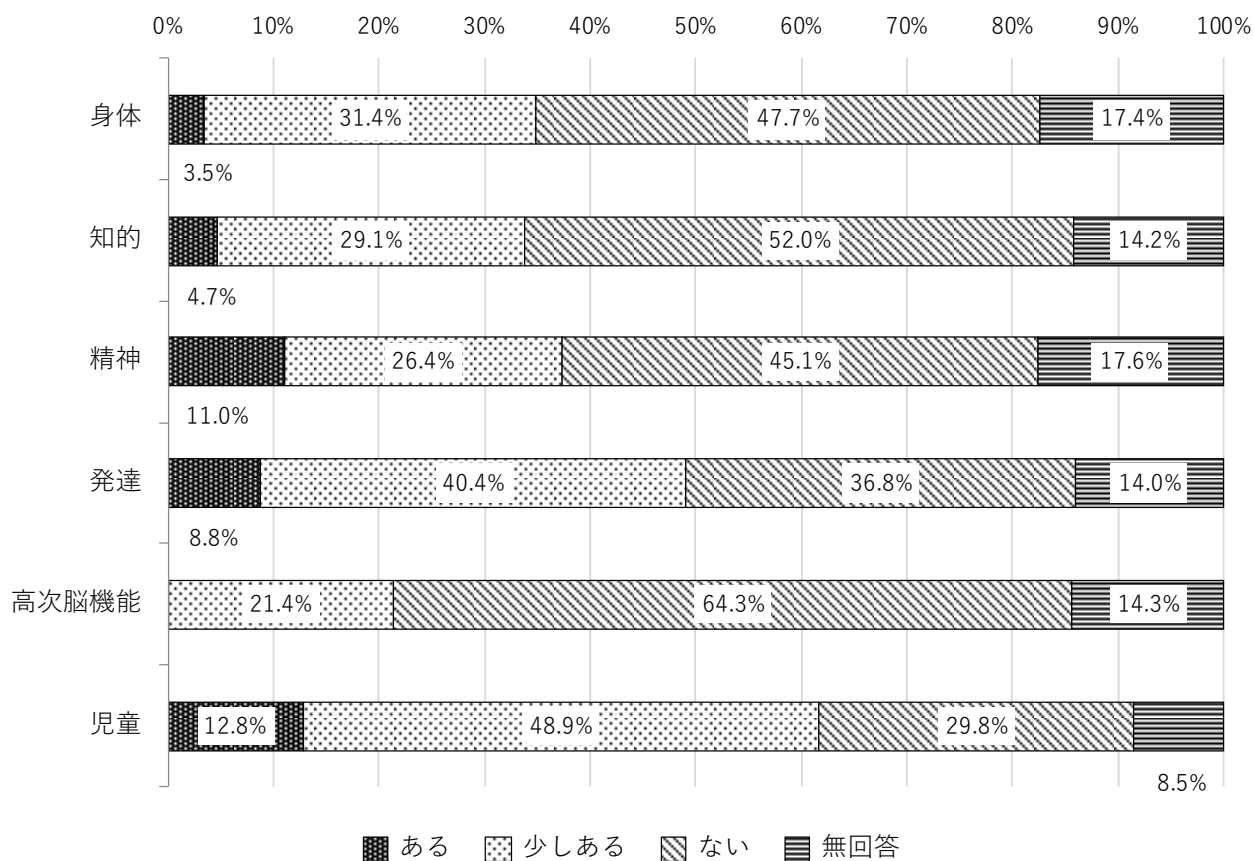
有効回答数：292

■全体に対する選択肢ごとの割合



「3 ない」と回答した割合は 44.2%であり、約半数の人が地域の人とつながりを持てる場や、交流する機会がないと感じています。

■障害種別ごとの割合



「1 ある」と「2 少しある」を合算した割合は、「発達」が一番高く 49.1%となっており、約半数が地域の人とのつながりを持てる場や、交流する機会があると回答しています。

そのほかの障害種別では、「1 ある」と「2 少しある」を合算した割合は「ない」を下回っており、地域の人とつながりを持てる場や、交流する機会がないと感じています。

問 18 で「1.ある」「2.少しある」と答えた方におたずねします。

問 19 どんなつながりや機会がありますか。

(あてはまるものすべてに○)

単位：人

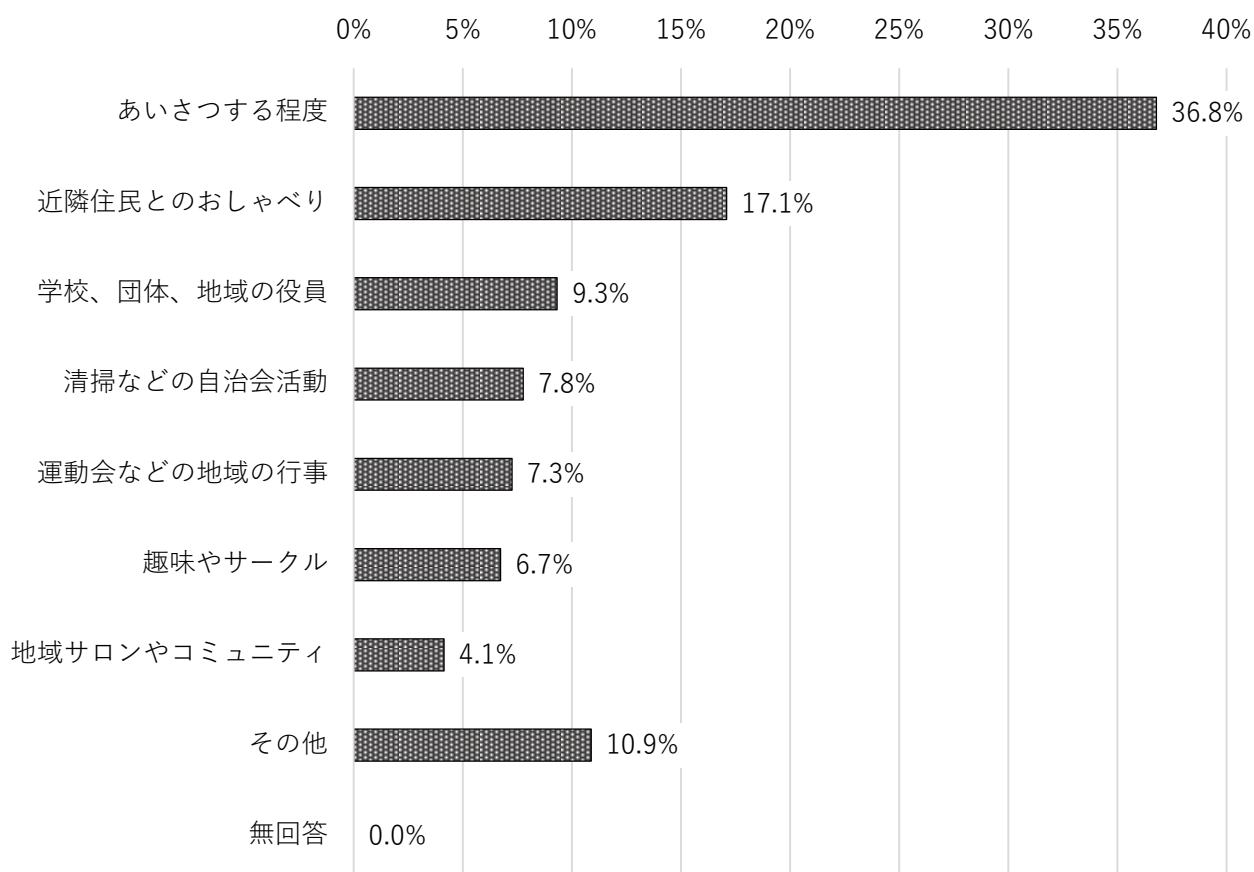
選 択 肢	全体	身体	知的	精神	発達	高次脳 機能	無回答	児童
1 運動会などの地域の行事	14	0	7	1	8	0	0	9
2 清掃などの自治会活動	15	1	6	5	4	0	0	5
3 近隣住民とのおしゃべり	33	11	10	11	5	1	0	8
4 地域サロンやコミュニティ	8	2	1	3	2	0	0	1
5 趣味やサークル	13	6	3	4	2	0	0	2
6 学校、団体地域の役員	18	2	7	4	9	0	0	13
7 あいさつする程度	71	20	22	23	18	3	0	14
8 その他	21	7	10	8	4	1	0	3
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	193	49	66	59	52	5	0	55

有効回答数：118

■主な「その他」の記載

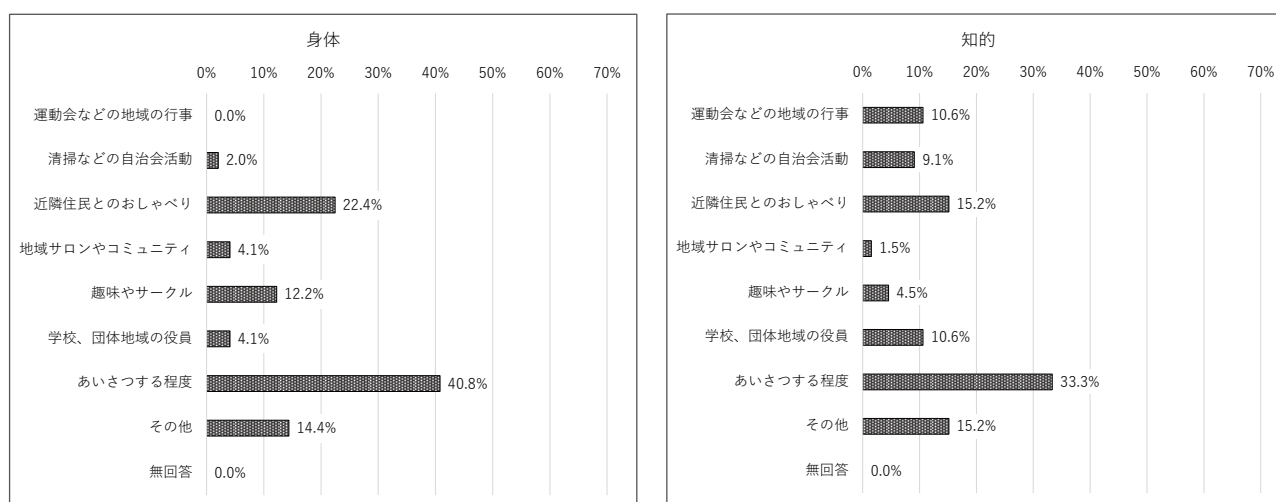
- ・「病院のデイケア」
- ・「買い物や通勤の時に会う程度」
- ・「学校交流」
- ・「買物、主催するバザー」

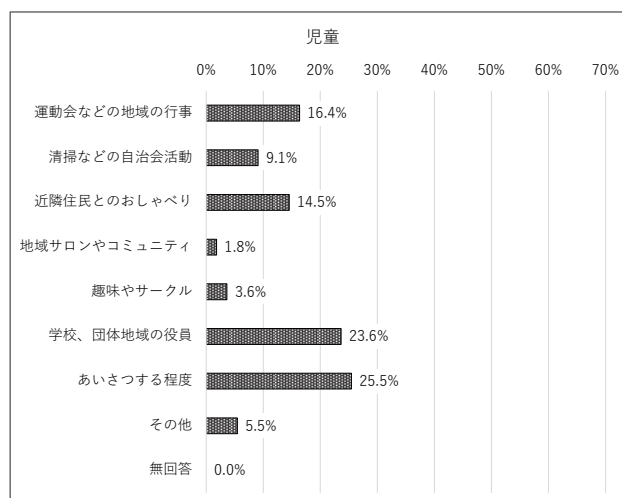
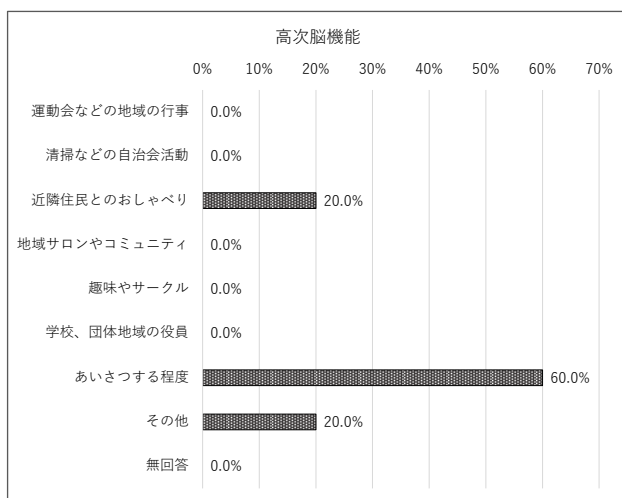
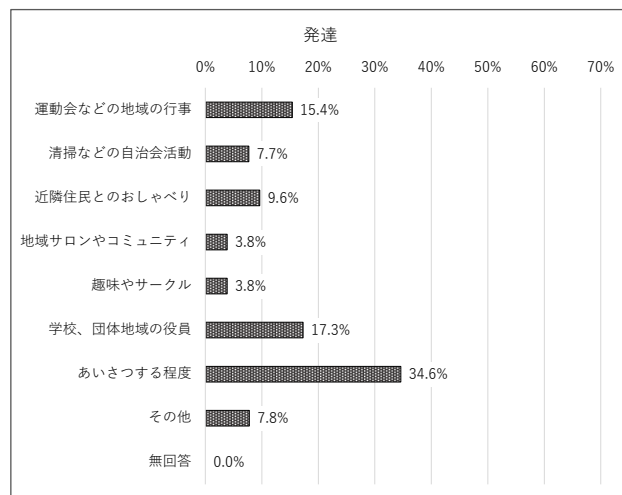
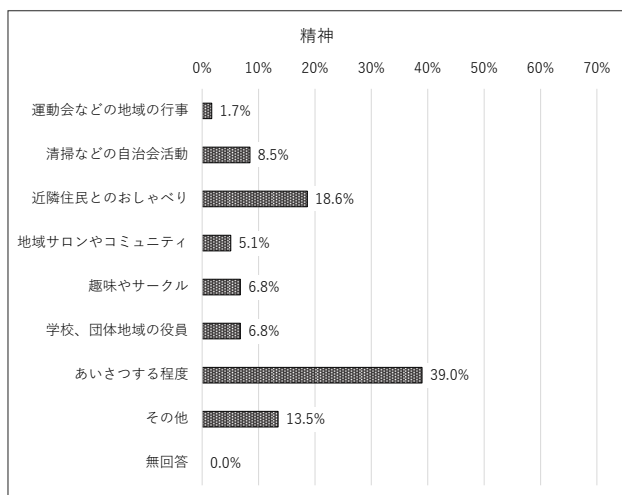
■全体に対する選択肢ごとの割合



「7 あいさつする程度」が最も多く 36.8%となっており、次いで、「3 近隣住民とのおしゃべり」が 17.1%となっています。

■障害種別ごとの割合





全ての障害種別において、「7 あいさつする程度」が最も多くなっています。「発達」、「児童」においては、「6 学校、団体地域の役員」の割合も高くなっています。

「発達」、「児童」以外の障害種別においては、「3 近隣住民とおしゃべり」の割合も高くなっています。

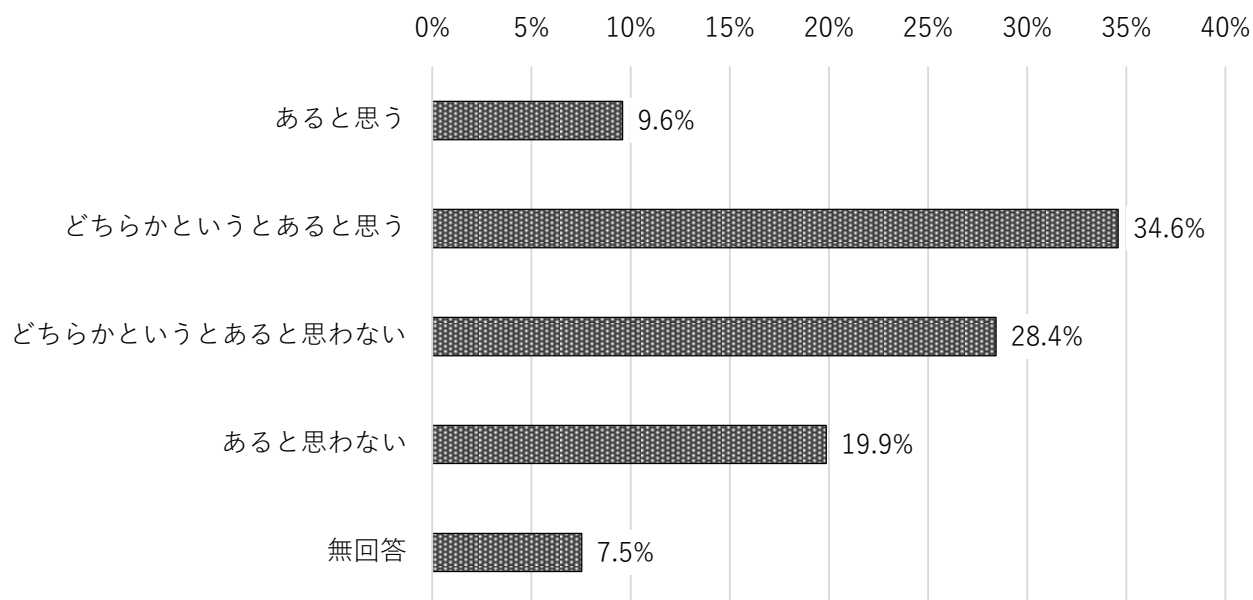
問 20 あなたがお住まいの地域で、住民同士の助け合いがあると思いますか。(1 つに○)

単位：人

選 択 肢	全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能	無回答	児童
1 あると思う	28	8	7	14	1	4	0	2
2 どちらかというところがあると思う	101	30	46	29	27	2	0	20
3 どちらかというところはない	83	26	39	22	17	4	0	17
4 あると思わない	58	17	24	22	10	3	0	8
無回答	22	5	11	4	2	1	0	0
合計	292	86	127	91	57	14	0	47

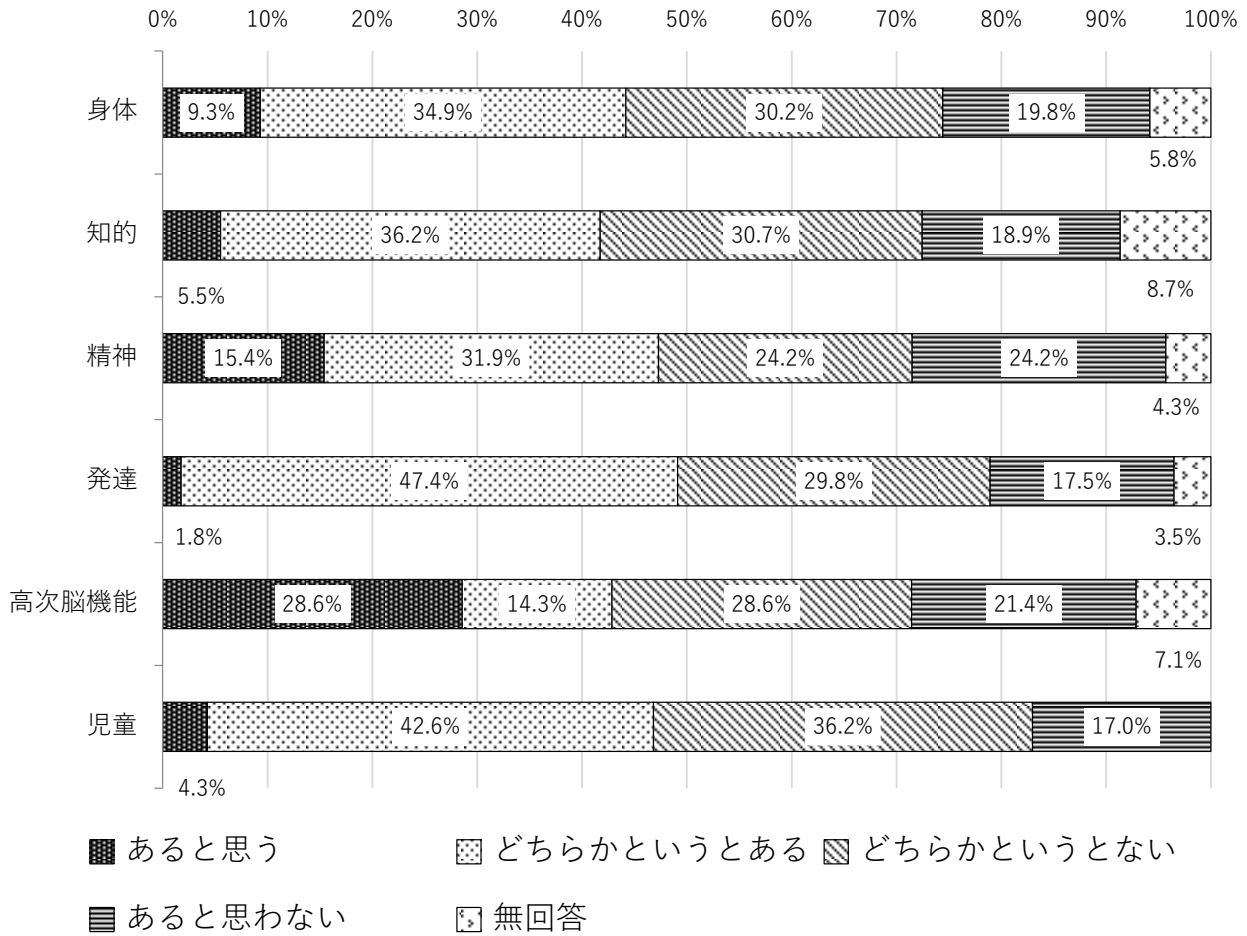
有効回答数：292

■全体に対する選択肢ごとの割合



「1 あると思う」と「2 どちらかというところがあると思う」を合算した割合は 44.2%、「3 どちらかというところはない」と「4 あると思わない」を合算した割合は 48.3%となっており、住民同士の支え合いがないと感じている割合が若干、上回っています。

■ 障害種別ごとの割合



障害種別でみると、「1 あると思う」と「2 どちらかというところ」とを合算した割合は「発達」が最も多く、49.1%となっており、5割程度となっています。

「3 どちらかというところない」と「4 あると思わない」を合算した割合は、「児童」が最も多く、53.2%となっており、5割を超えています。

問 21 あなたがお住まいの地域に、あってほしい住民同士の助け合いはありますか。(3つまで○)

単位：人

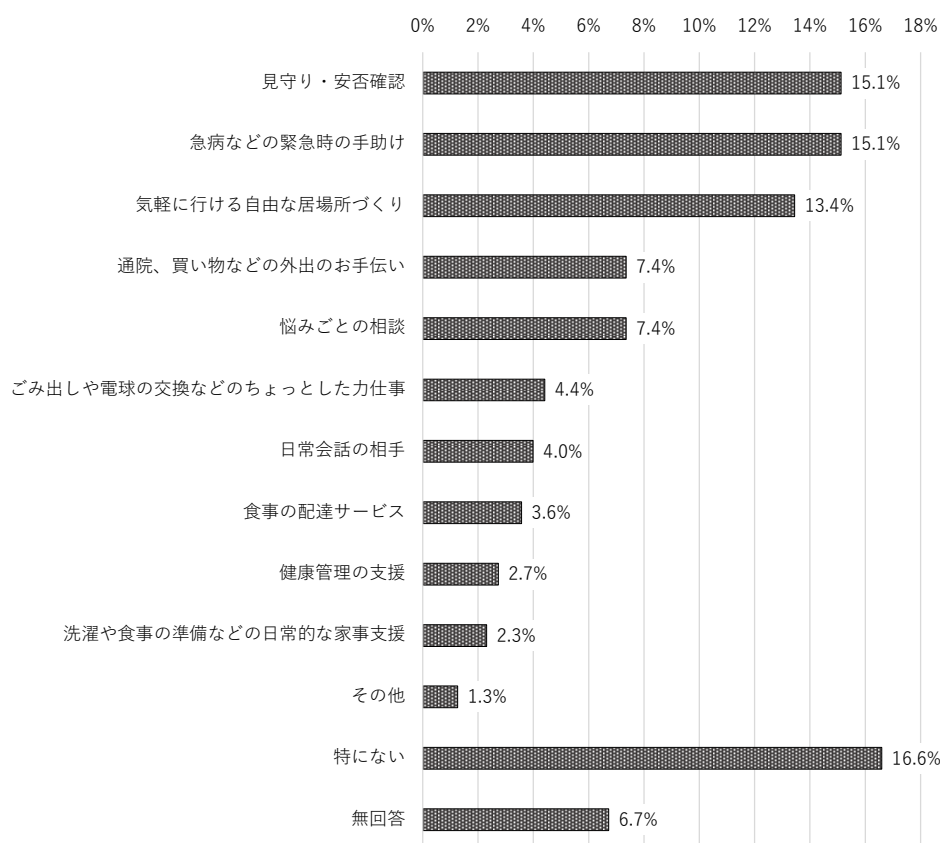
選 択 肢	全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能	無回答	児童
1 洗濯や食事の準備などの日常的な家事支援	11	3	5	6	1	1	0	0
2 ごみ出しや電球の交換などのちょっとした力仕事	21	8	4	13	2	1	0	1
3 通院、買い物などの外出のお手伝い	35	16	13	13	1	2	0	4
4 食事の配達サービス	17	5	7	9	2	0	0	3
5 健康管理の支援	13	1	4	8	2	0	0	3
6 見守り・安否確認	72	24	40	16	16	0	0	18
7 悩みごとの相談	35	8	8	20	8	2	0	7
8 日常会話の相手	19	2	6	11	1	0	0	3
9 急病などの緊急時の手助け	72	25	33	21	18	4	0	16
10 気軽に行ける自由な居場所づくり	64	20	26	19	13	5	0	15
11 その他	6	2	3	0	2	1	0	2
12 特にない	79	22	37	21	18	3	0	9
無回答	32	11	15	8	2	3	0	1
合計	476	147	201	165	86	22	0	82

有効回答数：292

■主な「その他」の記載

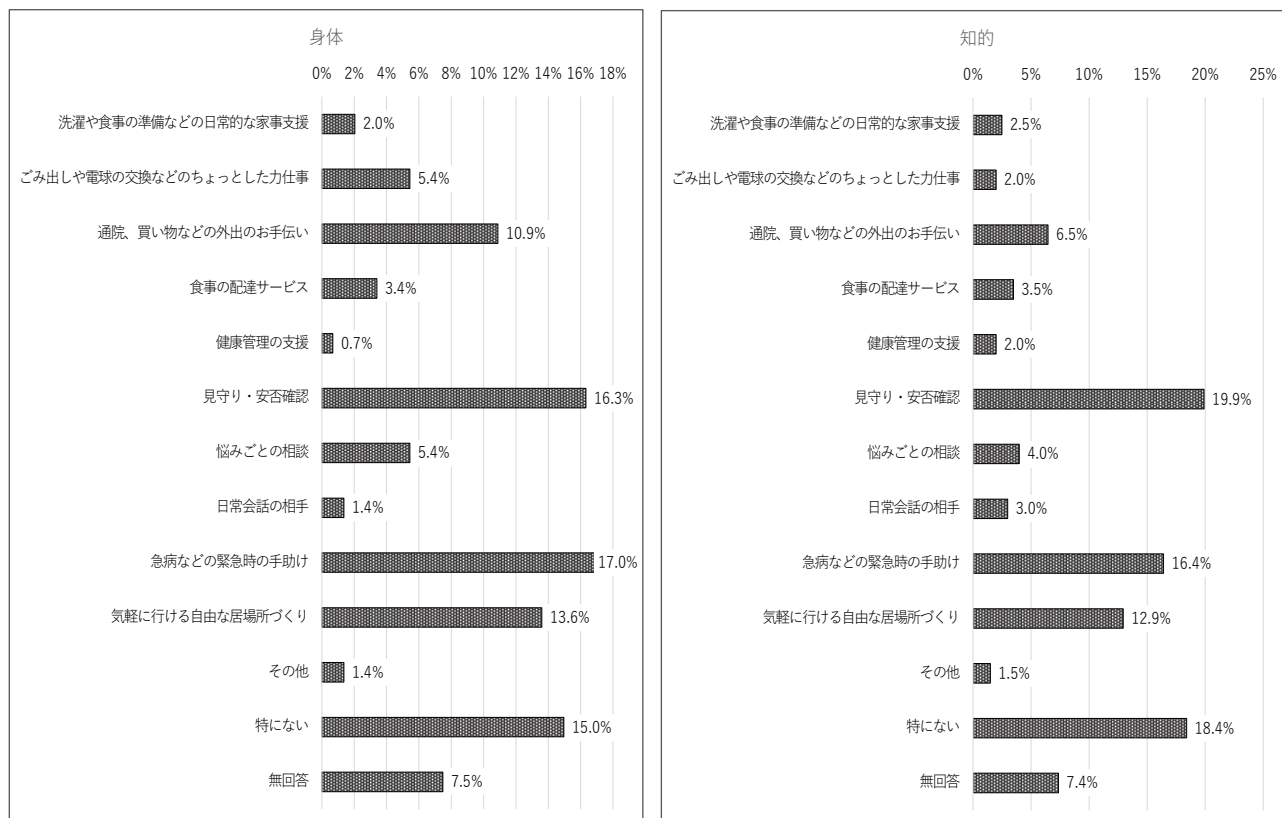
- ・「なるべく迷惑をかけない。地域のルール、人としてのマナーを守る」
- ・「災害など緊急時の手助け」
- ・「市役所などの手続き」
- ・「ヘルパーさん」

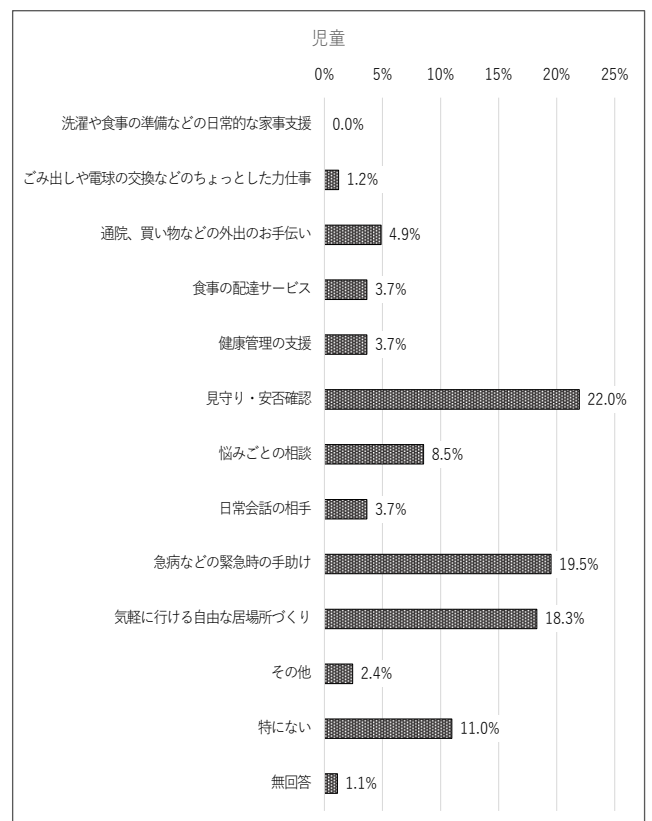
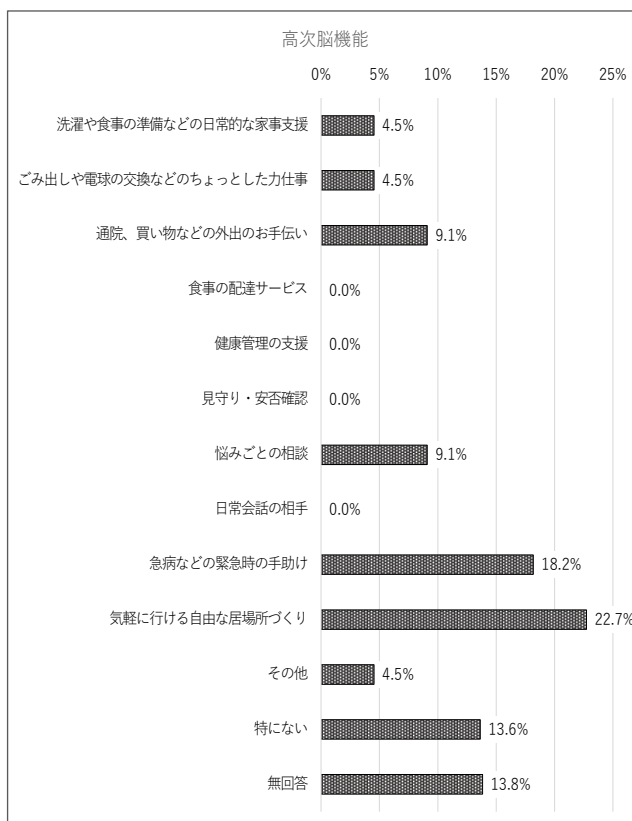
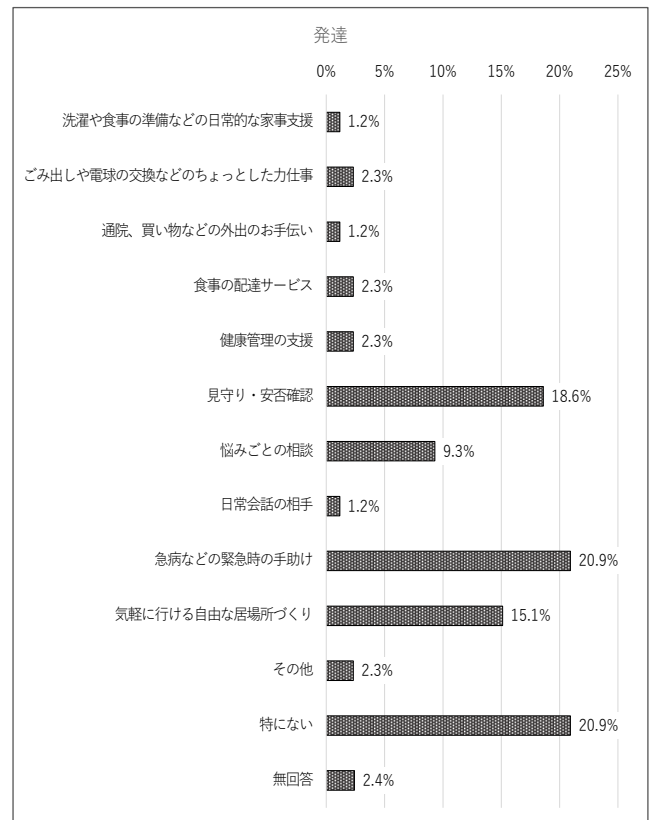
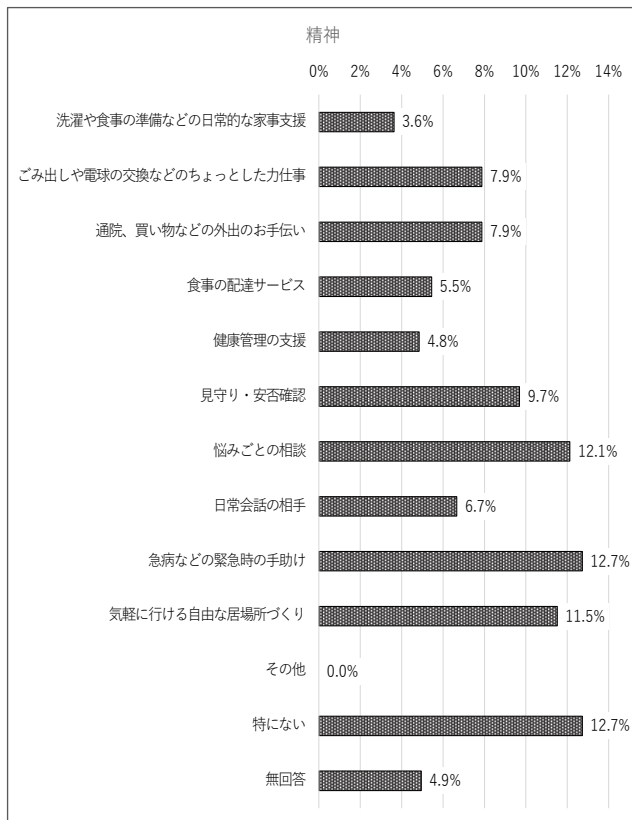
■全体に対する選択肢ごとの割合



「6 見守り・安否確認」「9 急病などの緊急時の手助け」が最も多くなっています。次いで、「気軽に行ける自由な居場所づくり」となっています。

■障害種別ごとの割合





障害種別ごとに、あってほしい住民同士の助け合いは様々ですが、「6 見守り・安否確認」、
「9 急病などの緊急時の手助け」、「10 気軽に行ける自由な居場所づくり」の割合が高くなっ
ています。

問 22 あなたは自宅、学校、職場（事業所を含む）以外の居場所が必要ですか。（1つに○）

単位：人

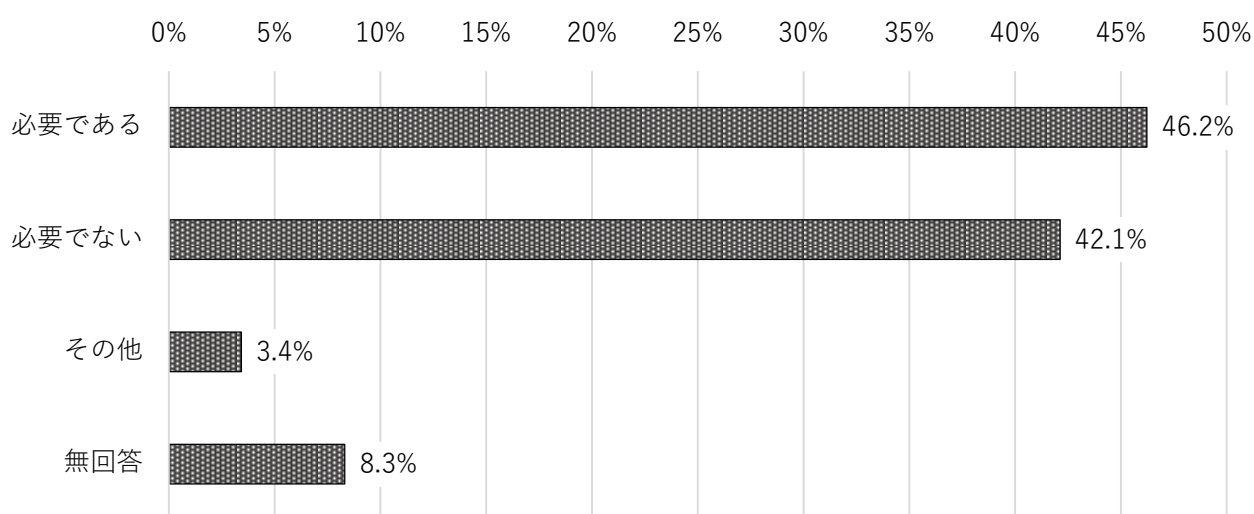
選 択 肢	全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能	無回答	児童
1 必要である	135	33	57	49	30	7	0	28
2 必要でない	123	40	50	36	25	4	0	16
3 その他	10	4	6	4	1	1	0	2
無回答	24	9	14	2	1	2	0	1
合計	292	86	127	91	57	14	0	47

有効回答数：292

■主な「その他」の記載

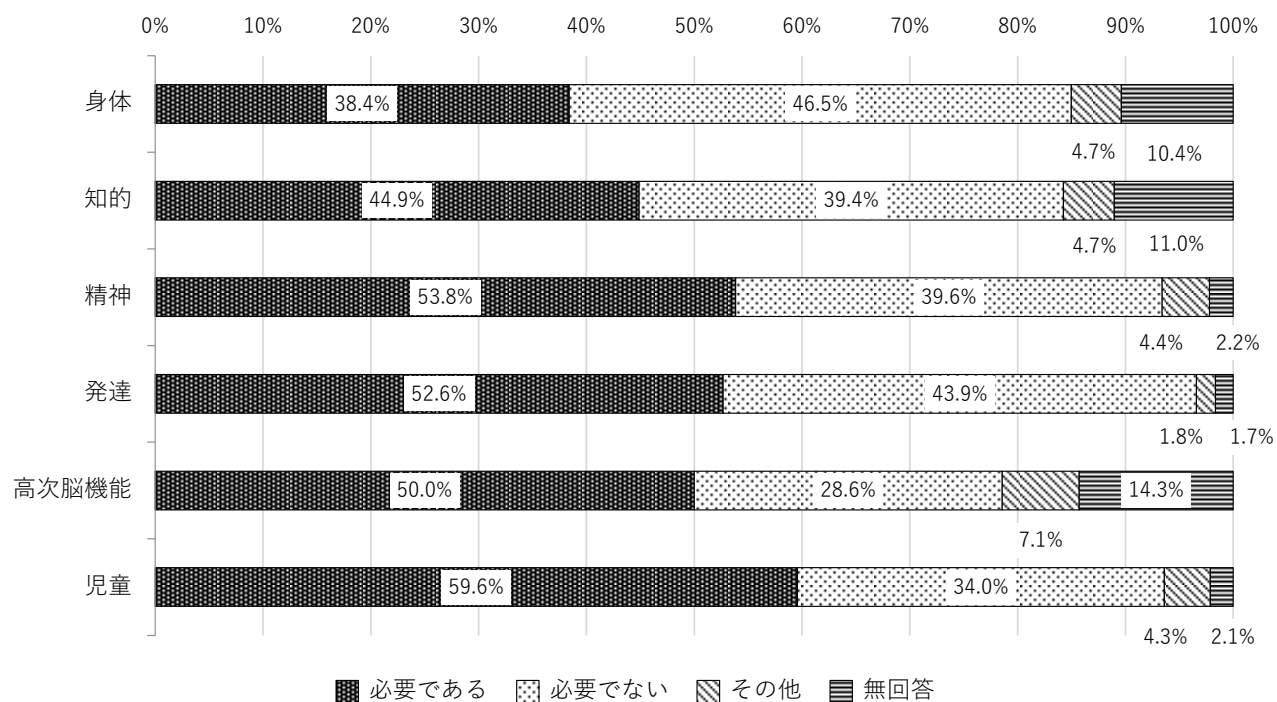
- ・「本人は自宅と施設で満足しているが、家族はサードプレイスがあるとより良いのではと考えている」
- ・「障害者であることをよく知っていただける機会を持ちたい」
- ・「現在の所は必要性を感じないが、将来的には必要かも知れない」
- ・「グループホーム」

■全体に対する選択肢ごとの割合



「1 必要である」が最も多く、4割半ばとなっています。

■障害種別ごとの割合



障害種別でみると、「1 必要である」は「児童」が最も多く、59.6%となっており、6割近くとなっています。

「身体」は、「必要でない」が46.5%となっており、「1 必要である」を上回っています。

問 22 で「1.必要である」と答えた方におたずねします。

問 23 あなたが考える自分の居場所とはどんな場所ですか。
(3つまで○)

単位：人

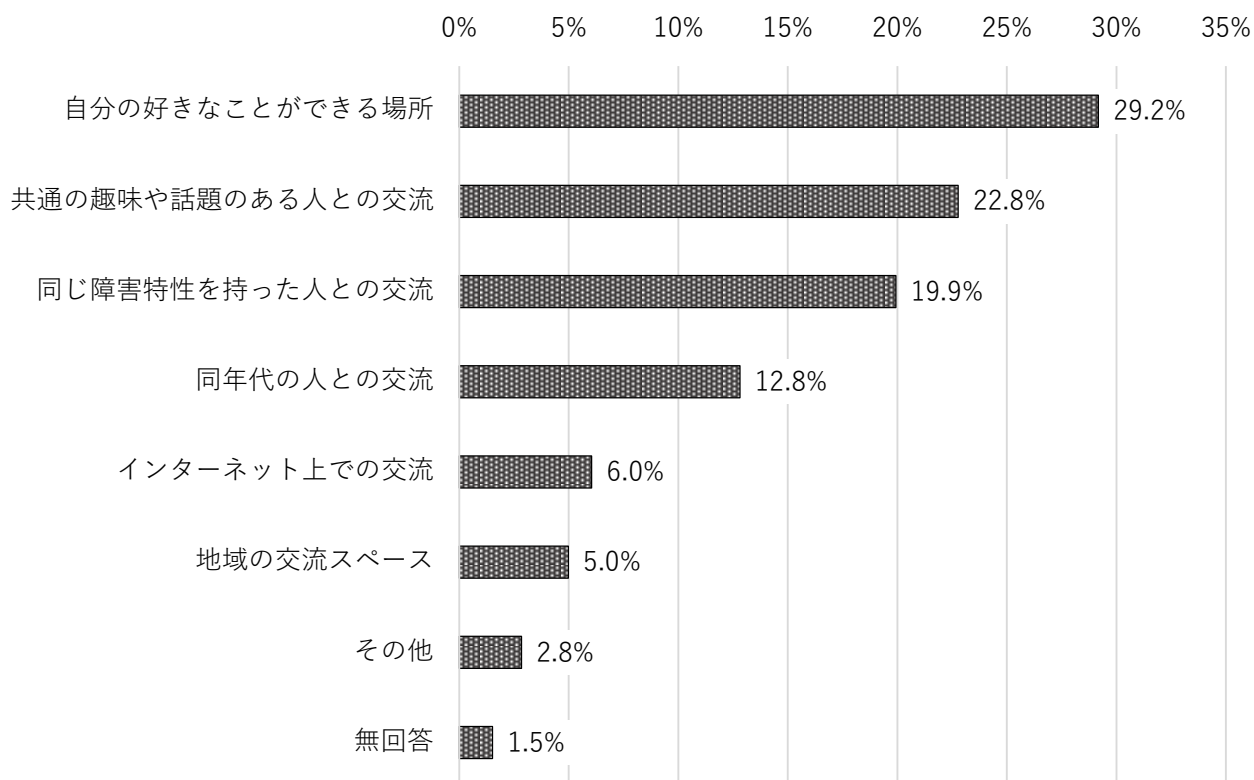
選 択 肢	全体	身体	知的	精神	発達	高次脳 機能	無回答	児童
1 共通の趣味や話題のある人との交流	64	12	23	27	14	2	0	14
2 インターネット上での交流	17	1	2	11	5	0	0	3
3 同じ障害特性を持った人との交流	56	16	25	21	5	4	0	8
4 自分の好きなことができる場所	82	20	34	29	25	5	0	21
5 同年代の人との交流（障害の有無を問わない）	36	9	14	15	10	1	0	9
6 地域の交流スペース	14	5	5	6	3	2	0	3
7 その他	8	1	3	4	1	1	0	0
無回答	4	2	3	1	1	0	0	1
合計	281	66	109	114	64	15	0	59

有効回答数：258

■主な「その他」の記載

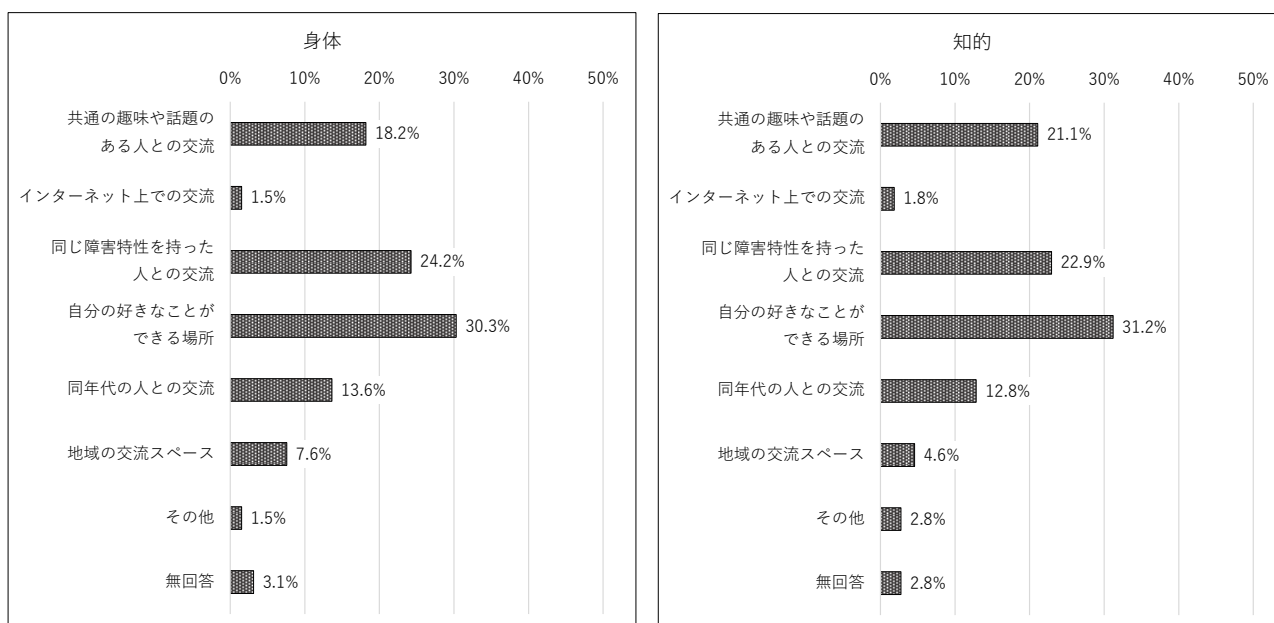
- ・「ちょっとした息抜きのできる場所」
- ・「ボランティアの人が相手をしてくれる所」
- ・「リハビリの交流」
- ・「孤独にならないような所」
- ・「自然の音に囲まれた静かな環境。1人で瞑想したい」
- ・「悩みの相談やアドバイスをもらえるところ」

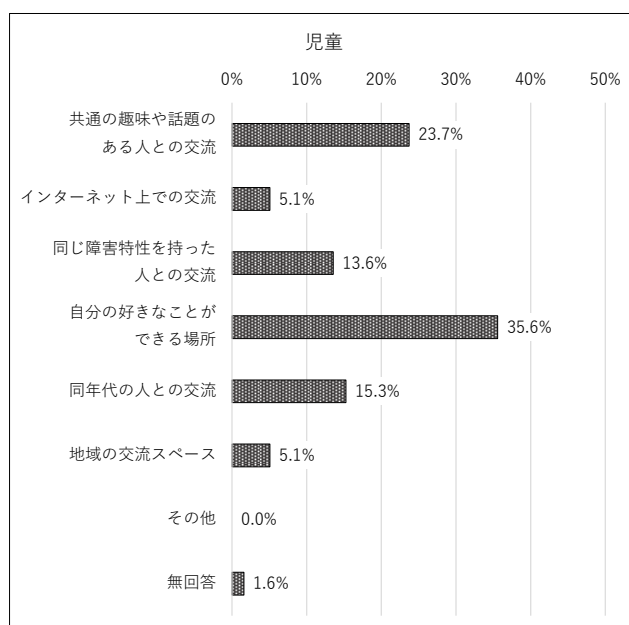
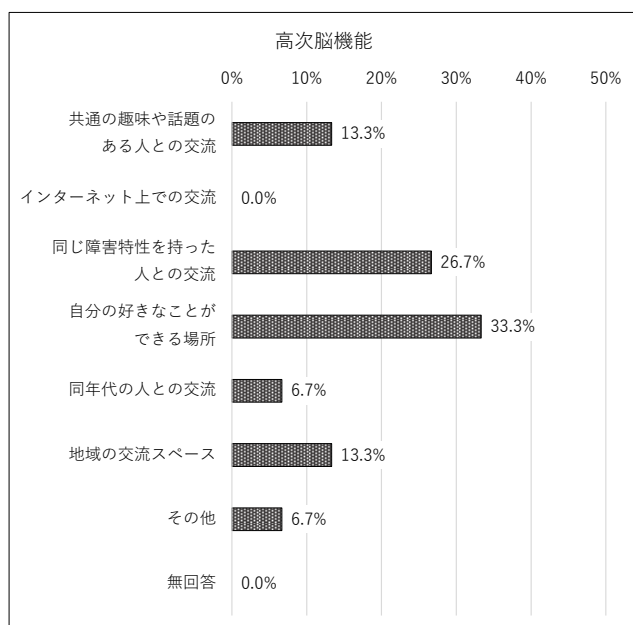
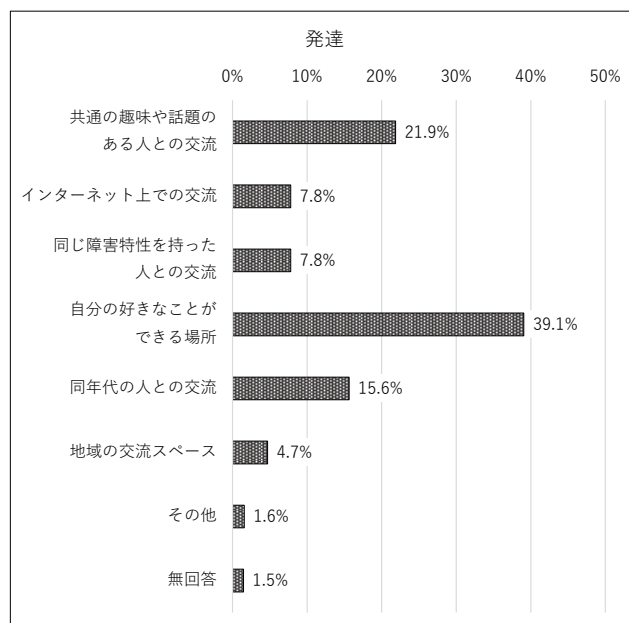
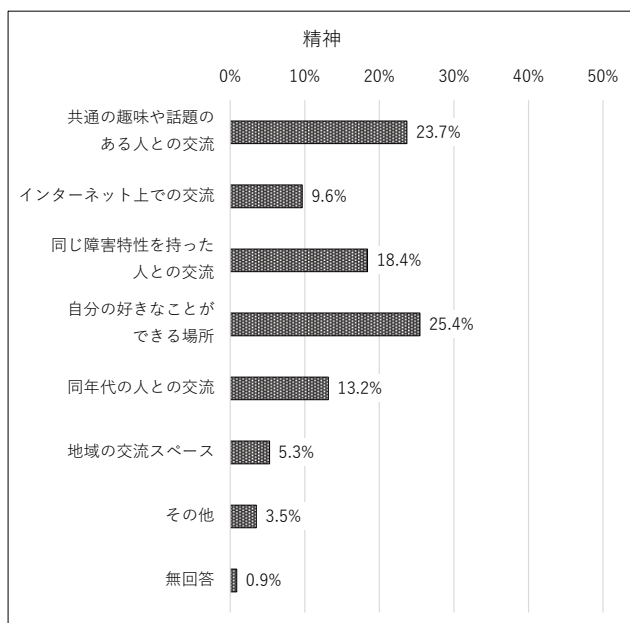
■全体に対する選択肢ごとの割合



「4 自分の好きなことができる場所」が最も多く、次いで、「1 共有の趣味や話題のある人との交流」、「3 同じ障害特性を持った人との交流」の順になっています。

■障害種別ごとの割合





全ての障害種別において、「4 自分の好きなことができる場所」が最も多くなっています。

「身体」、「知的」、「高次脳機能」においては、「3 同じ障害特性を持った人との交流」の割合も高くなっています。

「精神」、「発達」、「児童」においては、「1 共通の趣味や話題のある人との交流」の割合も高くなっています。

③ 訪問系サービスについて

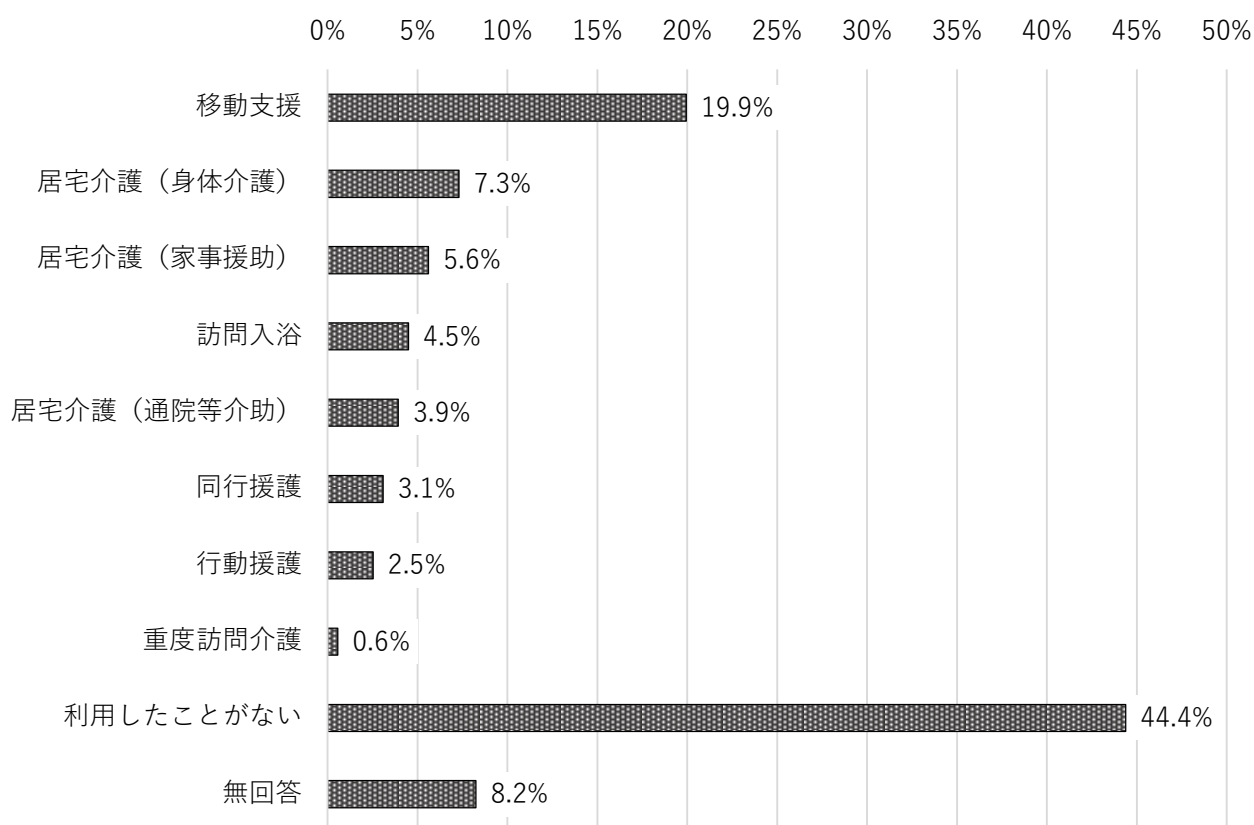
問 24 あなたは、次の訪問系サービスを利用したことがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

単位：人

選 択 肢	全体	身体	知的	精神	発達	高次脳 機能	無回答	児童
1 居宅介護（身体介護）	26	24	7	4	1	5	0	0
2 居宅介護（家事援助）	20	13	3	8	1	2	0	0
3 居宅介護（通院等介助）	14	9	4	7	1	5	0	0
4 重度訪問介護	2	2	0	0	0	0	0	0
5 同行援護	11	7	4	4	1	2	0	0
6 行動援護	9	2	9	2	4	0	0	0
7 移動支援	71	33	48	10	9	8	0	7
8 訪問入浴	16	14	4	2	0	3	0	0
9 利用したことがない	158	28	60	62	41	3	0	37
無回答	29	4	12	8	5	0	0	3
合計	356	136	151	107	63	28	0	47

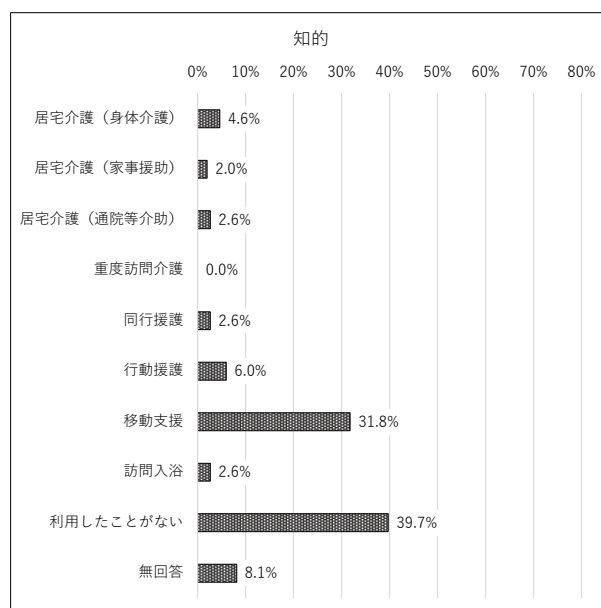
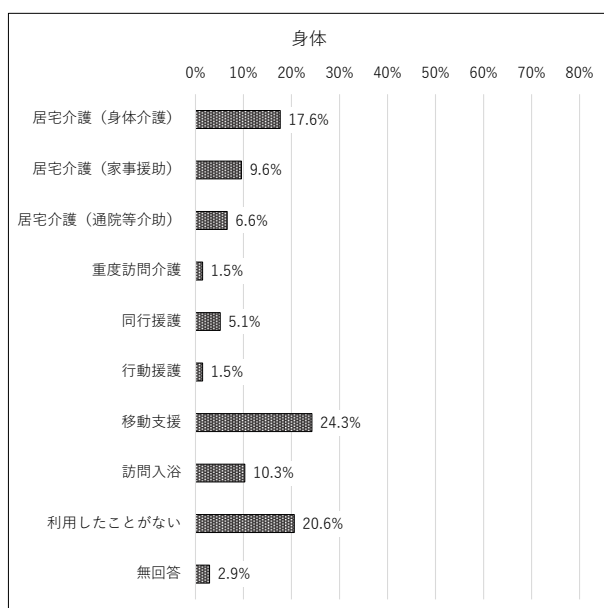
有効回答数：292

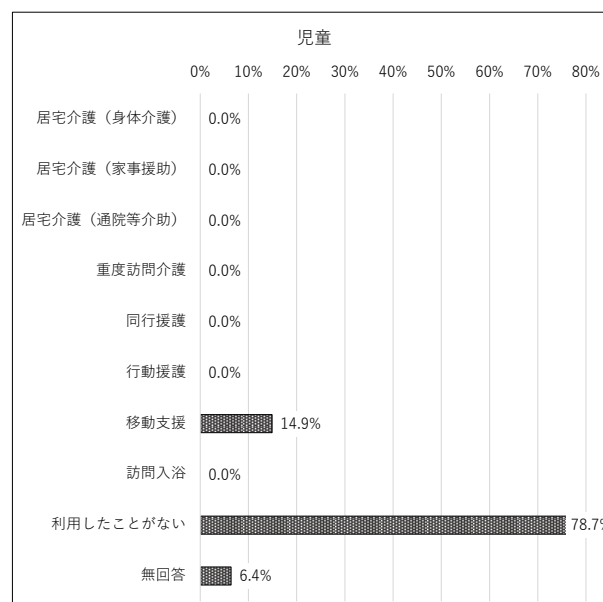
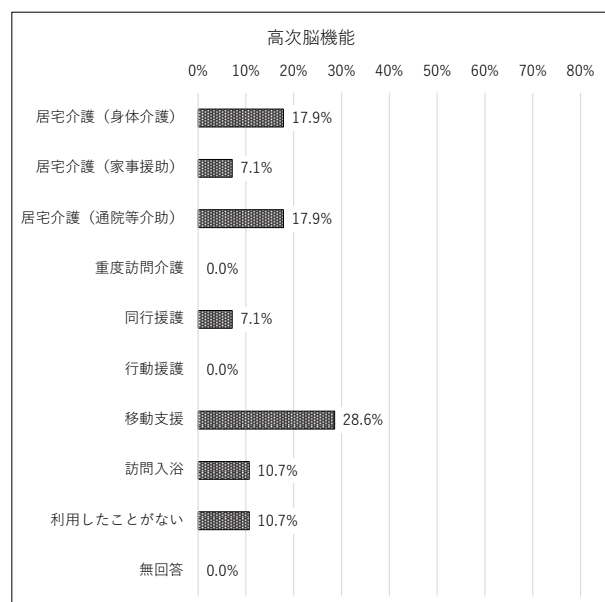
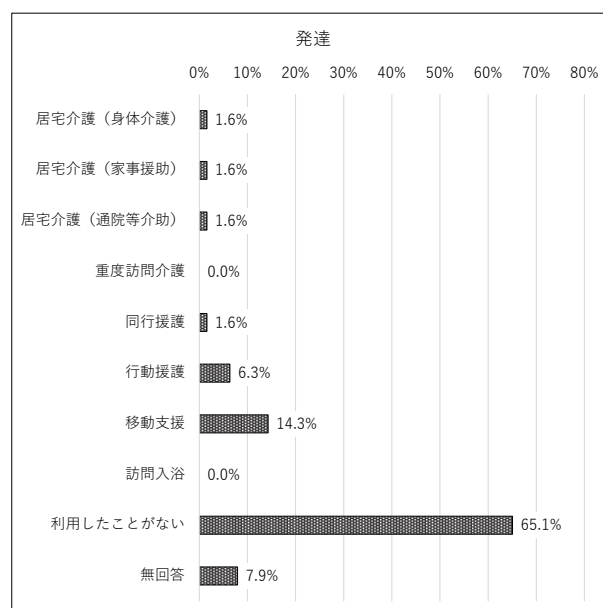
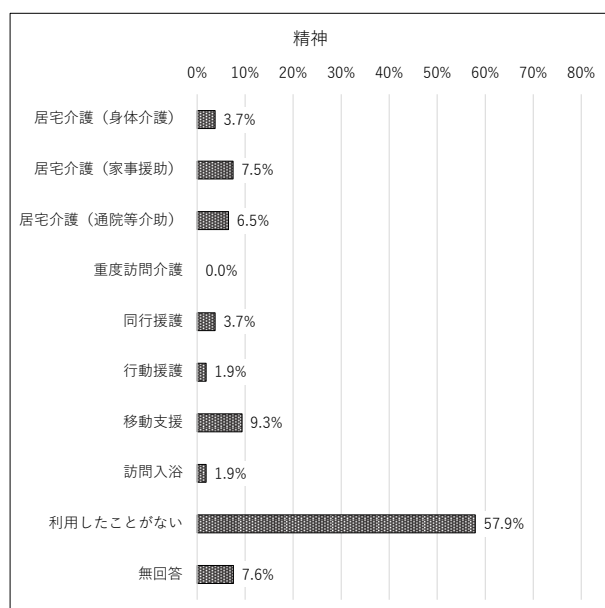
■全体に対する選択肢ごとの割合



「9 利用したことがない」が最も多く、4割半ばとなっています。次いで、「7 移動支援」となっています。

■障害種別ごとの割合





障害種別でみると、「9 利用したことがない」は「児童」が最も多く 78.7%となっており、8割に近づいています。

その他、「7 移動支援」では、「知的」や「高次脳機能」が高くなっており、比較的に利用していることが伺えます。

問 24 で 1.～8.のいずれかを答えた方におたずねします。

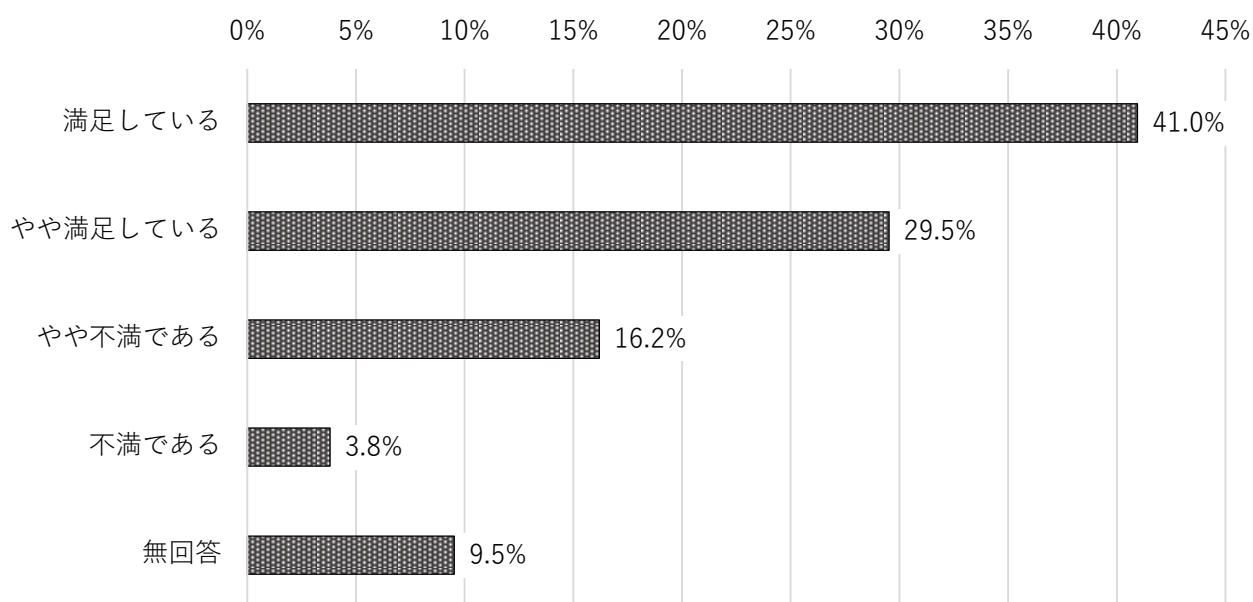
問 25 訪問系サービスで受けるサービス内容に満足していますか。
(1つに○)

単位：人

選 択 肢	全体	身体	知的	精神	発達	高次脳 機能	無回答	児童
1 満足している	43	24	19	8	8	4	0	3
2 やや満足している	31	16	14	8	0	4	0	1
3 やや不満である	17	10	11	2	3	2	0	3
4 不満である	4	0	4	0	0	0	0	0
無回答	10	4	7	3	0	1	0	0
合計	105	54	55	21	11	11	0	7

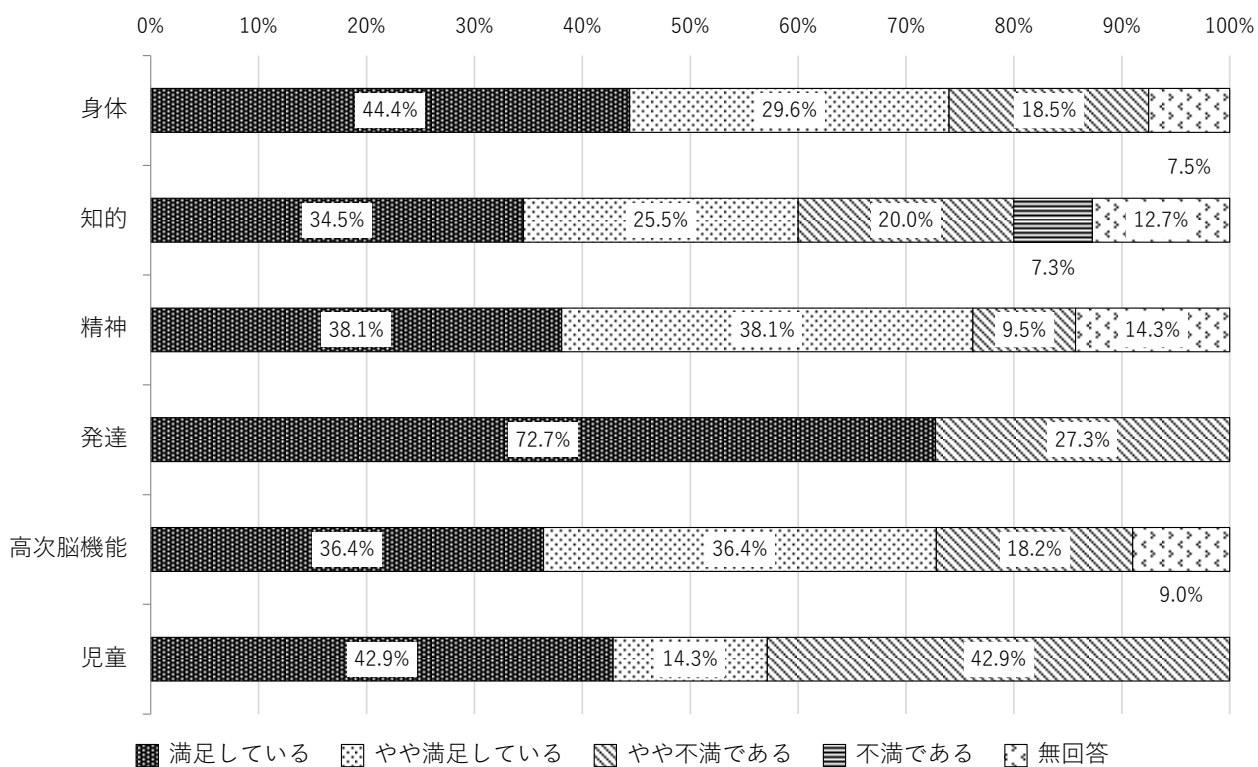
有効回答数：105

■全体に対する選択肢ごとの割合



「1 満足している」と「2 やや満足している」を合算した割合は7割を超えています。

■障害種別ごとの割合



障害別でみると、「1 満足している」は「発達」が最も多く、72.7%となっており、7割を超えています。

その他、5割を超えているものはありませんが、「身体」の「1 満足している」が44.4%、「児童」の「1 満足している」が42.9%となっています。

問 24 で 1.～8.のいずれかを答えた方におたずねします。

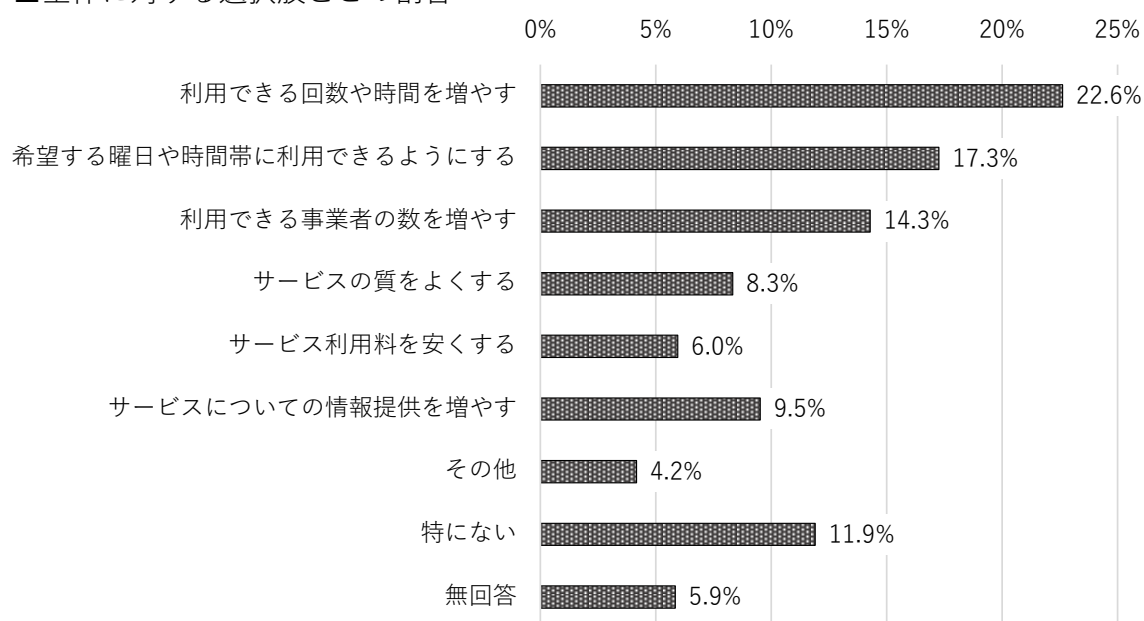
問 26 訪問系サービスについて、あなたが改善してほしい
(こうなってほしい) と思うことはなんですか。(1つに○)

単位：人

選 択 肢	全体	身体	知的	精神	発達	高次脳 機能	無回答	児童
1 利用できる回数や時間を増やす	38	20	19	7	4	4	0	2
2 希望する曜日や時間帯に利用できるようにする	29	17	14	6	2	2	0	4
3 利用できる事業者の数を増やす	24	15	15	5	3	3	0	3
4 サービスの質をよくする	14	5	7	5	1	1	0	0
5 サービス利用料を安くする	10	5	7	1	1	1	0	0
6 サービスについての情報提供を増やす	16	8	11	4	3	2	0	1
7 その他	7	4	5	0	1	1	0	0
8 特にない	20	11	8	3	3	1	0	1
無回答	10	4	5	3	0	2	0	0
合計	168	89	91	34	18	17	0	11

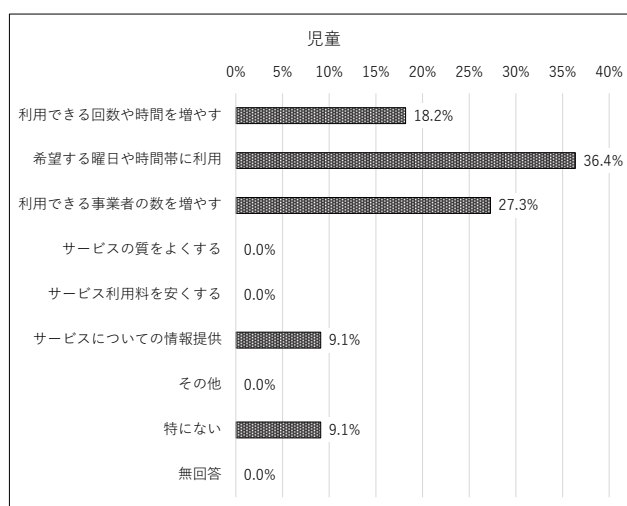
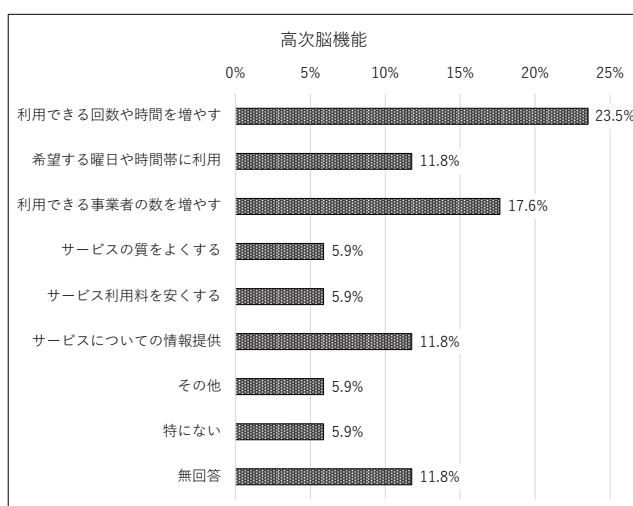
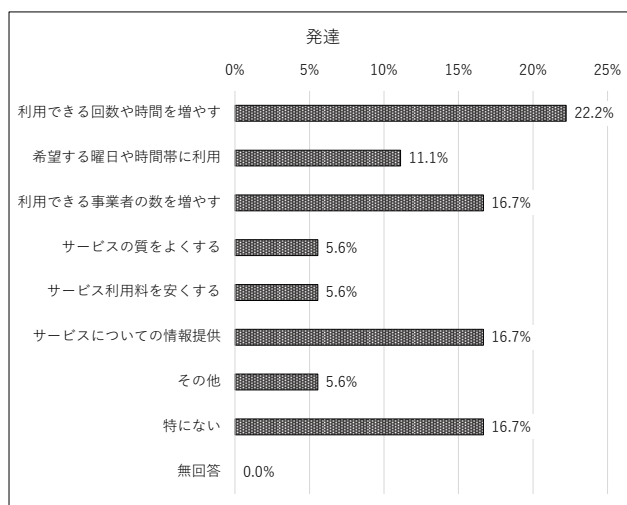
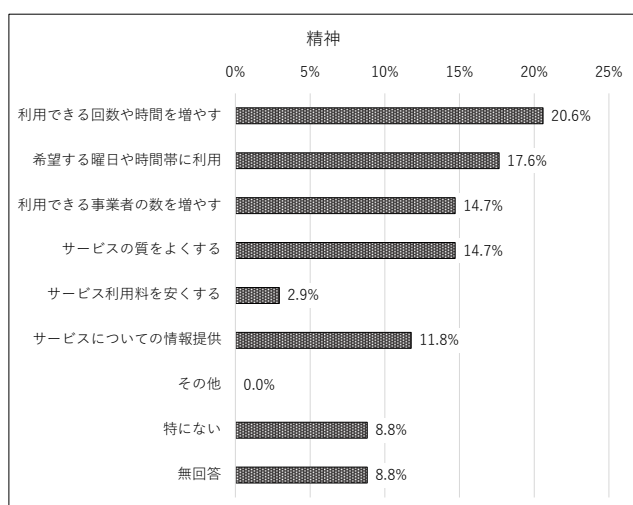
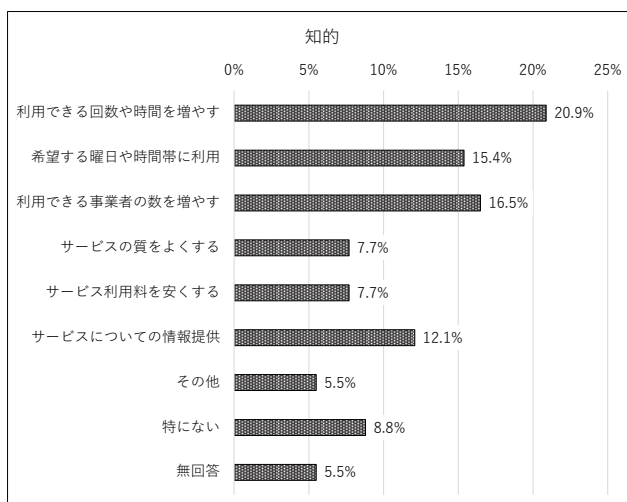
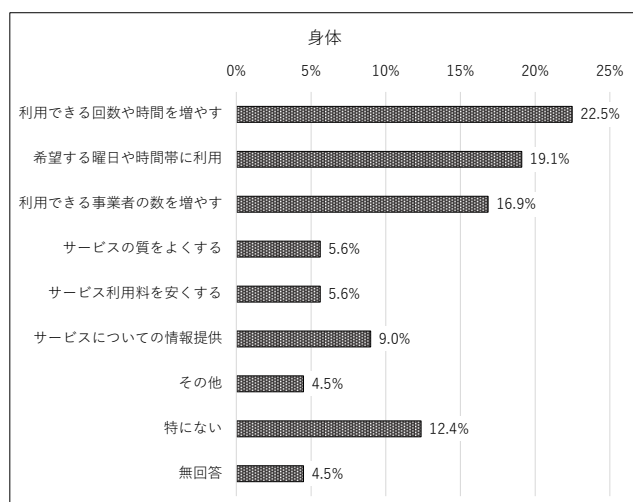
有効回答数：105

■全体に対する選択肢ごとの割合



「1 利用できる回数や時間を増やす」が最も多く、2 割を超えている。次いで、「2 希望する曜日や時間帯に利用できるようにする」、「3 利用できる事業者の数を増やす」の順になっています。

■障害種別ごとの割合



障害種別でみると、「児童」以外は、「1 利用できる回数や時間を増やす」が最も多くなっています。

その他、「2 希望する曜日や時間帯に利用」、「3 利用できる事業者の数を増やす」が上位を占めています。

④ 日中活動系サービスについて

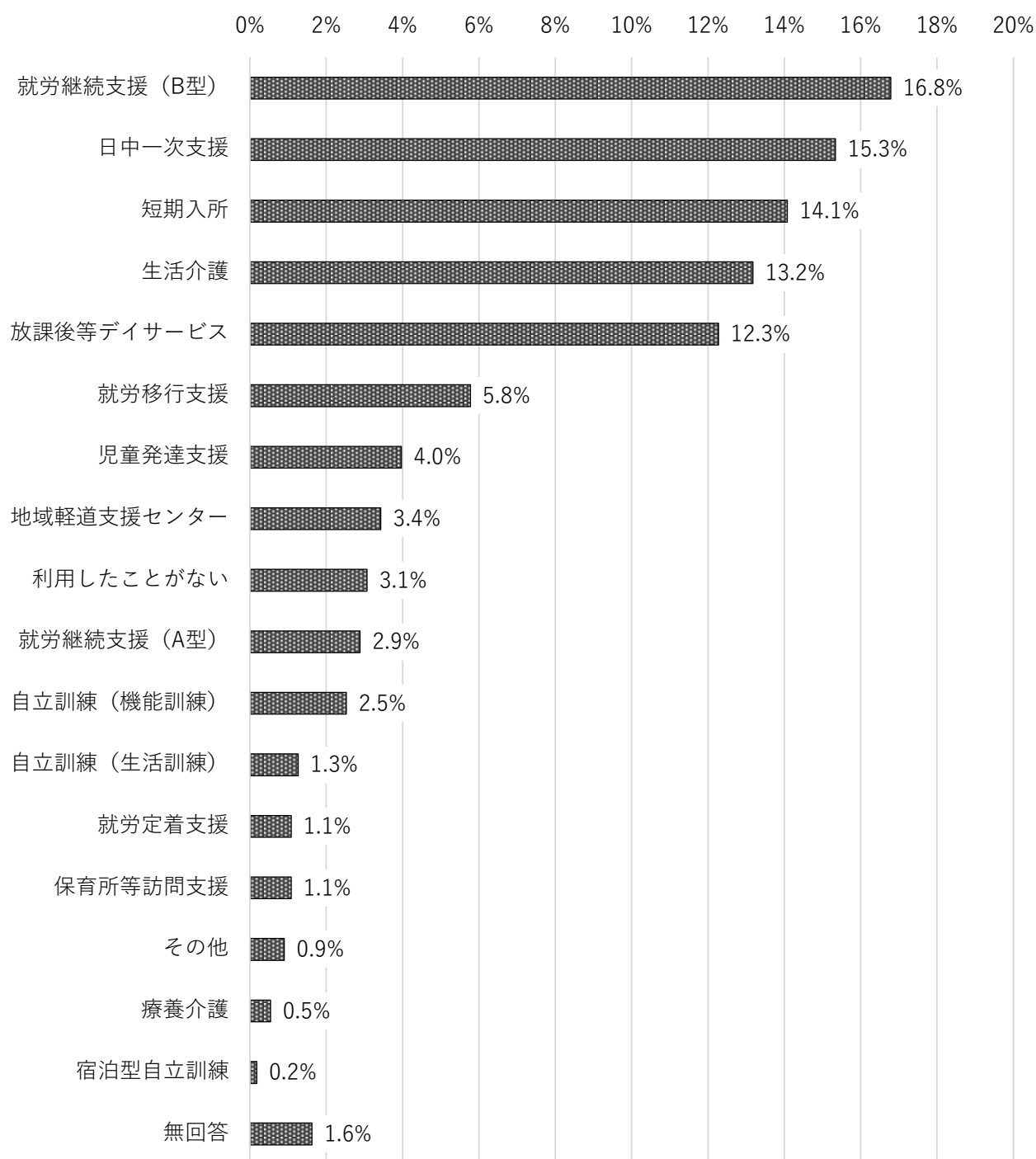
問 27 あなたは、次の日中活動系サービスを利用したことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

単位：人

選 択 肢	全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能	無回答	児童
1 短期入所	78	31	58	9	11	6	0	3
2 生活介護	73	31	47	14	9	7	0	0
3 療養介護	3	2	0	1	0	0	0	0
4 自立訓練（機能訓練）	14	11	5	5	2	2	0	2
5 自立訓練（生活訓練）	7	7	1	3	0	1	0	0
6 就労移行支援	32	5	3	22	5	1	0	0
7 就労継続支援（A型）	16	1	4	9	4	0	0	0
8 就労継続支援（B型）	93	23	32	47	12	3	0	1
9 就労定着支援	6	0	2	3	1	0	0	0
10 日中一次支援	85	23	69	10	23	2	0	23
11 地域軽道支援センター	19	9	6	9	3	1	0	1
12 児童発達支援	22	1	10	0	17	0	0	18
13 放課後等デイサービス	68	9	39	5	34	1	0	43
14 保育所等訪問支援	6	0	4	0	3	0	0	4
15 その他	5	1	1	4	1	0	0	0
16 宿泊型自立訓練	1	0	1	1	0	0	0	0
17 利用したことがない	17	12	5	2	1	0	0	0
無回答	9	1	4	5	0	0	0	0
合計	554	167	291	149	126	24	0	95

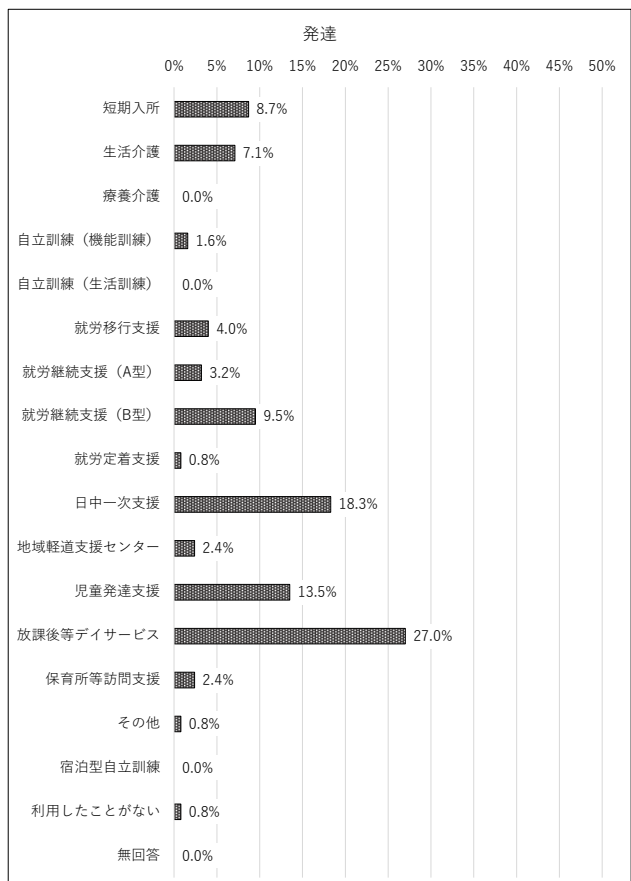
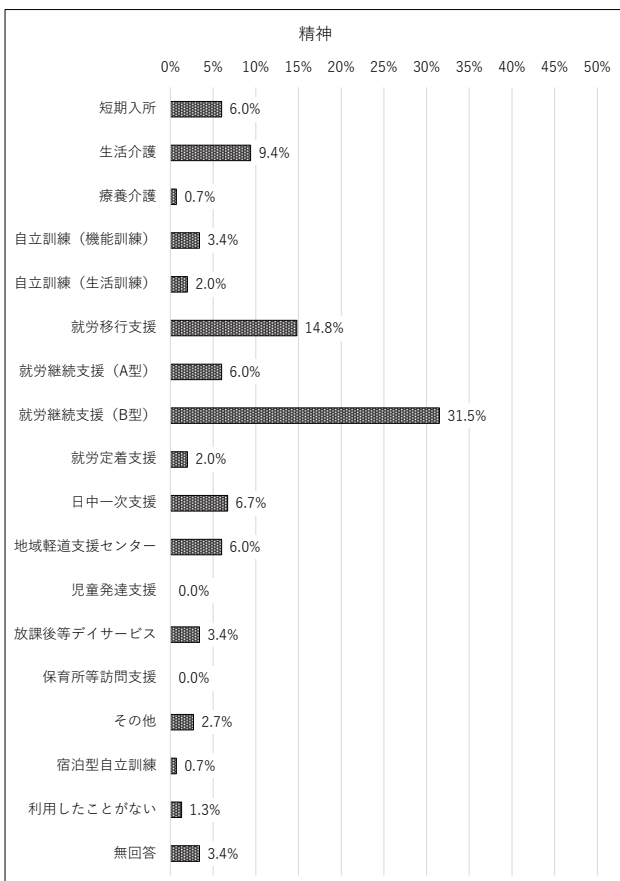
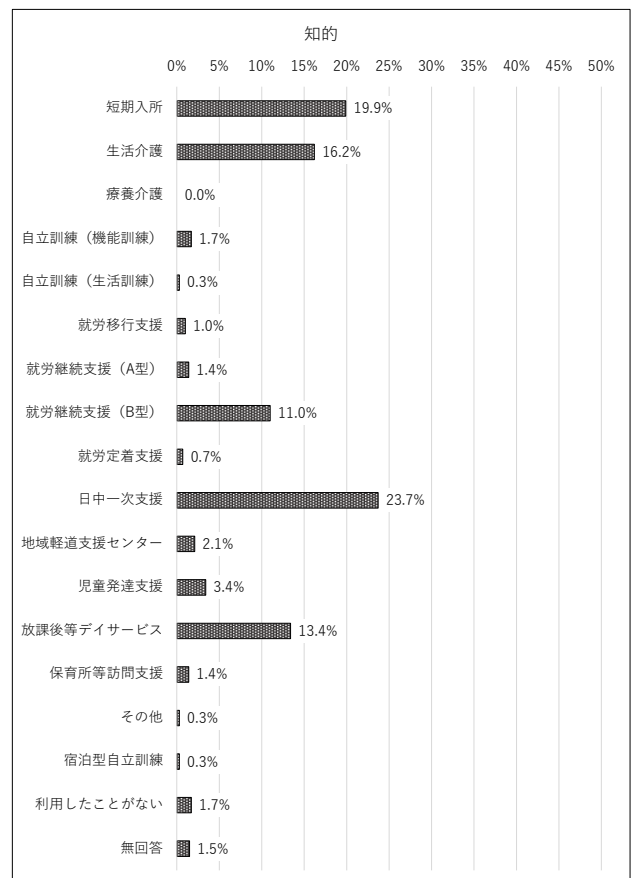
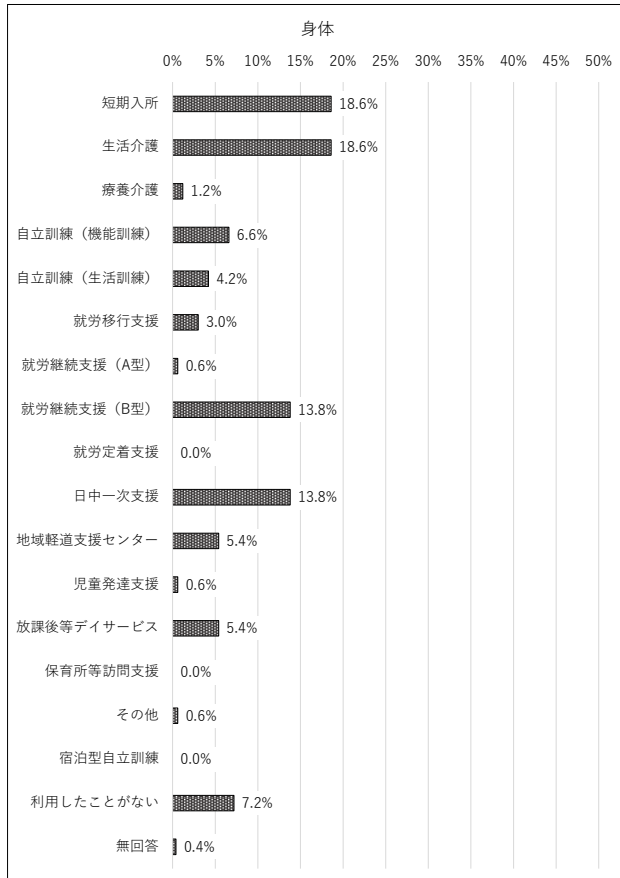
有効回答数：292

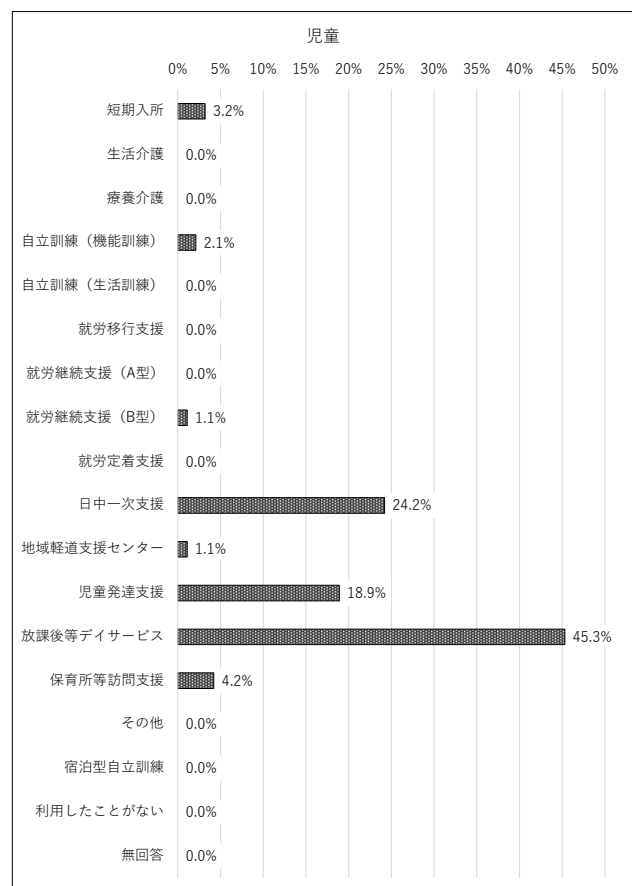
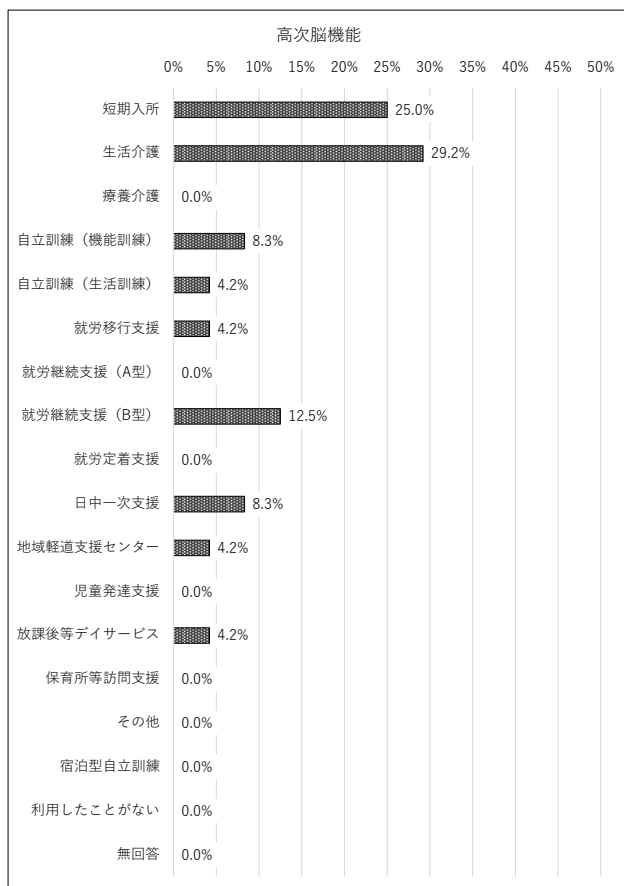
■全体に対する選択肢ごとの割合



「8 就労支援（B型）」が最も多く、1割半ばを超えている。次いで、「10 日中一次支援」、
「1 短期入所」の順になっています。

■障害種別ごとの割合





「身体」は、「1 短期入所」、「2 生活介護」が最も多くなっており、「知的」は、「10 日中一次支援」、「精神」は、「8 就労継続支援（B型）」、「発達」及び「児童」は、「13 放課後デイサービス」、「高次脳機能」は、「2 生活介護」となっており、利用したことがある日中活動系サービスは様々です。

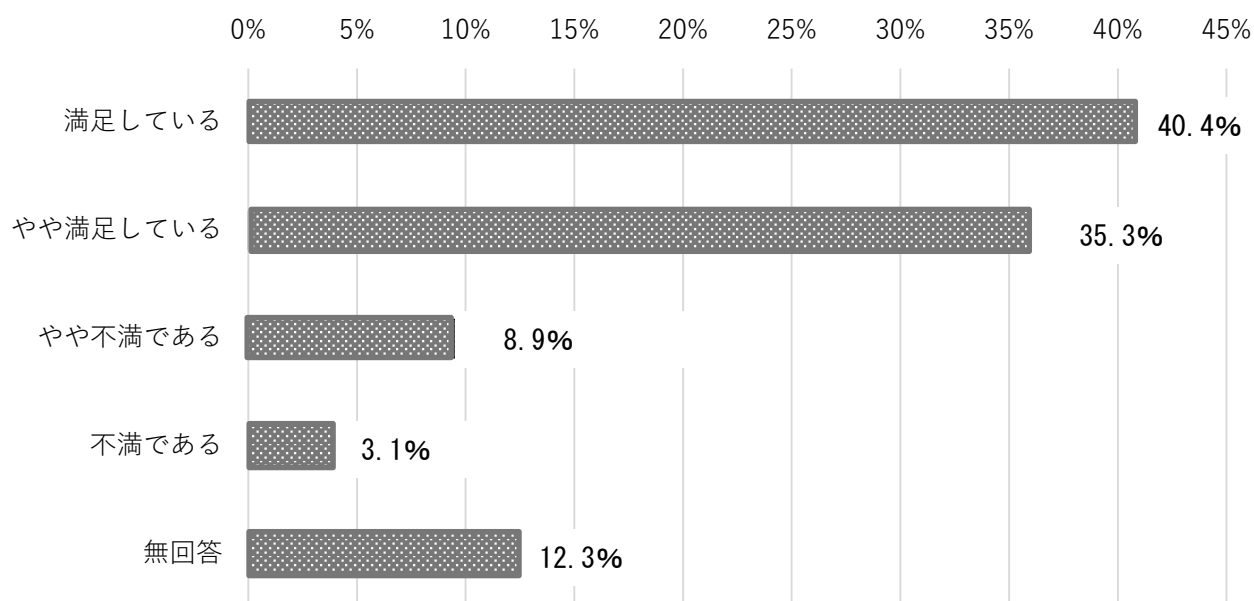
問 28 日中活動系サービスで受けるサービス内容に満足していますか。
(1つに○)

単位：人

選 択 肢	全体	身体	知的	精神	発達	高次脳 機能	無回答	児童
1 満足している	118	31	49	37	29	4	0	23
2 やや満足している	103	25	50	32	20	6	0	17
3 やや不満である	26	9	9	10	5	2	0	5
4 不満である	9	2	4	5	1	1	0	1
無回答	36	19	15	7	2	1	0	1
合計	292	86	127	91	57	14	0	47

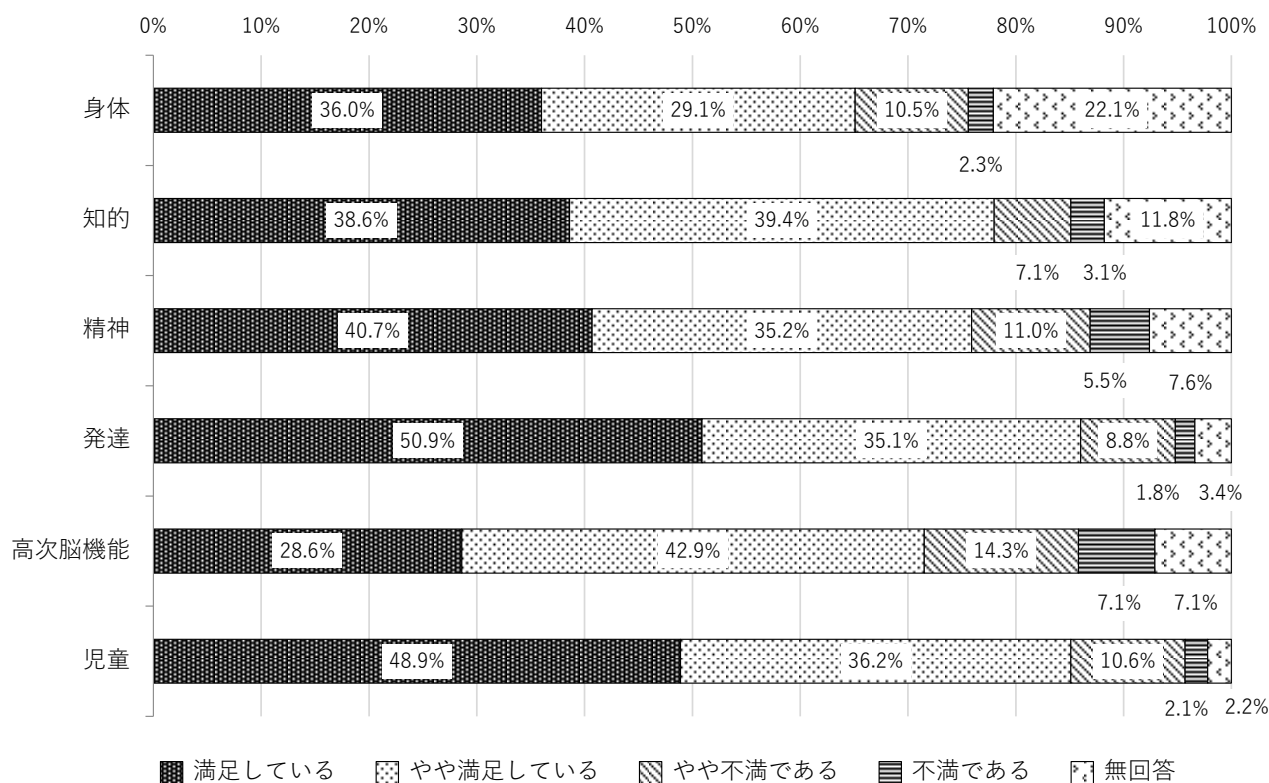
有効回答数：292

■全体に対する選択肢ごとの割合



「1 満足している」と「2 やや満足している」を合算した割合は7割を超えています。

■障害種別ごとの割合



障害別でみると、「1 満足している」と「2 やや満足している」を合算した割合は、「発達」が最も多く、86.0%となっており、8割半ばを超えています。次いで、「児童」が85.1%、「知的」が78.0%の順になっています。

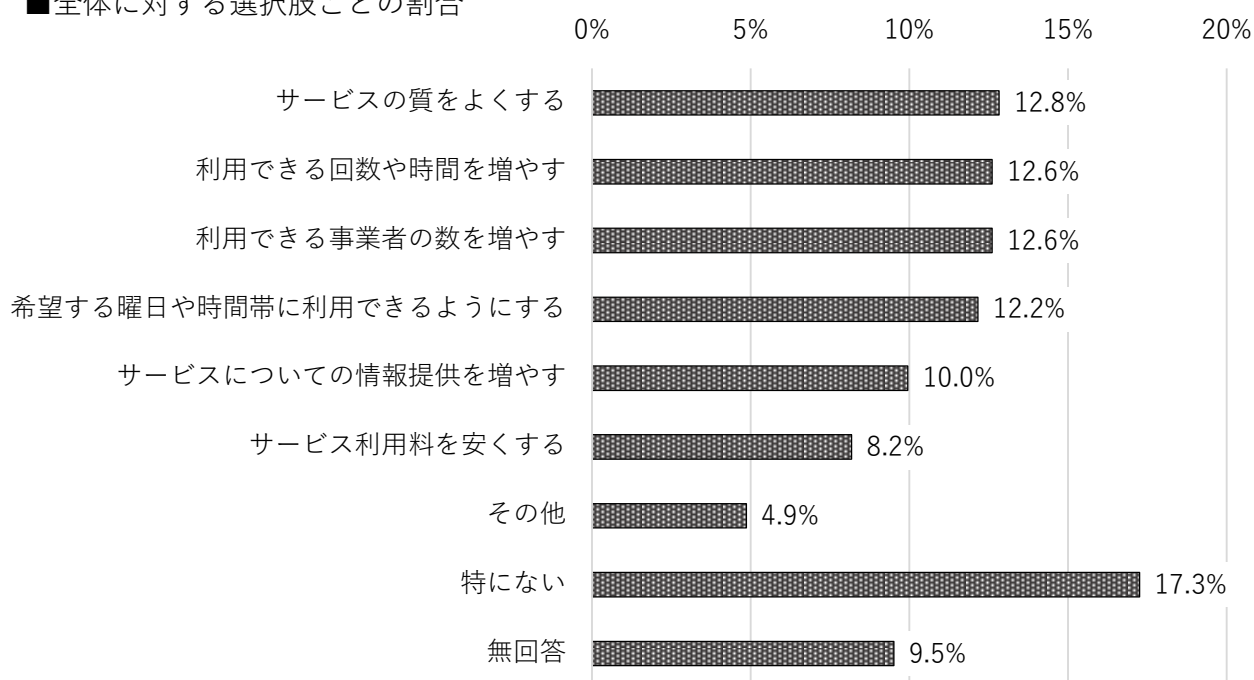
問 29 日中活動系サービスについて、あなたが改善してほしい
(こうなってほしい) と思うことは何ですか。(3つまで○)

単位：人

選 択 肢	全体	身体	知的	精神	発達	高次脳 機能	無回答	児童
1 利用できる回数や時間を増やす	57	21	34	13	12	4	0	14
2 希望する曜日や時間帯に利用できるようにする	55	14	28	19	9	2	0	13
3 利用できる事業者の数を増やす	57	21	26	22	11	5	0	10
4 サービスの質をよくする	58	11	26	19	10	2	0	8
5 サービス利用料を安くする	37	11	17	9	9	1	0	12
6 サービスについての情報提供を増やす	45	12	22	16	10	4	0	9
7 その他	22	5	7	7	4	2	0	2
8 特にない	78	20	27	29	18	2	0	8
無回答	43	17	21	8	6	2	0	5
合計	452	132	208	142	89	24	0	81

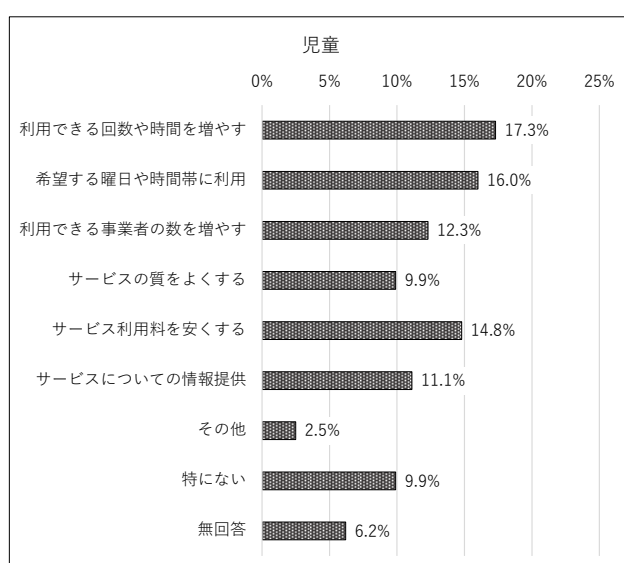
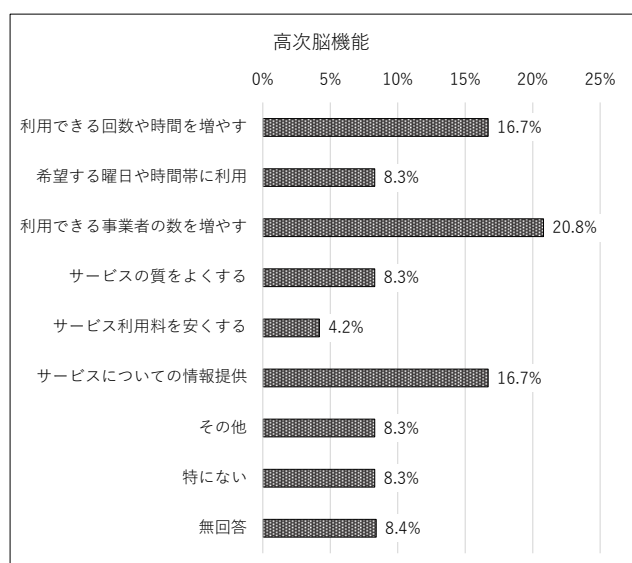
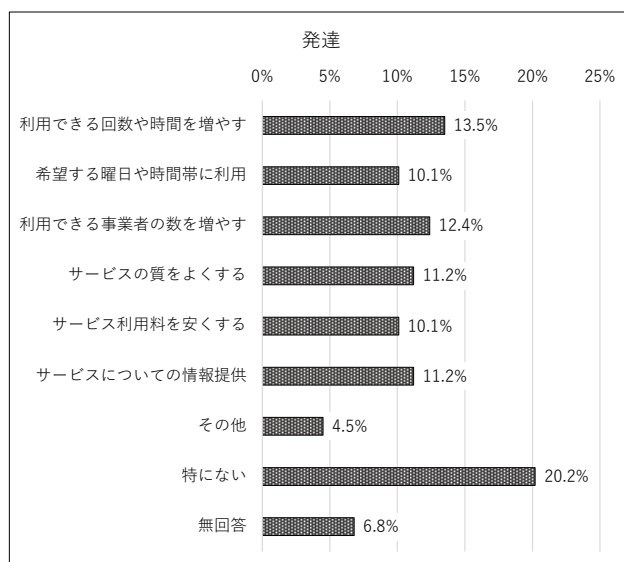
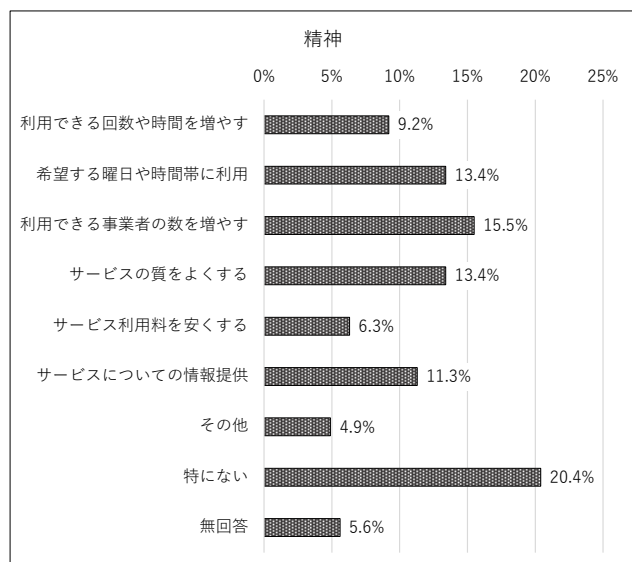
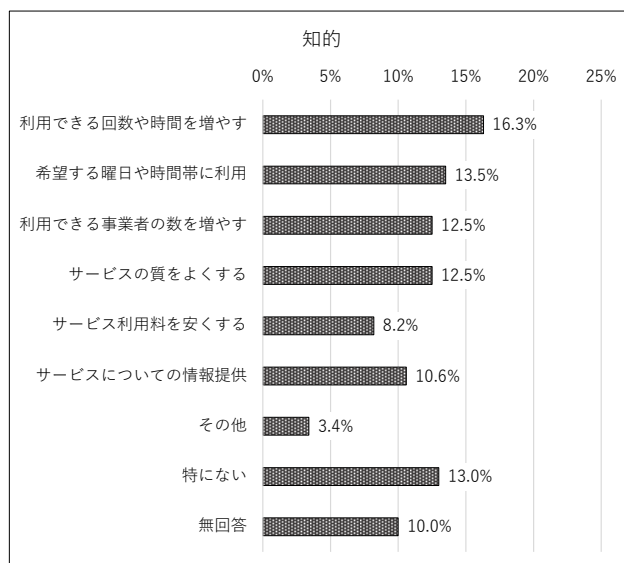
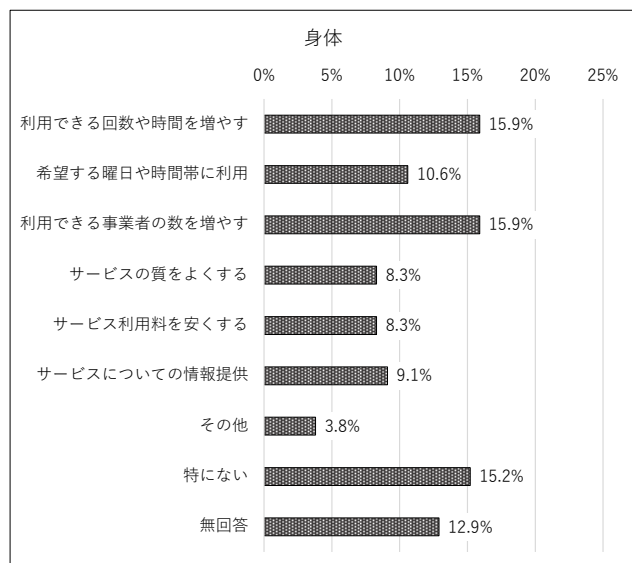
有効回答数：292

■全体に対する選択肢ごとの割合



改善してほしい項目として突出したものではありませんが、「4 サービスの質をよくする」、「1 利用できる回数や時間を増やす」、「3 利用できる事業者の数を増やす」、「2 希望する曜日や時間帯に利用できるようにする」が12%台となっています。

■障害種別ごとの割合



障害種別ごとに見ると、「高次脳機能」においては、「3 利用できる事業者の数を増やす」が最も多く、2割を超えており、事業者の不足を感じているようです。

⑤ サービス等利用計画について

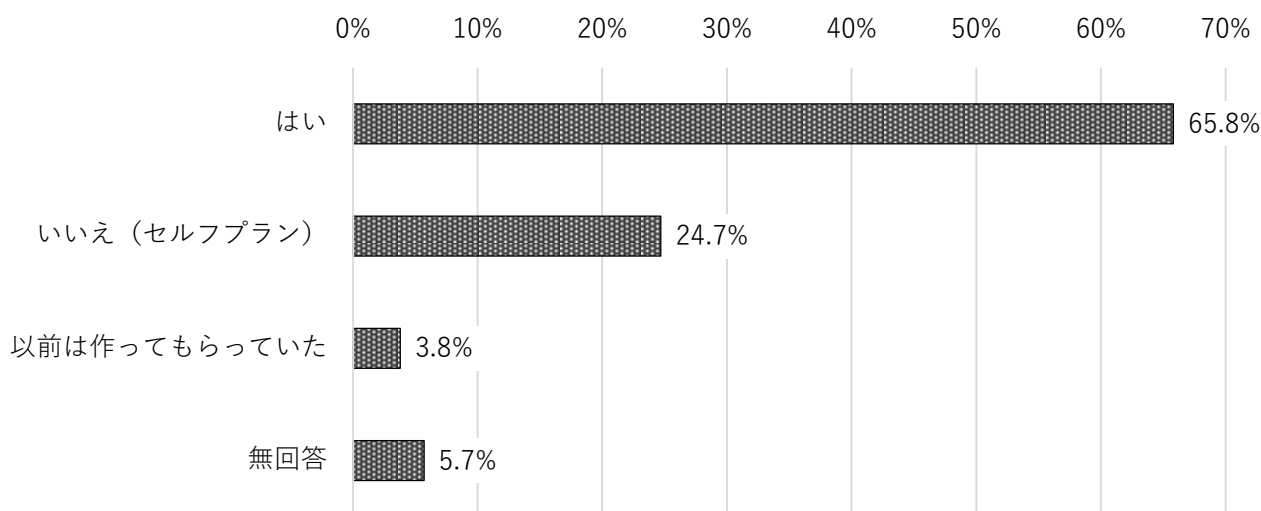
問 30 あなたは、サービス等利用計画を、相談支援専門員
(ケアマネージャー) に作ってもらっていますか。(1つに○)

単位：人

選 択 肢	全体	身体	知的	精神	発達	高次脳 機能	無回答	児童
1 はい	192	61	85	58	41	10	0	28
2 いいえ (セルフプラン)	72	18	29	25	13	4	0	15
3 以前は作ってもらっていた	11	4	5	2	0	0	0	2
無回答	17	3	8	6	3	0	0	2
合計	292	86	127	91	57	14	0	47

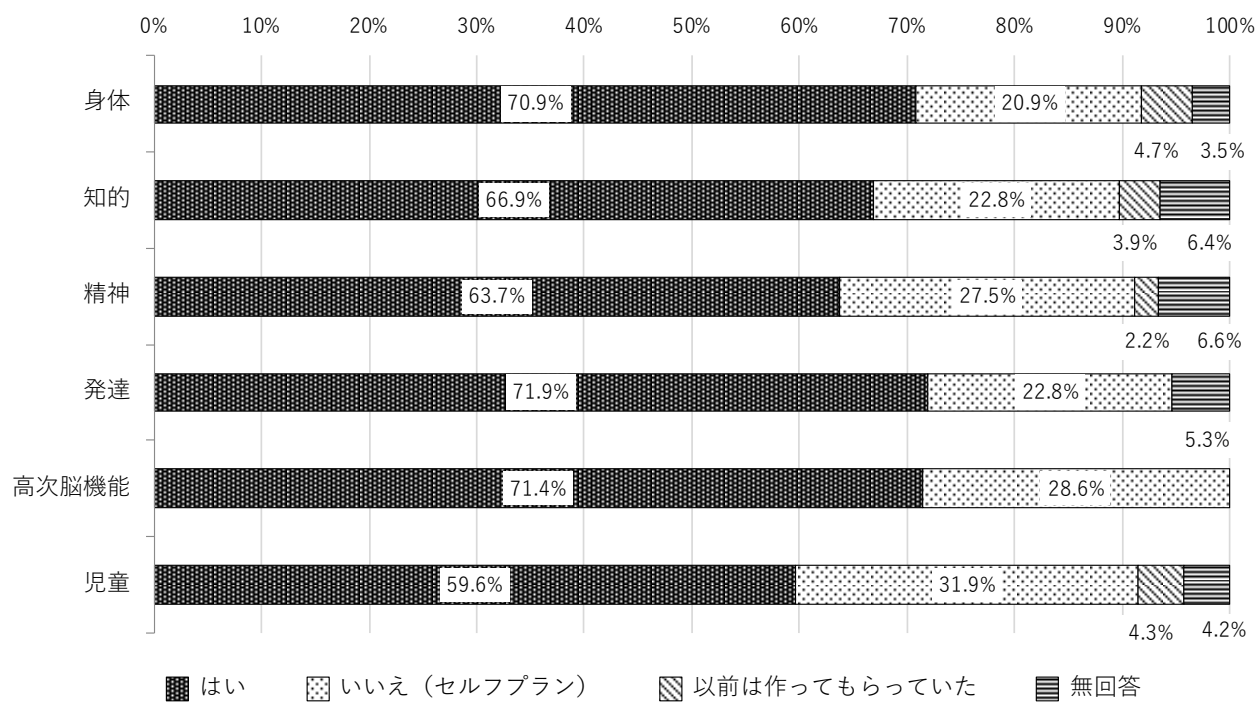
有効回答数：292

■全体に対する選択肢ごとの割合



「1 はい」が最も多く、6割半ばを超えています。

■障害種別ごとの割合



障害種別ごとに見ると、サービス等利用計画を作成してもらっている割合は、「発達」が最も多く、7割を超えています。

問 30 で「2.いいえ（セルフプラン）」「3.以前は作ってもらっていたが、現在はセルフプランである」と答えた方におたずねします。

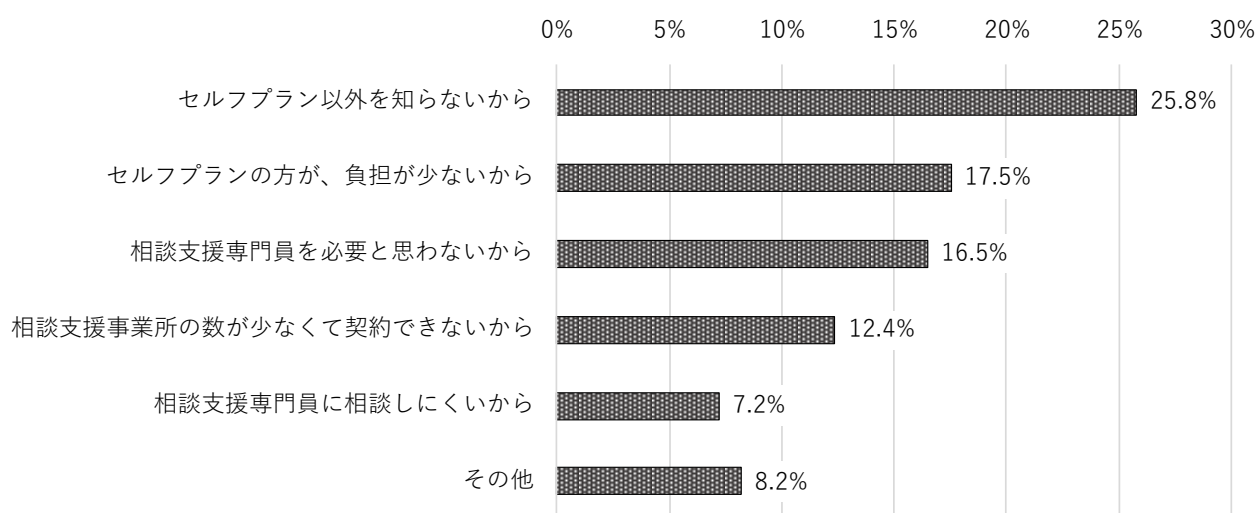
問 31 セルフプランの理由を教えてください。
(あてはまるものすべてに○)

単位：人

選 択 肢	全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能	無回答	児童
1 相談支援専門員を必要と思わないから	16	4	4	6	2	0	0	1
2 セルフプランの方が、負担が少ないから	17	4	6	6	2	1	0	4
3 相談支援事業所の数が少なくて契約できないから	12	4	7	2	3	1	0	6
4 相談支援専門員に相談しにくいから	7	4	2	2	0	3	0	0
5 セルフプラン以外を知らないから	25	3	8	12	5	1	0	5
6 その他	8	3	4	4	1	0	0	1
無回答	12	3	7	2	1	0	0	1
合計	97	25	38	34	14	6	0	18

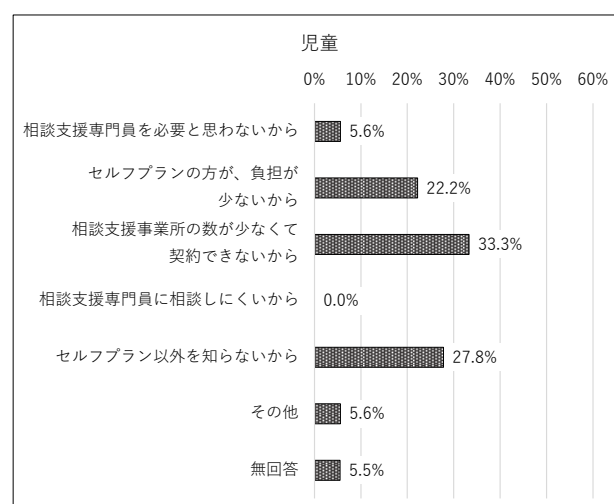
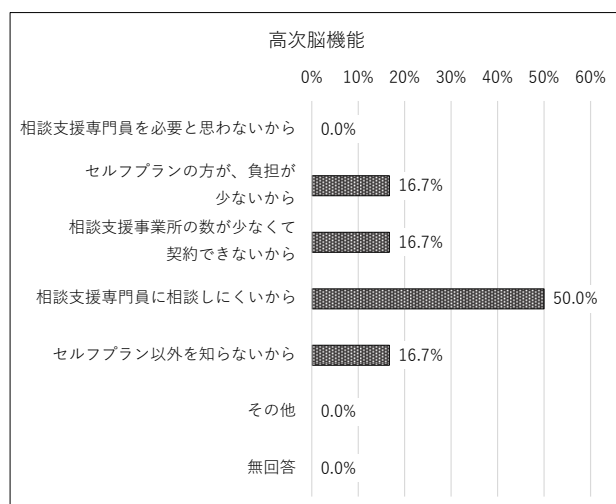
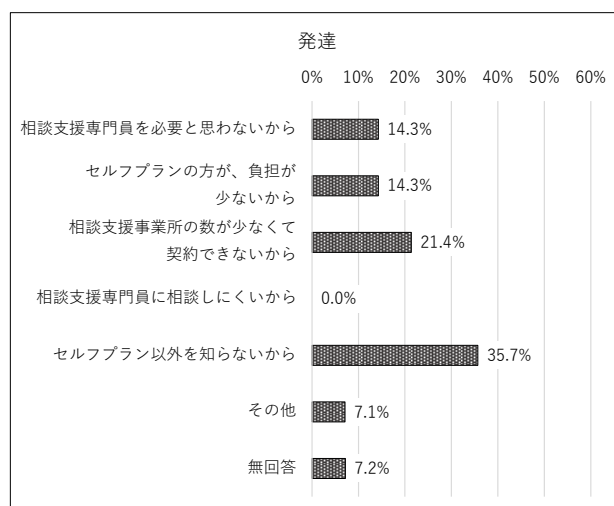
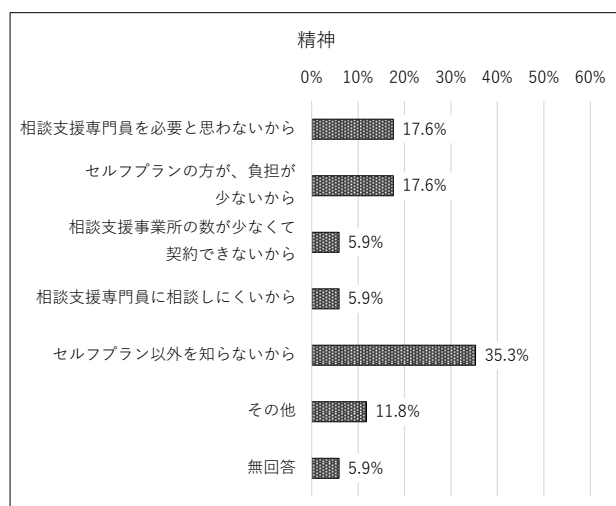
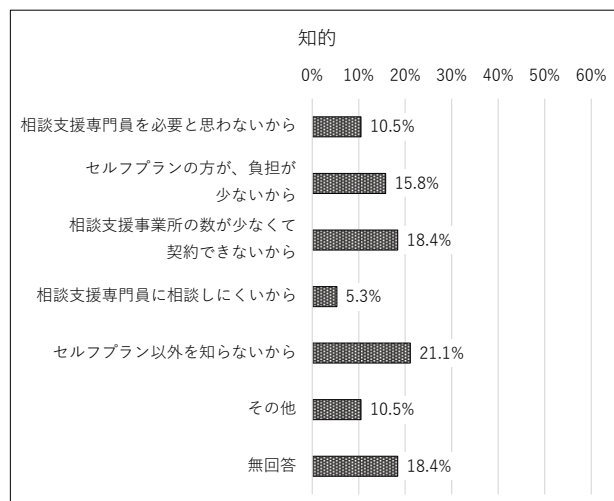
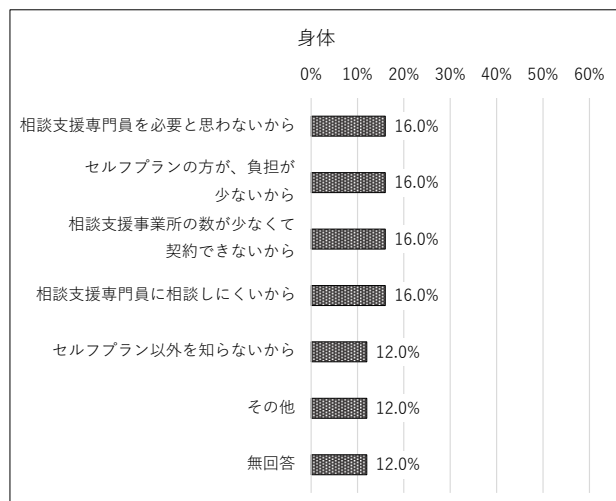
有効回答数：83

■全体に対する選択肢ごとの割合



「5 セルフプラン以外を知らないから」が最も多く、2割半ばを超えています。次いで、「2 セルフプランの方が、負担が少ないから」、「1 相談支援専門員を必要と思わないから」の順になっています。

■障害種別ごとの割合



障害種別ごとに見ると、「児童」においては、「3 相談支援事業所の数が少なくて契約できないから」が最も多くなっており、相談支援事業所等の増設等、検討が必要です。

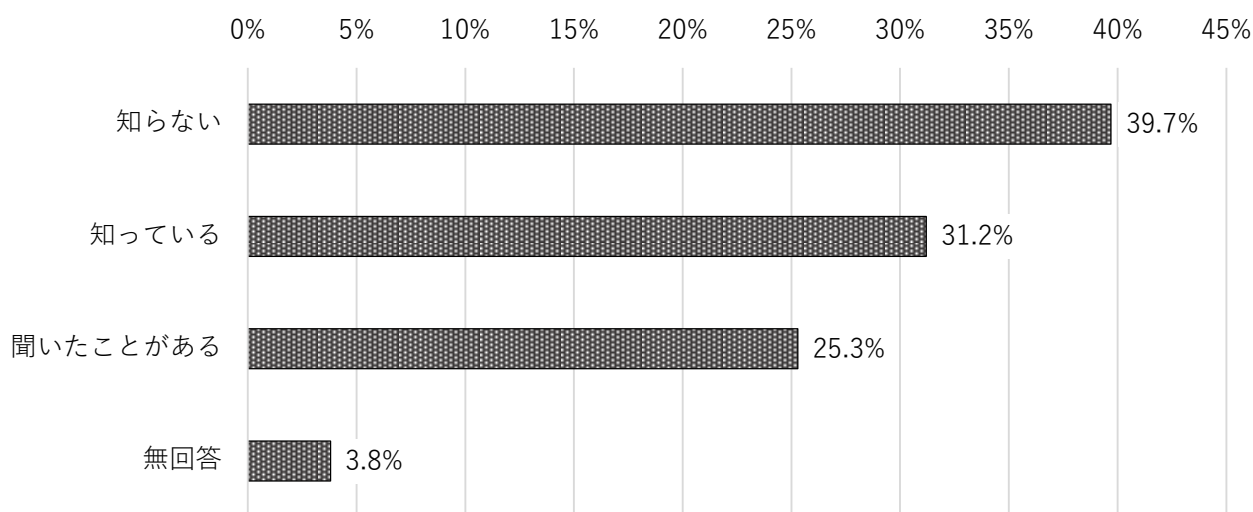
⑥ 成年後見人について

問 33 あなたは成年後見制度（次のページをご覧ください。）を知っていますか。

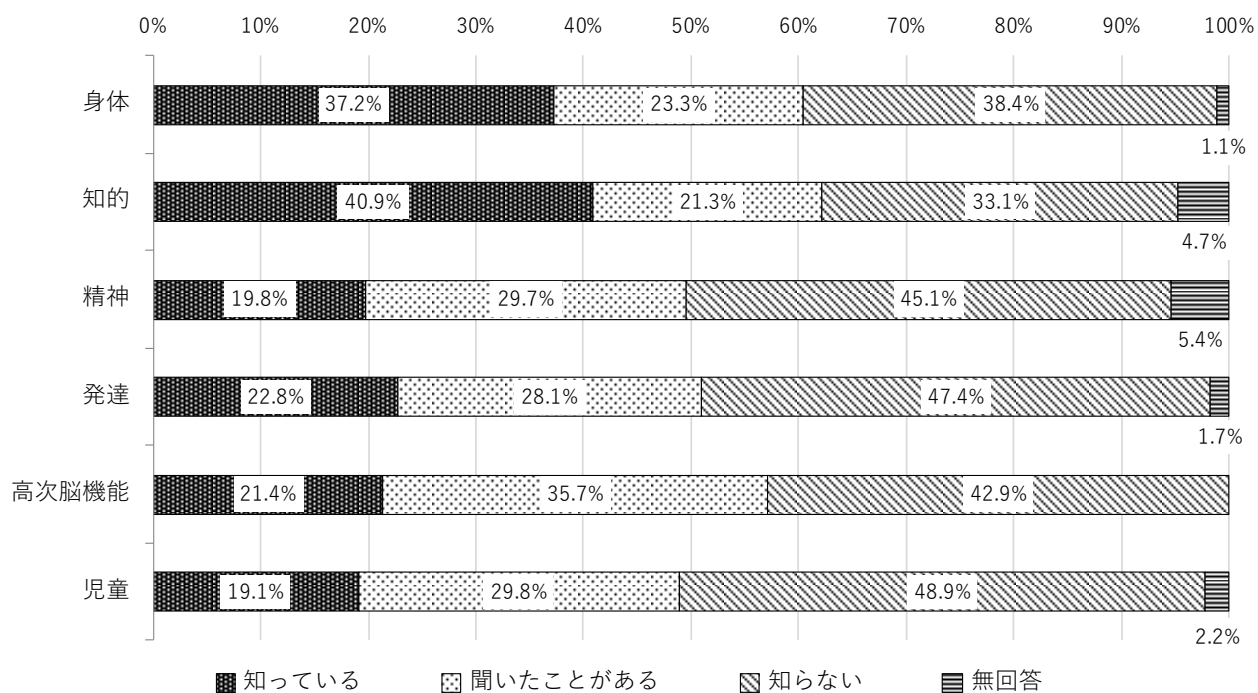
単位：人

選 択 肢	全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能	無回答	児童
1 知っている	91	32	52	18	13	3	0	9
2 聞いたことがある	74	20	27	27	16	5	0	14
3 知らない	116	33	42	41	27	6	0	23
無回答	11	1	6	5	1	0	0	1
合計	292	86	127	91	57	14	0	47

有効回答数：292



■障害種別ごとの割合



障害種別ごとに見ると、「1 知っている」は、「知的」が最も多く、4 割を超えています。次いで、「身体」、「発達」の順になっています。

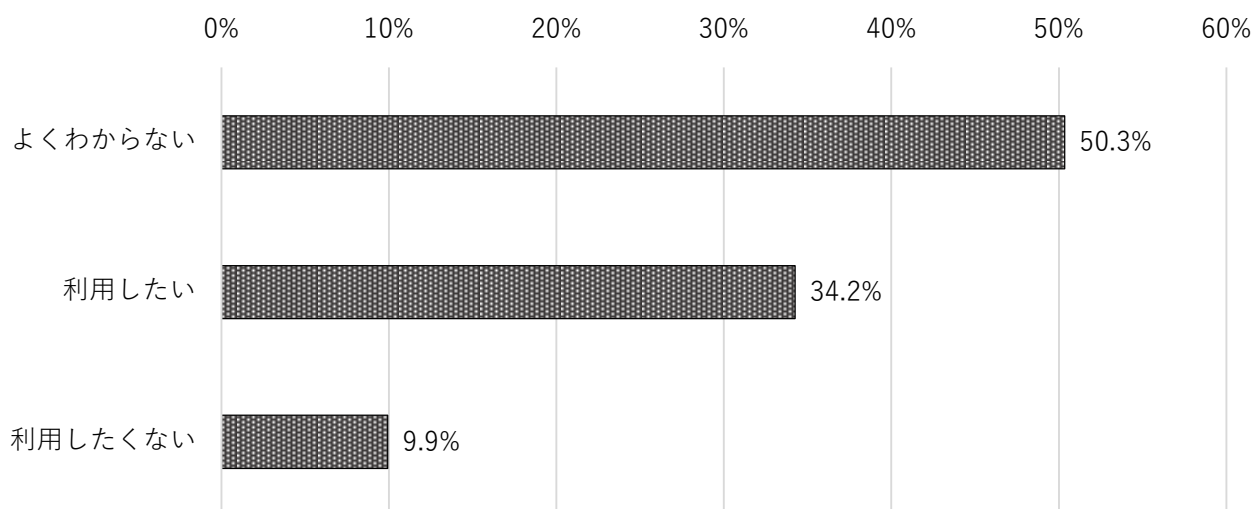
問 34 あなたは今後、自分の判断力に自信が持てなくなった場合、
成年後見制度を利用したいと思いますか。

単位：人

選 択 肢	全体	身体	知的	精神	発達	高次脳 機能	無回答	児童
1 利用したい	100	25	48	31	18	3	0	15
2 利用したくない	29	9	10	9	4	0	0	4
3 よくわからない	147	50	61	45	33	11	0	26
無回答	16	2	8	6	2	0	0	2
合計	292	86	127	91	57	14	0	47

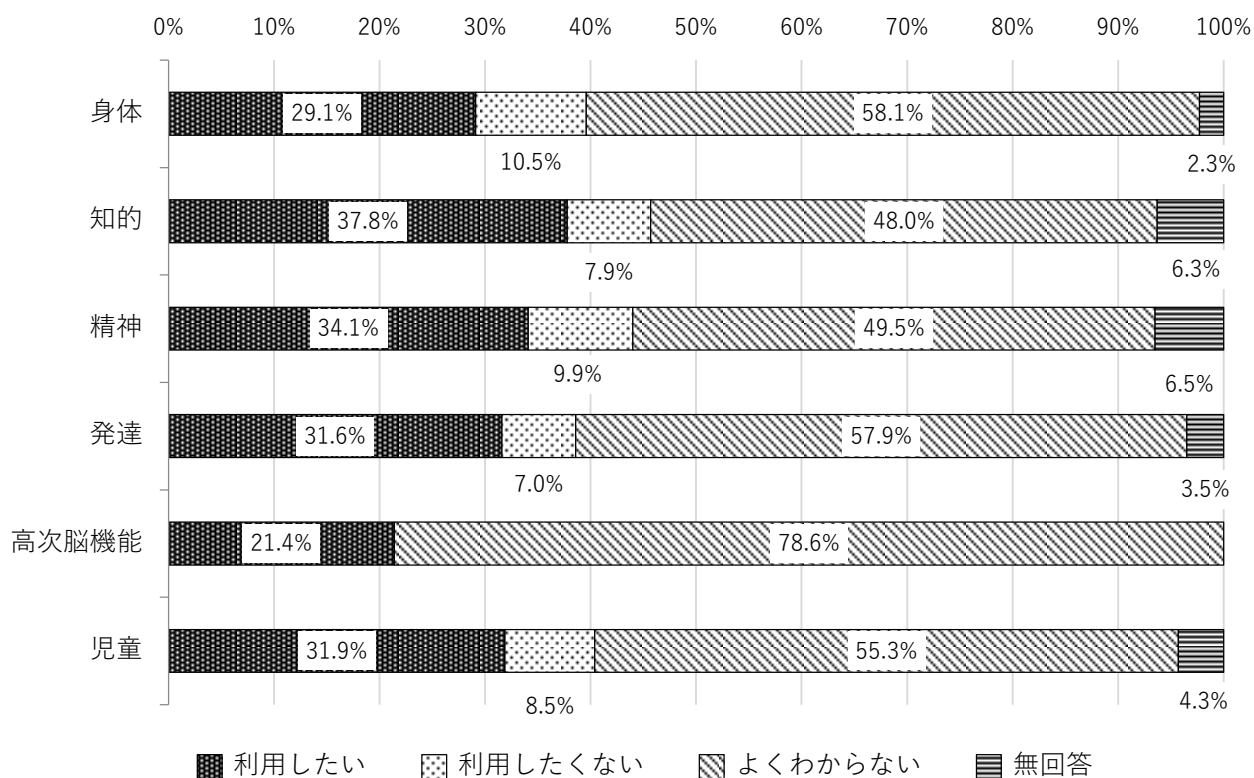
有効回答数：292

■全体に対する選択肢ごとの割合



「3 よくわからない」が最も多く、5割を超えており、「1 利用したい」は3割半ばとなっています。一方、「2 利用したくない」は1割未満となっています。

■障害種別ごとの割合



障害種別ごとに見ると、「1 利用したい」は、「知的」が最も多く、3割半ばを超えています。次いで、「精神」、「児童」の順になっています。

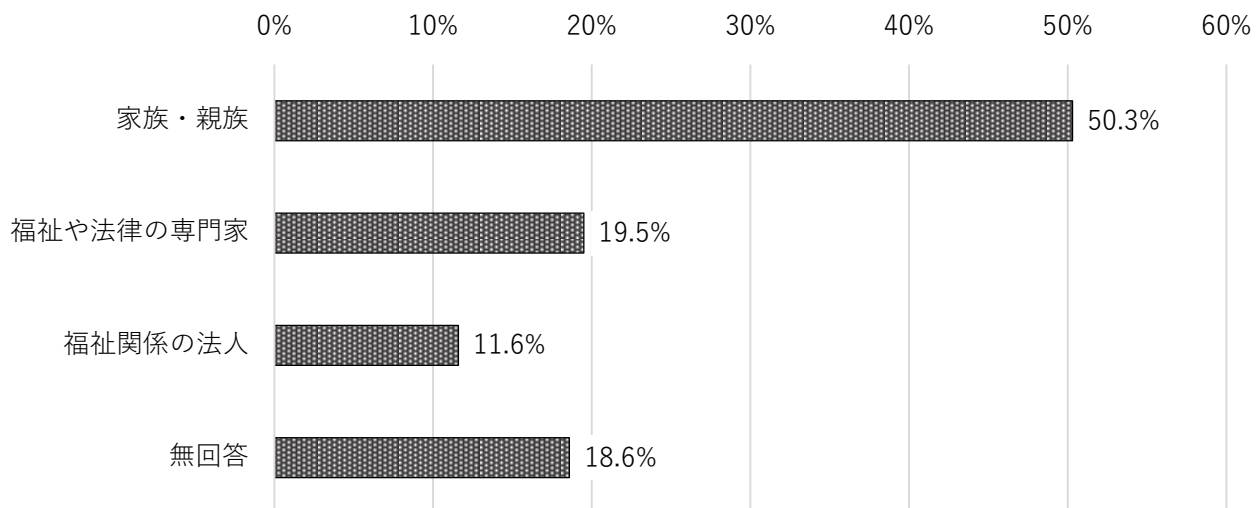
「3 よくわからない」は、「高次脳機能」が最も多く、8割に近くなっています。

問 35 成年後見制度を利用することになった場合、どなたに成年後見人等をお願いしたいと思いますか。

単位：人

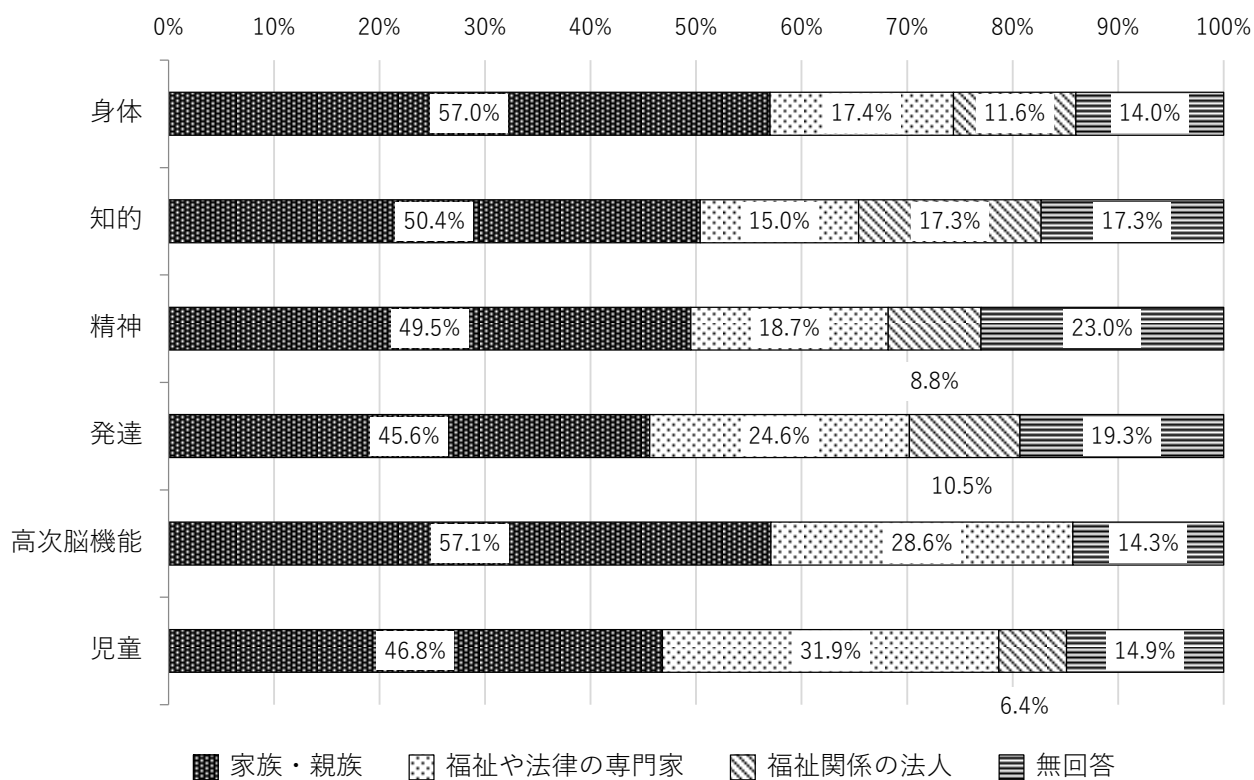
選 択 肢	全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能	無回答	児童
1 家族・親族	147	49	64	45	26	8	0	22
2 福祉や法律の専門家	57	15	19	17	14	4	0	15
3 福祉関係の法人	34	10	22	8	6	0	0	3
無回答	54	12	22	21	11	2	0	7
合計	292	86	127	91	57	14	0	47

有効回答数：292



「1 家族・親族」が最も多く、5割を超えています。次いで、「2 福祉や法律の専門家」、「3 福祉関係の法人」の順になっています。

■障害種別ごとの割合



障害種別ごとに見ると、「1 家族・親族」は、「高次脳機能」が最も多く、5割半ばを超えています。次いで、「身体」、「知的」の順になっています。

⑦ その他

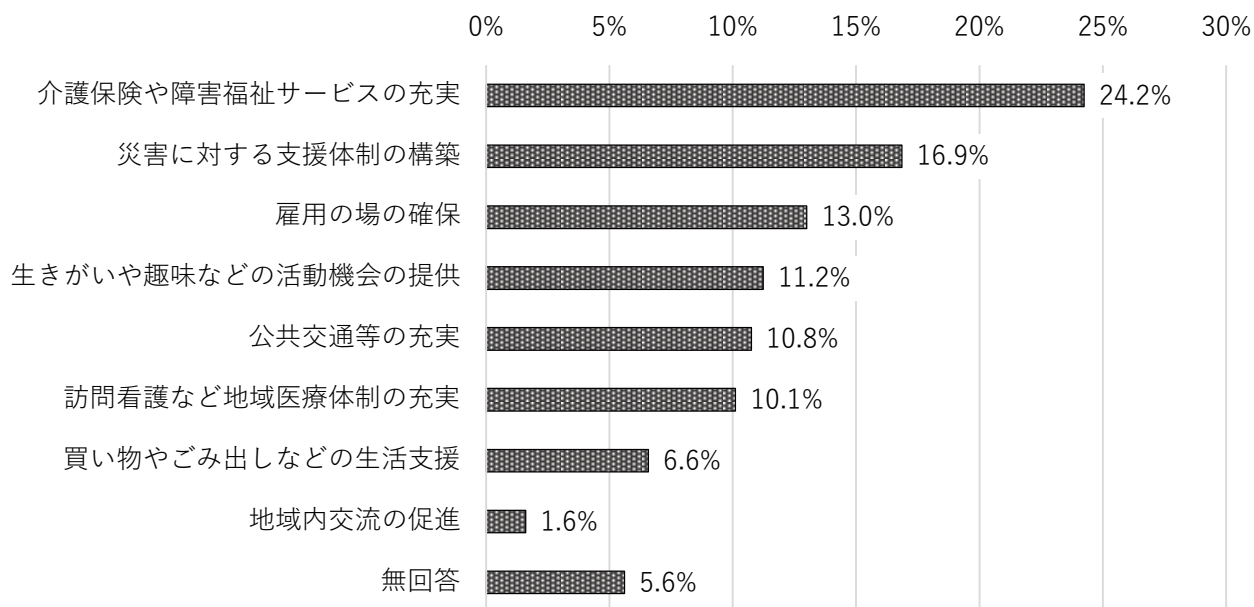
問 36 障害者が地域で安心して暮らしていけるようにするためには、
行政にどのような取組みを求めますか。（3つまで○）

単位：人

選 択 肢	全体	身体	知的	精神	発達	高次脳 機能	無回答	児童
1 介護保険や障害福祉サービスの充実	151	44	74	39	28	6	0	26
2 訪問看護など地域医療体制の充実	63	25	26	23	9	7	0	8
3 公共交通等の充実	67	16	23	31	11	3	0	7
4 雇用の場の確保	81	18	22	29	27	2	0	25
5 災害に対する支援体制の構築	105	36	58	20	22	4	0	16
6 生きがいや趣味などの活動機会の提供	70	24	24	32	11	3	0	10
7 地域内交流の促進	10	4	5	2	2	0	0	5
8 買い物やごみ出しなどの生活支援	41	13	17	15	9	2	0	7
無回答	35	10	15	11	5	2	0	4
合計	623	190	264	202	124	29	0	108

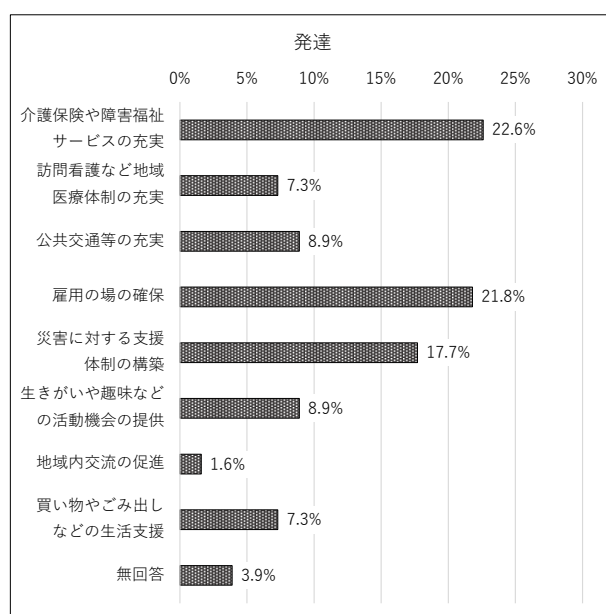
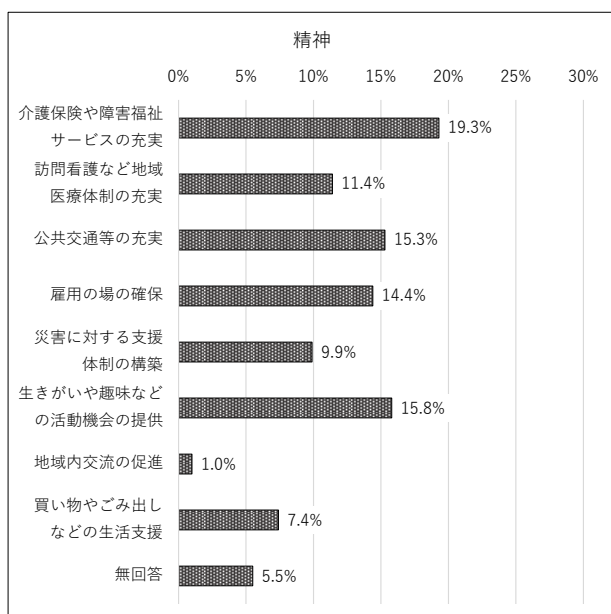
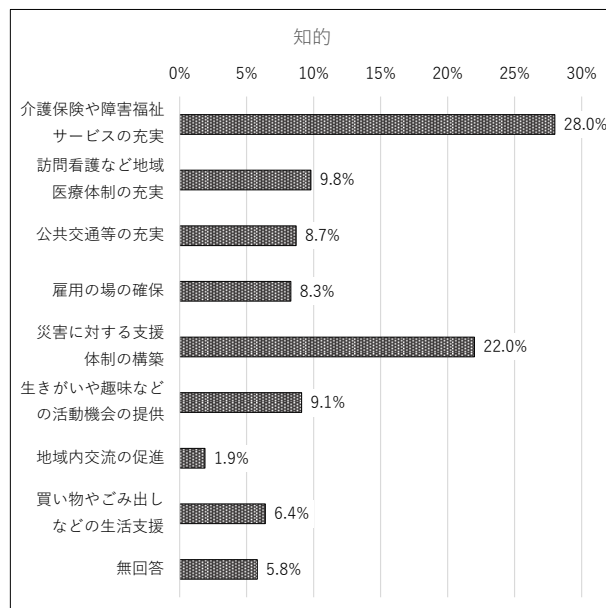
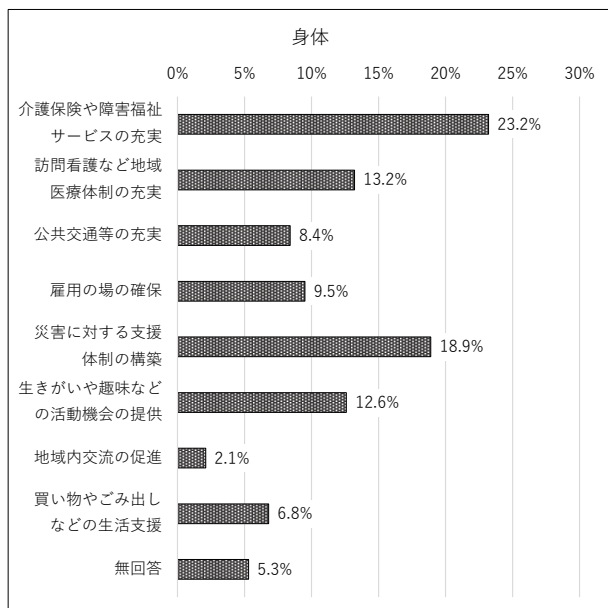
有効回答数：292

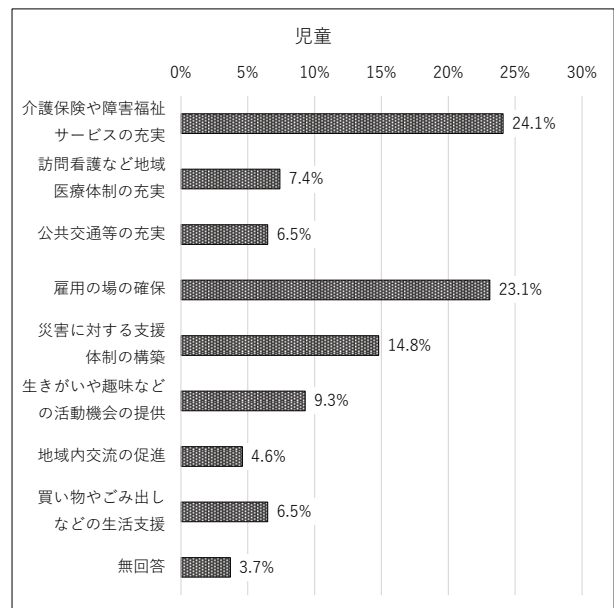
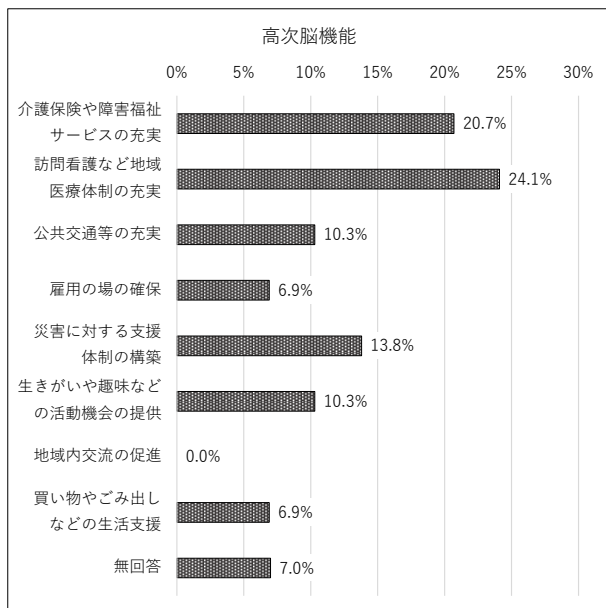
■全体に対する選択肢ごとの割合



「1 介護保険や障害福祉サービスの充実」が最も多く、2 割半ばとなっています。次いで、「2 災害に対する支援体制の構築」、「3 雇用の場の確保」の順になっています。

■障害種別ごとの割合





障害種別ごとに見ると、「高次脳機能」以外の障害では「1 介護保険や障害福祉サービスの充実」が最も多くなっています。

「高次脳機能」では、「2 訪問看護など地域医療体制の充実」が最も多くなっています。

問 3 7 障害者施策や障害福祉サービス全般について、ご意見等あれば、
ご自由にお書きください。

活動したい時や困った時にどこに支援を求めたらいいのか全ったくと言っていい程、わからない。困った時にこの困ったことはどこへ支援したらいいのか、使用料などすぐにわかる小冊子やパンフレットを作って欲しい。作成済であればどこへもらいに行ったらいいのか知りたい。

多くの企業の方々に障害者を受け入れて頂きたいです。

発達障害の正しい知識を持っている人が少ない。健常者とは脳の仕組みが異なることを理解していない人が多い。IQ のバラつきが大きいと何故大変なのか。特性的に苦手なことをさせられる苦痛や、単純な仕事ほど全くできないパターンがあること。専門知識を活用するような難しい仕事の方が特で、よくできるパターンがあることを知ってほしい。障害者雇用も単純な仕事だけでなく知識やスキルを活かせる仕事が増えたら嬉しい。

障害者になりたくてなった訳ではないという事を分かってもらいたい。図書館とか利用できる施設の事が良く分からない。

幸い障害年金の他に給与所得等があり、私は生活できていますが金銭的に困きゅうしている友人もいます。お金だけでなく障害者の生活や支援を必要としている事は人様々であり、バラバラなのかと身の回りを見て思います。そういった事の調査の一員としての本調査とは思いますが、市役所障害福祉課での相談内容等も含めて幅広くご賢察いただきたく宜しくお願い致します。問 24・訪問介護中

秦野市の障害福祉サービスのところが不便であり、また規模が小さくて分かりづらい。地図に書かれている場所も簡略されており、分かりづらいです。もっと充実してほしいです。市政でも、障害サービス、障害福祉について、話し合う余地がありますが、どうでしょうか？

僕達にこの国家における大切な障害福祉とは、一人一人の場面として、心の支えと、幸せと共に、利用する、その福祉が愛などがあり●●大切な福祉で、私達が●●自由で、明るい、平和の●で力合せて、社会で●く●●なって欲しい。

みんなが理解できるようにしてほしい

いつもありがとうございます。障害があっても、国籍が違っていてもどんな人も安心して暮らせる世の中になって行って欲しいです。

LGPT の人が、使えるように、トイレをふやしてほしい。

障害によっては家から出ることすら出来ない人がいます。そういう人にも、何かやりがいや、生きがいをあげてほしいです。自宅の自分の部屋で出来るようなことが、外に出ると出来ないのはツライです。引きこもりにも、どうか出来る仕事を作ってほしい。

精神福祉手帳では交通費が減額されません。身体や知的のように減額してもらえると活動が前向きにできます。短期入所できる施設がせせらぎしかないので短期入所ができる施設を増やして欲しいです。グループホームに行く練習やリフレッシュになると思います。車椅子を利用していた時期があるのでその時困った経験を書きます。お洒落重視で道をつくってしまうと道の凸凹でタイヤが引っかかって転倒しそうになります。段差が多く自走式の車椅子だと段差を越えられないこともあります。平らな道にしてもらえると安全に走行できると思います。小さなエレベ
本厚木から小田原にかけて、就労移行事業所の場所が少ない気がするので、増えると、待機する人も減って、活躍の場が増え、より良い就労にも繋がる気がします。
職場の障害者理解
障害福祉、とても広い分野だと思います。1 くくりには出来ないものだと感じます。社会の中で生きていく為には、一人一人の能力を高めていくことに加えて、どんな課題を持っている人たちでも、受け入れることのできる姿勢(障害特性に適切に対応できる専門的な機関)が必須だと思います。ただただ、受け皿を増やしていくだけでは、ハード、ソフト面と足りない。専門的なスキル、経験を持つ機関をつくることに目を向けることから、考えていきたいです。問 15 その人、場、それぞれによると思います。ひとくくりできないと思います。問 35 まだ考えられない。
市で配っているヘルプマークが紙で雨でぬれるとやぶれたり文字がにじんでしまうのももう少し丈夫なものにしてほしい。
行政や福祉サービスの情報の共有、動画等配信。障害を伴う子ども、家族に対して情報が将来成年に向けて、少ない様に思う、地域への情報、タウンニュースでも何でも人に見えるところ、理解。行政や福祉サービスを利用する時、手続きが多い(紙、書類提出物がこれだけでも利用しにくい)の改善、わかりやすいように、必要最小限に。
私の息子は市立小学校にお世話になっています。支援級クラスでは先生に本当に良くしていただき、一度も小学校に行くことを嫌がったことがありません。放デイや移動支援も使っていますが、そこのスタッフさんにも大変お世話になっていて感謝しています。現状、大きな病気をすることもなく元気にすごしていますが、たまに風邪をひいたとき病院につれていきたいなあと思うものの、発たつ障がい理解あるクリニックをみつけることがむずかしいなと感じるときがあります(←歯医者なども)医療的なところで、安心して通えるところがあったら嬉しいです。
情報が入りにくい。自分からあちこち聞いてまわらないと、わからない事が多い。
利用者が安心して選べるようになって欲しいです。書類の多さや自ら申し出ないとサービスが分からないことが多く、個人につき 1 人専門の方がアドバイザーになって誰でももれることなくサービスを利用できるようにして欲しいです。
後見人の解除を本人が成人したとき、自分でできると良い。實際上、困っている人がいます。助けてあげてください。
グループホームにおいて、心落ちつける住環境(個室の確保、個室面積)を行政が要綱等で規定する事。グループホームに従事する「世話人」の賃金水準の上昇と人材育成

療育とは幼稚園(保育園)や学校では補えないところを支援する場所だと思っている。しかし、幼稚園(保育園)⇔児童発達支援の施設 ・学校⇔放課後デイサービスと直接のやり取りができない。壁がある。例えば、幼稚園での様子やこんな形で指導をしている、児発では、こんな様子で、こう指導している、こんな悩みで指導方法をどうしているか、等やり取りをしてもいいと思う(必要であれば) ・幼稚園(公立)では加配(補助)がつくと児発の利用日数が半分に減らされてしまう、園生活で補助が必要なのでついている。ついているからこそ療育が必要。
病院(精神科)薬は、お金がかかるので収入で決めるのではなく一律にしてほしい、自立支援医療証をもっていても高い。 ・高校生まで医療を無料にしてほしい
公立学校の支援を充実させてほしい、放課後デイの先生が学校訪問の提案しても断られる。(小学校も中学校も) 正直学校よりデイの先生の方が本人のこと知っているので情報共有してほしかった。もう中3なので遅いですが。在宅支援のお金ありますが、ただだけないよりはいいのですが 物価高とうしている中で、在宅生活維持するために、もう少し金額検討してほしい。サポート校進学のための助成金みたいなものと助かります。
かんがえられません。
秦野の訪問介護のレベルが低すぎます。老人のみとり看護だけでなく、若い障害(特に重心タイプ)もきちんと観られる看護レベルを求めます。
自立支援を利用させて頂き、ありがとうございます。おかげさまでコロナ禍の中でも、ヘルパーさんに来て頂いて、寂しい思いをせずに、又、コロナ禍前と同じように、やって頂いたのがありがたく思いました。
①生活介護事業所に通う交通費について 生活介護事業所に通う多くの人たちは自己負担での交通費がかかりません。それは地域の事業所に通うことができるのでドアツードアで事業所に送迎してもらい、その送迎費は事業所に加算がつくシステムになっているからです。しかし、障害が重く介護度が高いこと等故に地域に通える生活介護事業所がなく、また、通えたとしても利用できる日数(曜日)が少ないため、やむを得ず遠方で地域外の生活介護事業所に通っている人がいます。当然、地域外なので事業所の送迎エリア外になってしまうため、自宅までの送迎は
障害者の事御理解おありだと思いますのでこんな事も有り書き聴いて下さい。一昨年? 町内会長様民生員様より障害者が居る事を組一同皆様に伝える様言われました(近所の方々は知っていると思います)。私(母)は何故との問いに市の防災の方から言われているとの答でした。そこで私は町内会を抜ければ良いのかと問いに同じ事だと言われました。町内会長さんに、では災害時はどうして下さるのかの問には答はありませんでした。丁度グループホーム入所の話が有り現在に至っておりますが、町内会長さんが何でそんな権利があるのか無学の私には理解出来ません。

この様なアンケートを取ったところで障害者や家族の希望が叶う事はなく、アンケート事態こちら側の手間がかかるだけ、特に身体障害 1 級の者は入居施設も少なく、自宅で生活するのも思いどおりにならず、こまやかな、本人とのやりとりもできていないです。形通りにやっているだけなら、迷わくです。
ヘルパーさんとか、おれにかかわってくれる人たちは、がんばってくれてるから、これからもけいぞくしてもらいたいです。あとは、くるまいすバスケットできないかなと思ってます。
・特定の事業所を利用している人だけ移動支援をたくさん使えている実態があるので、不公平を感じます。・通所先の生活介護事業所で入浴ができるようにして欲しい。訪問入浴だと週に 2 回しか入浴できないし、ヘルパーさんも人手不足だし。・車椅子の人が安心して暮らせるグループホームを作って欲しい。
息子は就 B ですが、電車やバスなど 1 人で乗り降りさせるのに不安があります。通所先とグループホームがもっとリンクして近くなったり通じ合ってもらえると安心です。
日頃からの障害福祉課の皆様にご心より感謝を申し上げます。私個人として申し上げたい事は私の家庭では 2 人暮らしです。私(老人)が息子の介護を毎日継続してる訳ですが今は全て出来ますが明日は訳らない。その為全ての手続きが不可能だと思います。もし万一の時はそのまま私がいなくても継続出来れば安心ですが不安がよぎります。後見人をお願いする事が今は依頼するつもりはないです。
生活介護以外の福祉サービスは、あまり利用したことがなく、親の高齢化もあり、安心出来るサービス向上を望みます
障害をもつ本人が何に困り、何をどうしたら生活の改善がみられるか、このようにアンケートをとって、現実の状況を理解して下さる(していこう)ことありがたいです。知的障害で、口数も少なく、何をどう困っているか本人の様子や生活、等々を見て親が(又は施設の方)察するのが現状です。行政と私たちの間は、まだまだ遠く、ちょっとした悩みや思う事を、まず気軽に話せる場所、そういう方たちが増えて下さること、気にとめてもらえる所ができたらと常々思います。(本人に変わり親の意見のひとつとして。)
成年後見をつけるのは、いいけど、中には、あづかった、ちょきんつうちょう、はん、カードなどつかう人がいあて、あとでトラブルになるから考えてしまう
同じ障がいを持つ人達でお料理や外出などできる交流の場を作ってほしいです。
知的障害 B1 の(強い)自閉症です。福祉施設に継続支援(B 型)で就労しています。知能検査は平均値となるので、得意な物があると実際より高い結果が出ると思います。中度(B1)ですが、一人で外出したり、日常の身のまわりの事も介助なしでは出来ません。収入は、工賃で 1 万円～2 万円です。重度の方(A)とサービス内容(負担額、医療費、年金)が違いすぎるのに不安を感じています。
一緒に書類作りをしてくれる職員さんがいないと何も自分ではできない。このアンケートもひとりでは分からない。
相談支援員の人数が少ない為か、対応に不満。本人をあまり見ずに、電話で済ませることが多い

アンケートの内容が難しくわからない事が多かった。
障害者が手術や骨折等、治療や入院が必要になった時、本人や家族の意向に耳を傾けて、患者の事をもう少し思いやりを持って接してほしい。
精神疾患の事など気軽に勉強できる機会か病気に詳しい人に質問できる機会があれば良いと思う事があります。
・地域に職員常駐型のグループホームの整備をお願いしたい。・各障害間の壁が厚いと思う。(特に施設利用面において)・制度自体は多種にわたっているが、いざ利用するとなると、制約が多く利用しづらい。・法令の一律適用ではなく、個々の障害者に合わせた適用をお願いしたい。
現在グループホームに入居中で、日中活動を週3日行っているが、週3日ではきつい。週2日、週1日の活動も認めてほしい。グループホームは良く、いつまでも居たいが、週3日の活動が入居の条件となっている。活動量の少ない人のことも知ってほしい。自宅では趣味をしていて、充実した生活を送っている。
就労支援B型事業所に、現在かよってますが、工賃が6時やって1000円と安すぎます。他の作業所も同様、工賃が安すぎるので、もっと工賃を上げてほしいです。
以前、就Bにてサビ児管と相談支援専門員の資格をとりました。そこでの自分以外のスタッフ(経営者含む)の障害理解の皆無さに絶望し、一人で教育と支援をしてました。過労のような状況で適応障害となり、現在もうつ病で仕事できず、少ない貯金でストレスを抱えて生きてます。神奈川は、津久井やまゆり園のことも反省できてないですし、知的障害と精神障害の無理解さに困ってます。社会資源のそんな知らない人も多く、自分も研修を受けなければ死んでたはず。社会資源について、もっと認知度を高める努力をしてほしい。
身体の障害は外見からもわかりやすいものも多いが精神の障害は外見でわかりづらいものも多く理解されにくいし、福祉関係の方でさえ、心無い言葉を使われる。また、その傷口も目では見えないのである。外傷は時がたつと自然と消えるが心の傷は深く刻まれ、目には見えないまま残り続ける、福祉により救われる人が増えると良いと思います。
海老名市や相模原市などでは障がい者手帳をもっていると医療費受給者証？(医療費が無料になる)が出るのに対し、秦野市ではその様なサービスがない。抗精神薬の副作用で遅発性ジストニアになり、医療費がとてめにかかるので、そういったサービスがほしい
働く場所や年れいに関係なく、いろんなお仕事が出来るようになればと思います。
土・日に利用できるフリースペースがあると良い。
障害年金について、初診日前に納付をしていないと受け取れないのが不公平に感じる
精神障害3級は何も給付金はもらえないし、交通機関の援助ありません。貯金もないし、家族から援助しないとされた人間はどうやって生きていけばいいのですか？3級は障害年金も支給される可能性はゼロに近いです。死ぬしかないとは思えません、自殺するしかないってことです。
将来が不安なので、利用できるサービスをうまく活用しながら生活できると良いです。

支援学校に在籍しているので、障害福祉の制度や、サービスや進路のことを学校に相談している。今、相談できるのは、学校とサービス利用計画を作成していただいているケアマネージャーの方だが、卒業後は相談先がケアマネージャーの方だけになってしまうので、気軽に相談できる場所がもっと多いと心強いです。今後、手厚く、質の良い介護が受けられると安心できる。また、もっとサービスを受けられる日数や時間帯が増えると家族が介護に拘束される時間が減り、他の活動にも時間を注げる。そのためには、介護士さんなどといった介護に関わる職種の方
知的、発達障害児者が、避難所にいこうと思える取り組み、ガイドラインをお願いします。パニックなどで落ち着けるスペース 1 つでもあるときっと助かります。現状、災害が起こったとしても避難所には、行けない、行かないと考えている保護者が多くいることを理解していただけると有難いです。調査で終わることのないよう願っています。
障害福祉サービスにより助けられています、感謝しています。大変なお仕事だと思いますが、受けられる側としてありがたいと思っています。家族としても同じ思いでいます。いつもありがとうございます
・障害福祉の利用料を安くする・トラブルが発生した場合は障害者も同じ刑を受ける・年れい層を広くする(利用の)
・特別児童扶養手当の所得制限を撤廃してもらいたい。自己負担金などでお金がかかったり、身のまわりの用品をそろえるにもけっこうお金がかかる。・高等部を卒業したあとに肢体不自由児(者)を受け入れてくれるサービス(通所施設や入所施設)を秦野市でも増やしてほしい、肢体の子は在宅ケアのケースが多い。・障害者(児)をもつ家族の気持ちを理解し、より添った支援をして下さる方が障害福祉課にいて下さると本当にありがたい。※以前は療育相談員の方がとても親身になって話を聞いてくれたが子どもが大きくなったら全くノータッチで悲しい思い
幼稚園によって、子どもの発達についての理解や対応のしかたに差があるので、全体的に理解度が上がれば、どの子も安心して通えると思う。加配の先生も、ただ付きそうだけでなく、その子に合わせた働きかけができるようになると、子どもにとってより良い刺激を受けられると思う。また、担任が熱心でも、園自体の雰囲気によって環境が整いづらいこともあるので、子供たちが過ごす場所全てで、子どもをあたたく支えられるような、しくみができるとう良いなと思います。
現在 14 才の子供ですが、一番大切だと感じているのが、母親に対しての心のケア、支援だと思います。情報提供はもちろんの事、母親の安らぐ場、悩み相談の充実、一人の時間が持てる支援があったら良かったと思います。特に幼児期に母親の支援を積極的にして欲しいです。あの頃は不安で辛かったです。とにかく一人で休息が取れる支援が必要だと思います。家事代行等、母親を助ける事が子を救う事になります。
市の HP を見ても知りたい内容が見つからない。例)・保育所等訪問支援を小学校で受けるにはどうしたらいいか。・通所受給者証の更新について

私が B 型事業所を利用しようとした時、あまり秦野市がバリアフリーが整っていないことが分かりました。私が車いすを利用して、選択肢が少なかったですが、今の B 型事業所に通っています。もう少し B 型事業所のバリアフリーをよくしてほしいです。
活動に感謝致します。今後も活動を更に改革を目指して取組んで下さい。
障害支援区分の更新時など認定調査が行なわれる際、本人の障害の状態がなかなか理解されないこともあり(普段の実際の状態よりも軽く判断される)毎日の本当の状況をきちんと理解され、伝える事の難しさを感じた事があります。
・雇用の場所を確保してもらいたい・市役所で清掃・企業との連携・短時間でも出来る環境・通勤手段の確保(団体タクシーによる送迎)・障害者であっても、勤労する事は義務である事が基本で考えて頂きたい。
障害支援体制の構築は漠然とした捉え方で、障害者 1 人々その状況は全て違う、これを 100%に近い満足を得ることは、人員設備制度費用に限度がある。その中で健常者障害者の隔りのない体制理解が求められると思慮される、その辺りの底辺理解をさらに深めて頂くことでより社会的理解を含めた何上実現につながるのではないかと
本人は重心で車イス、オムツ、ミキサー食等全てに介助を必要とします。発語もありません。中学生頃になると親が子供をもち上げられなくなり、夜間徹夜で子供を見守っていました。ショートステイがなかったら親は今生きていないです。幸い子供は現在入所できていますがショートステイ、長期入所先が全く足りない状態です。重心の長期入所を各施設で(病院)選出するのではなく県が決めると言う神奈川方式を見直してほしい。福祉について予算がないのではなく他国へばらまいているからないのです。市民の力ではどうにもならなくても予算が足りないのでは
私(本人の姉)が若い頃に比べれば、障害福祉制度も周囲の理解も進歩したように思います。しかしながら、家族なき後の心配はやはり今もつきません。行政の取組みも地域の助けもさらに障害者によりそったものになることを希望してやみません。乱文乱筆の解答で申し訳ございません。少しでもお役にたてれば幸いです。
成年後見人制度は近い内話を聞かなければと思っておりますが、今昼間は施設に、夜はその施設のグループホームに入所に、金(夜)～土日は家で生活しております、グループホームに支払う金額は障害者年金では 15,000 円位足りず他にも出費等があり、月 3～4 万位は親の不担になります、後見人を司法書司等にお問い合わせすると、又 3 万位はかかると聞いております 計 7 万位かかると親の年金ではとてもやっていけません 貯金を取りくずしても何年もつか？それが心配です 姉はおりますが、将来姉に迷惑がかかってはいけないと思い行政にお願いするし
自立支援と言いますが、重度の障害の子共の親なき後の事が心配です。生活において介助なしでは生活出来ません。ケアハウスなどもあちこちで出来ていますが満足出来る物はない様な気がします。障害者が老後入所出来る老人ホームの様なシステムはないのでしょうか？
私の子供は高度の知的障害とてんかんを持っていて、今回は父の意見で書きました。読み書きなど出来無く、交通手段も使えません。本当に将来が不安です。

代筆ですが、後見人制度の利用料を安価にしてほしい。年金が 2 級でも工賃が少ない人も利用できるようになってほしい。区分認定の程度と療養手帳のレベルが違う人にも対応してほしい。療育手帳が B2 でも就労できるとは限らない・2 つの障害が重なっている人は重度医療が受けられない・医療費が 3 割負担がきつい。不公平なのではないか。就労が難しいのに 3 割負担は厳しい、せめて 1・2 割にしてほしい。
自分から情報をもらいに行かないと利用できるのに知らなかったことでできなかった場合がある。障害者やその家族は情報難民になりやすいので、受けられる制度等を個別で教えてもらえたら助かります。
・家族(母)も高令化しているので足の確保が出来ない為コミュニティバス等の利用が欲しい・書類等の申請も簡けつにお願いしたい(出向くのが大変のため)
自分の親亡き後がどうなるのか?調べた所によるとグループホームらしきに入らされるのか疑問です。障害者基礎年金の条件がいまいちよく分からず、自分は、そもそも療育手帳を持っている時点で貰えるのか?障害の知識が浅くて申し訳ありません。
本人に知的障害があるため質問の意味の通じなかったものなどは解答していません。
高齢の親と障害の自分とが共に地域で暮らせるような介護サービスと障害福祉サービスのひとつになる
自治体ごとでなく、日本全国どこへ行っても、同じ水準でサービスを受けられるよう格差を無くして欲しい。
・障害といっても種々です、常に障害施設の何たるかを住民に知らせたい・(自分の家や知り合いに障害者がいる場合とそうでない場合はかなり隔差がある、その穴を埋める意味でも、障害者に対しどんな行政はサポートしているかなども知らせてほしい
・両親の死後の生活について(どこで暮らせば良いのか?そこで幸せに暮らせるのか?お金がなかったらどうなるのか?)など将来の不安に対して適切な情報や支援が受けられることを切に望みます。自閉症者の受け入れをしてもらえる所を探すのも大変で、今のところ全く見通しを立てていません。
障害福祉と家族と秦野市の環境に支えられ、穏やかに暮しています。現在は、施設に通所して休みは公民館や図書館へさんぽして家族(主に母親)と共に繰り返す生活です。変化の少ない、静かな暮らしですが、この暮らしに安心し自然に笑みを浮かべています。この暮らしが長く続きますようにと願っています。暮らしを支えるお仕事をして下さり、ありがとうございます。
作業施設に入所しました 9 月
・障がい者雇用の平均給与・年収の増額。・障がい者が気持ち良く働く為の職場環境作り。・上司からのパワハラ発言又はセクハラ発言の禁止。
秦野市の障害福祉は充実しており、感謝しています。但し、障害者に対して高度な医療が出来る歯科診療所が秦野市内にあればとても助かります。(三次医療機関のこと。横浜や厚木には有ります。

このアンケートを含め、毎年の手続き等自分では出来ないことが多いです。手続きは以前に比べ、スムーズにはなっていますが、よりスムーズに行えるようになったらよいと思います。
現在は両親の家から B 型事業所に通っていますが(夫と別居し)一定の年齢になると家ですごさなければなりません。両親が高齢のため 1 人になったときが心配です。あまり貯金がありません。
・成年後見制度について。(親の意見)・信用できない。・信頼できない。全国のニュースを見て、思います。
成年後見人制度はなるべく家族に頼みたい。まだ 30 代なので平均寿命まで生きると 50 年、報酬が 1000 万以上になってしまう。障害者年金から出すのはつらいと思う。
思っていること、考えていることなどあっても改善されるとは、なかなか思えません。
将来の住まい方:現在は父母と暮らしているが、将来に不安がある。一人では暮らせないので誰とどこで暮らしたらいいのかわからない。
事業所 A では、バランスかんかくがよくなった。きんにくついた。体をうごかすサービスがあって、よかった。事業所 B では、細かいさぎょうよくなった。障害者割引用パスモ(半額になる)があるといい。自分で切符を買えない。難しい語句が多くて本人にはほぼ理解できなかった。いろいろなことを本人に説明するのにもっとわかりやすい名称があるといいですね。
現在は施設入所(知的障害者施設)であるので日常は比較的静かに暮らせている。親無き後については施設で暮らせるので安心なところがある。
いつも感謝でありがとうございます。とても助かっています。年齢を重ねて遅ればせながらでございますが、前を向いて進んでいます。これからもよろしくお願いします。最後まであきらめる事なく努力を続けて大きな目標を達成しようと決心です。敬白
身体障害や精神障害にしても作業所がすくなすぎて、生きづらさを感じています。
秦野には障害者雇用をやっているところが全然ないと通所している就労移行支援のスタッフに聞かされてがっかりしている。そうじゃなくても世の中精神障害者の理解がもう少し進んで欲しいと思う。生きづらい。